

*Le Jeune Alpiniste  
de L'Etoile du Matin*

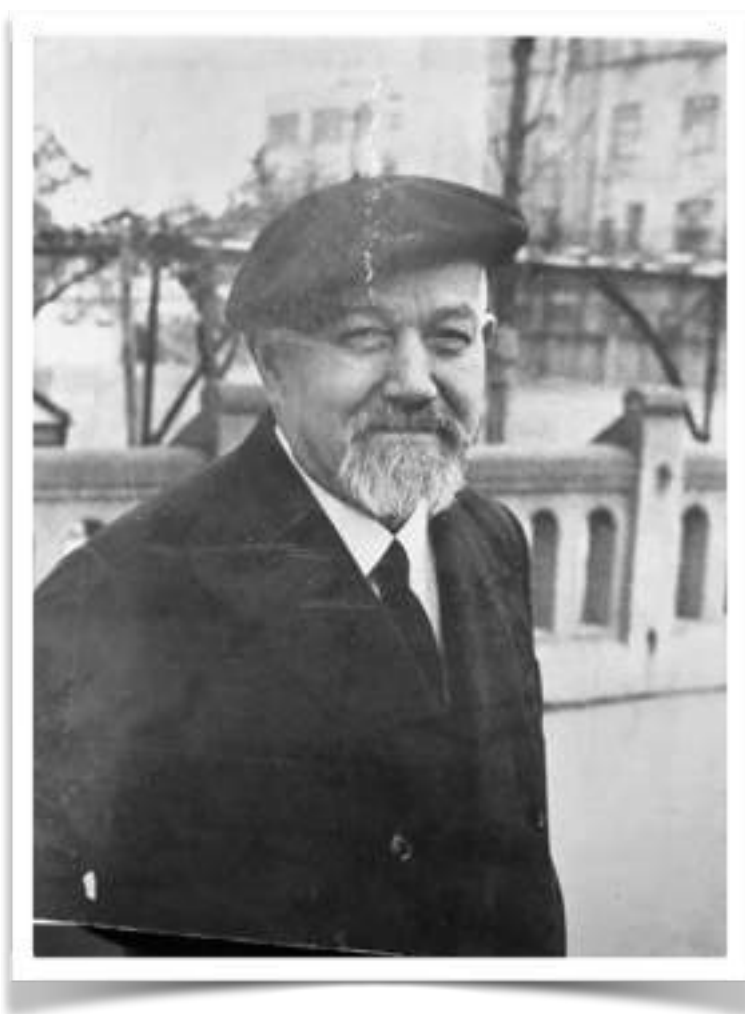
*Rapport 1  
1914~2000  
2ème édition*



曉星山岳部



“タイトルは故ヘグリ先生命名”



ヘグリ先生（1890～1988）Albert Haegeli アルザス ヒルゼンハイム 生。

マリア会修道士。1919年12月、29歳の時訪日。翌年暁星学園の教諭となりフランス語と英語を教えた。1971年の退任まで50年の長きにわたり教鞭をとり、教え子は4,000人を超える。柔和な笑顔とユーモア溢れる会話で皆に愛された。一時、聖ヨゼフ学院、長崎聖マリア学院でも教えた。日本においては関東大震災、第二次世界大戦そして戦後の混乱期を経験した。先生の長年の外国語教育の功績に対して、日本およびフランス両国より、レジオンドヌールをはじめ四つの勲章を授与された。

写真は1960年の同窓会誌 第6号の表紙より転載した。ヘグリ先生70歳の時。



## 部歴創刊号 第2版 発刊に寄せて

部歴の創刊号が発刊されたのは、暁星山岳部OB会が再興された2000年（平成12年）の翌年でした。OB会初代会長中村泰徳氏の指揮のもと、小浦雅敏編纂委員長以下、柴野邦彦副委員長その他各年代を代表して8名の編纂委員が集まり、OB会の総力を挙げて完成しました。

編纂委員の情熱と多くのOBの協力により貴重な資料が集まり暁星山岳部の歴史を明らかにすることができたと思います。本年、部歴2号が発刊され、創刊号では欠落していた資料を加えるとともに、2011年（平成23年）3月までの山岳部の歴史を綴ることができました。

今回、部歴創刊号の在庫がなくなったことにより、内容を一部補完訂正して第2版として刊行することといたしました。創刊号と2号が揃うことにより、暁星山岳部の歴史を俯瞰することができるようになったと思います。また、今回暁星山岳部（当時 山岳会）の創設年を1914年と同定できましたことより、表紙の記載、1909～2000を1914～2000に変更いたしました。

今年2018年（平成30年）は明治維新より150年、日仏修好条約160年にあたります。暁星山岳部も1914年（大正3年）創設以来すでに104年経ちました。

その一世紀にわたる歩みと我が国の近代史を照らし合わせるとなかなか感慨深いものがあります。

暁星学園では2013年（平成25年）に創立125周年を迎え多くの記念行事が進行しています。部歴創刊号の第2版発刊が、暁星の運動部の活動の記録としてささやかながら花を添えるものとして感じていただければありがたく思います。偶然にも、アストラ倶楽部も今年創立100周年にあたり記念誌が発刊されました。

最後に、部歴創刊号の編纂に尽力していただいた、中村前会長以下、編纂委員の諸氏にあらためて衷心の謝意を表するとともに、今回、部歴2号の発刊に引き続き、創刊号の第2版発刊にご協力いただいた加藤賢朗 部歴2号編集委員長、平井宏 同編集委員、佐野聖文 同編集委員に感謝いたします。

2018年12月 平成最後の年末に

暁星山岳部OB会会長  
太田慶樹 1970年（昭和45年）卒

## 部歴発刊にあたり

暁星山岳部OB会が発足して二回目の総会を控え、ここに待望の暁星山岳部部歴が発刊される事は、会長として最大の喜びであります。設立総会に際して、私は暁星を母胎として、登山を通じて自然と接し、良き山仲間達と共に成長できた者の一人として、その時代、その時代に、孤立して存在した暁星の山仲間の輪を、繋ぎ合わせ一本の鎖にしたい、とお話いたしました。

時代によっては部員のいない学年があったり、先輩との交流がなくなったりと、部の歴史にはいろいろなことがありました。それでもこうして部が存続しつながっているのは素晴らしいことです。現在は幸いにして1976年（昭和51年）卒の山岳部OB吉野興一氏が暁星学園の教職にあるため、山岳部の顧問教諭として現役の監督をして下さっています。

学校教育と山岳部のような部の活動を調整するのが難しい現在にあっては、氏の存在が何にもまして貴重です。OB会として彼の努力に深く感謝をするところであります。

なにぶんとも百年に近い歴史のある暁星、部歴編纂はとても一年や二年で纏められる仕事ではありません。とは言うものの、先ずはたたき台になればと、今回の発刊を急いだ次第です。人名・年代・場所など、間違いも多いかとは承知致しますが、皆さんの協力をえて、順次完全な部歴に、育ててください。

発刊に際し、小浦雅敏副会長（編纂委員長）1967年（昭和42年）卒、これを実質的に支えてくださった、柴野邦彦副編纂委員長1961年（昭和36年）卒、編集・レイアウト・出版の全てを引き受けてくださった、平井宏総務担当委員1974年（昭和49年）卒等、会長として全く無理なお願いにもかかわらず、困難を乗り越えて完成させてくださった、関係者各位に深く感謝致します。21世紀を迎え、ある意味で世界全体が変革に迫られている時代と認識しております。

自然との調和の取れた社会が要求されています。自然に対する畏敬の念、今こそ自分らしい人生を考える世紀と信じています。現在、暁星で学んでいる後輩達、そしてこれから暁星に学ぶ人達が、暁星山岳部に入部して、新しい鎖の輪を繋げていただけたらと願いつつ、発刊に当たっての、ご挨拶と致します。

2001年5月吉日

暁星山岳部OB会会長  
中村泰徳 1954年（昭和29年）卒

# 暁星山岳部のあゆみ

1914 ~ 2000

## 目次

8～10	卒業年別OB一覧
12～56	山行記録一覧
58～59	暁星山岳部 黎明期
60～61	1937 湯田中・上林・丸池 志賀高原スキー合宿
61	1937 北アルプス 燕・槍ヶ岳縦走
62	1938 北アルプス 白馬岳・黒部
63～64	1939 秩父・金峯山・瑞牆山
64	1940 大滝山・常念岳縦走
65	1949 日原谷 夏山合宿 檜尾小屋（造林小屋）にて
65	1950 日原檜
66	1951 烏帽子・槍縦走
66～67	1952 北アルプス 徳沢合宿
67	1953 奥秩父主脈縦走
68～69	1954 北アルプス 横尾 夏山合宿
69～70	1955 北アルプス 横尾 夏山合宿
70～71	1956 北アルプス 横尾 夏山合宿
71	1957 烏帽子・槍・徳本峠縦走
72	1958 横尾 定着合宿
73	1958 槍～燕～餓鬼岳 縦走合宿
73～74	1959 針ノ木～劔 縦走合宿
75	1960 針ノ木～槍縦走 夏山合宿
76	1961 烏帽子・槍縦走
77	1962 奥日光 スキー合宿
78～79	1963 北アルプス 夏山合宿
79～80	1964 飯豊連峰 夏山合宿
81	1965 南アルプス 白峰三山縦走 夏山合宿
82～83	1966 奥秩父 夏山合宿
83～84	1967 劔・立山縦走 夏山合宿
85～86	1968 飯豊連峰 夏山合宿
86～87	1969 奥秩父縦走 夏山合宿
87～88	1970 北八ヶ岳縦走 夏山合宿
88	1971 白馬岳
89	1972 仙丈・甲斐駒
90	1973 金峰・国師・甲武信 本合宿



## 目次

91	1974	飯豊山 夏山合宿 (途中撤退)
92~93	1975	南アルプス 夏山合宿
93~94	1976	八ヶ岳縦走 夏山合宿
94~95	1977	南アルプス南部縦走 夏山合宿
95~96	1978	南アルプス 白峰三山縦走 夏山合宿
96~97	1979	荒川三山・赤石岳
97	1980	裏高尾
97~98	1981	鳳凰三山 夏山合宿
98	1982	甲武信岳
99	1983	北アルプス 後立山連峰
99	1984	北八ヶ岳
100	1985	赤石岳・聖岳
101	1986	白馬岳 夏山本合宿
102	1987	八ヶ岳 本合宿
103	1988	北岳・間ノ岳・塩見岳 強化合宿
103	1988	尾瀬
104	1989	飯豊山 強化合宿
105	1990	常念岳・槍ヶ岳 強化合宿
106	1991	黒部五郎岳
106~107	1992	薬師岳・立山
107~108	1993	穂高岳 強化合宿
108	1994	野口五郎岳・三俣蓮華岳
109	1995	朝日連峰
109	1996	白峰三山
110	1997	野口五郎岳・三俣蓮華岳
110	1998	八ヶ岳
111	1999	木曾駒ヶ岳 強化合宿
112	2000	吾妻連峰 本合宿
114~129		思い出写真館
130~132		暁星時代の山行 舟田三郎
132~136		暁星山岳会に臨む 吉村惇
136~137		長谷川誠一先生回顧録抜粋
137		藤本宰智男先生の思い出
138~139		あとがき



卒業年別OB一覧

<b>1909</b> 明治42年	<b>1938</b> 昭和13年	<b>1941</b> 昭和16年	<b>1944</b> 昭和19年
001 伊庭 勝弥	長谷川誠一 先生	長谷川誠一 先生	082 本尾 敬
	019 鈴木 達夫	053 秋山 光一郎	083 松井 民夫
<b>1910</b> 明治43年	020 井上 公資	054 宮原 隆	084 矢島 基臣
002 棚橋 初太郎	021 中山 利之	055 中尾 博一	085 河内 昭和
	022 小川 浩業	056 小宮山 教夫	086 片岡 大輔
<b>1914</b> 大正3年	023 武藤 倫雄	057 江夏 明	
003 藤島 敏雄	024 橋本 一郎	058 前田 隆雄	<b>1945</b> 昭和20年
	025 天野 鴻一	059 人見 敦	087 小塚 修
<b>1917</b> 大正6年	026 三輪 哲朗	060 阿部 日出夫	
004 舟田 三郎		061 宮田 甚一	<b>1947</b> 昭和22年
005 麻生 武治	<b>1939</b> 昭和14年	062 今井 良行	088 福住 修治
	長谷川誠一 先生	063 堀口 大三郎	
<b>1927</b> 昭和2年	027 近藤 等	064 相原 武宣	<b>1949</b> 昭和24年
006 初見 一雄	028 近藤 稔		089 鈴木 昭男
	029 田中 光季	<b>1942</b> 昭和17年	
<b>1934</b> 昭和9年	030 加藤 昇一郎	065 佐藤 文夫	<b>1950</b> 昭和25年
007 名城 正二	031 渡辺 襄	066 千野 弘	藤本幸智勇 先生
	032 宇野 隆夫	067 中山 吉雄	090 猪野 一夫
<b>1935</b> 昭和10年	033 北村 八郎	068 鈴木 宏	091 田辺 史
008 岩本 七郎		069 高杉 勲	092 湯川 夏樹
	<b>1940</b> 昭和15年	070 大留 輝夫	093 吉村 惇
<b>1937</b> 昭和12年	長谷川誠一 先生	071 山本 正巳	094 青木 栄三
長谷川誠一 先生	034 松井 統治	072 河合 輝次	095 庄司 保
009 伊藤 純	035 湯川 保郎	073 近藤 憲之	096 松本 富雄
010 穂本 繁久	036 早川 信次郎	074 天野 総治郎	097 川田 恵三
011 岩城 譲太郎	037 鈴木 哲夫	075 石原 正嘉	
012 鬼頭 哲人	038 桑島 直雄	076 石川 巖	<b>1951</b> 昭和26年
013 大倉 雄二	039 田部井 彰良	077 千葉 孟	藤本幸智勇 先生
014 数江 譲治	040 宇野 栄三	078 吉沢 泰治	098 田辺 正夫
015 百溪 渡	041 松井 秀夫	079 佐々木 弘	099 雨宮 透
016 村上 七郎	042 豊田 茂一		100 高島 英司
017 梅原 成四	043 藤田 隆司	<b>1943</b> 昭和18年	101 原 実
018 野村 芳太郎	044 赤沢 誠	080 佐々木 章	102 北平 行希
	045 芥川 真知	081 山田 十四郎	103 西脇 雅之助
	046 古川 直之		104 泉 可彦
	047 村田 実男		105 片柳 孝昭
	048 浅井 清敬		106 杉山 泰夫
	049 熊坂 哲夫		
	050 伊庭 三郎		
	051 山下 洋		
	052 中山 晴太郎		

卒業年別OB一覧

**1952** 昭和27年  
藤本宰智勇 先生  
107 市川 忠俊

**1953** 昭和28年  
藤本宰智勇 先生  
108 高橋 宏  
109 江川 敬宜  
110 井上 英男  
111 山下 真護  
112 杉山 明夫

**1954** 昭和29年  
藤本宰智勇 先生  
113 佐藤 徹  
114 中村 泰徳  
115 高井 輝郎

**1955** 昭和30年  
藤本宰智勇 先生  
116 中村 真吾  
117 竹平 稔夫

**1956** 昭和31年  
藤本宰智勇 先生  
118 佐々木 侃爾  
119 藺田 充  
129 猪野 義夫  
121 高井 康郎  
122 三木 毅

**1958** 昭和33年  
藤本宰智勇 先生  
123 雨宮 淳  
124 嘉悦 克  
125 高島 賢司  
126 杉浦 直彦  
127 木滑 修一郎

**1959** 昭和34年  
藤本宰智勇 先生  
128 芝山 治郎

**1960** 昭和35年  
藤本宰智勇 先生  
129 田中 秀暁  
130 高島 耕司  
131 原 正吾  
132 桜井 卓也  
133 高橋 嘉弘  
134 天野 堯  
135 川合 眞之  
136 老沼 映輔

**1961** 昭和36年  
藤本宰智勇 先生  
137 姚 正雄  
138 柴野 邦彦  
139 平野 徹  
140 田中 賢二  
141 角出 光一  
142 平松 南

**1962** 昭和37年  
藤本宰智勇 先生  
143 石井 忠治  
144 一之瀬 東雄  
145 中野 忠義  
146 大西 和男  
147 鈴木 介伸  
148 西村 紀雄  
149 灰谷 信二

**1963** 昭和38年  
藤本宰智勇 先生  
150 野口 孝一  
151 寒河江 進  
152 芝木 国雄  
153 設楽 政昭

**1964** 昭和39年  
松本光男 先生  
154 土井 清之  
155 保坂 邦彦  
156 小幡 純  
157 飛松 伸治  
158 京野 赳郎  
159 久渡 俊一  
160 塩田 幸一  
161 染谷 信彦  
162 西村 秀夫

**1965** 昭和40年  
松本光男 先生  
163 長尾 裕  
164 安藤 健一  
165 天野 晃  
166 高橋 光則  
167 佐々木 明

**1966** 昭和41年  
松本光男 先生  
168 三代川 春一  
169 池田 典秋  
170 星野 圭右  
171 陳 維誠

**1967** 昭和42年  
松本光男 先生  
172 保坂 邦昭  
173 肥沼 俊夫  
174 小浦 雅敏  
175 戸沢 正人  
176 小澤 昭  
177 古宮 正  
178 山口 恒夫

**1968** 昭和43年  
松本光男 先生  
179 和田 洋三  
180 牟田口 章人  
181 坂井 聖二

**1969** 昭和44年  
松本光男 先生  
182 加藤 賢朗  
183 松林 公蔵  
184 宮川 紳三  
185 田代 茂  
186 奥山 義公  
187 保坂 邦和  
188 長谷川 一郎  
189 難波秀紀

**1970** 昭和45年  
平敷哲 先生  
190 金沢 和巳  
191 安達 則昭  
192 太田 慶樹

**1971** 昭和46年  
平敷哲 先生  
193 松林 雄二郎  
194 光永 久  
195 篠原 猛夫

**1972** 昭和47年  
平敷哲 先生  
196 長谷川 光  
197 金川 英雄  
198 黒沢 三則

**1973** 昭和48年  
平敷哲 先生  
199 水野 純夫  
200 青柳 龍資  
201 青柳 進  
202 篠原 雅一

**1974** 昭和49年  
平敷哲 先生  
203 平井 宏

卒業年別OB一覧

- 1975** 昭和50年  
平敷哲 先生  
204 伊藤 公仁
- 1976** 昭和51年  
平敷哲 先生  
205 吉野 興一  
206 福井 篤
- 1977** 昭和52年  
平敷哲 先生  
207 川田 一慶  
208 大堀 雅之  
209 伊藤 均  
210 秋山 哲弥  
211 朝比奈 義仁  
212 松田 弘之  
213 永田 篤文  
214 佐野 聖文  
215 富塚 誠
- 1978** 昭和53年  
平敷哲 先生  
216 駒形 克哉  
217 矢島 多以良
- 1979** 昭和54年  
本松暉雄 先生  
218 伊藤 憲司  
219 数野 光広  
220 花沢 浩之  
221 大澤 寿史  
222 桜井 武司
- 1981** 昭和56年  
本松暉雄 先生  
吉野興一 先生  
223 吉澤 公寿
- 1982** 昭和57年  
本松暉雄 先生  
吉野興一 先生  
224 中村 直  
225 高橋 紀夫
- 1983** 昭和58年  
本松暉雄 先生  
吉野興一 先生  
226 安齋 和之  
227 長 弘昌  
228 市川 創作
- 1986** 昭和61年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
229 齋藤 頼之
- 1987** 昭和62年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
230 江口 太郎  
231 深田 康介  
232 佐藤 洋一  
233 中島 一憲
- 1988** 昭和63年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
234 三村 知司  
235 田口 全男  
236 財満 耕平
- 1989** 平成1年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
237 佐藤 一昌  
238 後藤 祐介
- 1990** 平成2年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
239 鷹野 孝治
- 1991** 平成3年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
240 井村 真也  
241 水沼 二郎  
242 高野 晋  
243 田中 尚道  
244 山岡 力  
245 真田 知幸
- 1992** 平成4年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
246 大島 義信  
247 前田 昭彦  
248 矢橋 岳彦  
249 山元 崇
- 1993** 平成5年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
250 成田 大樹  
251 杉山 一隆  
252 難波 裕之  
253 二澤 真彦  
254 藤永 真至
- 1995** 平成7年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
255 浅井 秀明  
256 野垣 岳稔  
257 井浪 喬之  
258 森定 司  
259 草野 和俊
- 1996** 平成8年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
井上豊 先生  
260 木村 衛昭  
261 生川 友恒  
262 助村 隼也  
263 五十嵐 啓
- 1998** 平成10年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
井上豊 先生  
264 遠藤 良太
- 1999** 平成11年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
井上豊 先生  
265 荒川 陽彦
- 2000** 平成12年  
吉野興一 先生  
遠西敬二 先生  
井上豊 先生  
266 角田 寛人  
267 井浪 皓之  
268 常陸 悠介  
269 小野 晃  
270 日野 淳  
271 山田 創  
272 石川 知郷  
273 前中 貴斗  
274 江本 哲朗  
275 峯岸 涼太

# 山行記録一覧

1936年7月～2000年2月

## 1936~1939 昭和11~14年

1936 7.17~20 山岳部第一回山行 白馬岳他 引率：長谷川誠一先生

CL 鬼頭哲人 SL 穂本繁久

岩城謙太郎 大倉雄二 中山利之 鈴木達男 井上公資 名越正八

1936 7.25~27 奥多摩水源林ハイキング 引率：長谷川誠一先生

CL 加藤昇一郎 SL 近藤稔

近藤等 守屋須美雄 山口勲 魚谷善郎 伊藤 阿部信弘 黒木正 赤沢誠

1936 9.20 山の映画会（鉄道記念館）

古川直之 早川信次郎 根本達次郎 阿部日出夫 秋山光一郎 宮原隆 吉田耕治

1936 10.11 川苔山へ 引率：長谷川誠一先生

CL 鬼頭哲人 SL 井上公資

近藤稔 加藤昇一郎 近藤等 渡辺襄 宇野隆夫 佐藤 黒木正 松井秀夫 藤田隆士

豊田茂一 今井良行 橋本一郎

1936 10.27~29 山と科学展覧会（理科教室）

1936 11.22 秋川溪谷から大岳山へ 引率：長谷川誠一先生

CL 鬼頭哲人 SL 穂本繁久

岩城謙太郎 名越正八 小川浩業 中山利之 井上公資 近藤等 渡辺襄

1936 11.28 講演会と茶話会 信州の山々 岩本七郎氏

宇野隆夫 山口勲 天野 湯川保郎 黒木正 松井秀夫 藤田隆士 湯原 江夏明 今井良行

古川直之

1937 2.21 与瀬から高尾山 浅川へ 引率：長谷川誠一先生

CL 鬼頭哲人 SL 井上公資

小川浩業 近藤等 近藤稔 松井秀夫 黒木正 阿部日出夫

堀口大三郎 江島教夫 藤田隆士 早川信次郎 阿部信弘 赤沢誠 芥川真知 湯川保郎

田中光季

1937 4.25 奥武蔵 吾野 伊豆ヶ岳 引率：長谷川誠一先生

CL 武藤 SL 小川浩業

中山利之 加藤昇一郎 北村八戸 近藤等 吉田耕治 黒木正 田村岩男 藤田隆士

石原正嘉 湯川保郎 石川巖 能坂哲夫 野口彦太郎 江島教夫 早川信人 上原建三

今井良行 松井秀夫 相原武志 松山光一郎 阿部日出夫 宮原隆 中尾博一 大留輝夫

久能 黒木正 寛元利久 高杉勲 秋山光一郎 佐藤文夫 萩原正之助 千葉猛

1937 6.6 大山・ヤビツ峠ハイキング 引率：長谷川誠一先生

CL 中山利之 SL 小川浩業

近藤稔 近藤等 吉田耕治 田村岩男 浅井清 古川直之鈴木哲夫 江島教夫 熊坂哲夫

小泉一郎 今井良行 吉沢泰治 山中吉雄 秋山光一郎

- 1937 6.26~27 雨のため甘利山変更昇仙峡へ 引率：長谷川誠一先生  
 CL 中山利之 SL 小川浩業  
 近藤等 近藤稔 天野総次郎 稲村美喜男 浅井清 湯川保郎 伊庭三郎 松井統治 石川巖  
 武田 熊坂哲夫 今井良行 山下洋 亀田純 田中忠夫 石原正嘉
- 1937 7.18~23 槍ヶ岳縦走 引率：長谷川誠一先生
- 1937 7.28~31 日光・半月峠・赤城・伊香保 足尾泊 引率：長谷川誠一先生
- 1937 10.24 丹沢山脈 焼山 引率：長谷川誠一先生  
 CL 中山利之 SL 小川浩業  
 近藤等 山中吉雄 浅井清 佐藤文夫 吉野
- 1937 10.30~11.1 六林峠ハイキング 引率：長谷川誠一先生
- 1937 11.14 大岳山・馬頭刈山・芦倉尾根ハイキング 引率：長谷川誠一先生  
 CL 浅井清 SL 寺沢幸夫  
 近藤憲久 山下洋 熊坂哲夫 小泉一郎 今井良行 石黒納 早川信次郎 吉沢泰治 山中晴太郎  
 赤沢誠 鈴木宏 大菊輝夫
- 1938 2.6 陣馬山景信山 五日市・上野原 引率：長谷川誠一先生
- 1938 4.24 生藤山 五日市・上野原 引率：長谷川誠一先生  
 CL 近藤等 SL 近藤憲久  
 浅井 山中晴太郎 今井良行 田村岩男 阿部日出夫 萩原正之助 高杉勲 鈴木哲夫 鈴木哲夫  
 佐藤文夫 佐々木章 佐々木宏 大森 山田 秋山光一郎 喜代永
- 1938 5.22 扇山 大月・葛城神社 引率：長谷川誠一先生  
 CL 浅井 SL 山中晴太郎  
 佐々木宏 千野弘 佐藤文夫 高杉勲 千葉孟 山中吉雄 吉沢
- 1938 6.12 水郷・印旛沼ハイキング 引率：長谷川誠一先生  
 CL 山中吉雄 SL 萩原正之助  
 鈴木宏 千葉孟 佐藤文夫 高杉勲 大留輝夫 千野弘 山田十四郎 新野俊男
- 1938 6.26 奥秩父 武甲山 引率：長谷川誠一先生  
 CL 加藤昇一郎 SL 近藤稔  
 田中光寿 北村八郎 山中吉雄 馬場 中尾博 安原隆 阿部日出夫 田部 中山利之 鈴木宏  
 大留輝夫 佐々木宏
- 1938 7.21~26 白馬岳から黒部へ 引率：長谷川誠一先生  
 CL 加藤昇一郎 SL 佐洋太郎  
 近藤等 古川直之 山下洋 熊坂哲夫 浅井清 松井統治 湯川保郎 浅川次

- 1938 8.1~4 奥日光（日光白根山予定変更） 引率：長谷川誠一先生  
 CL 阿部日出夫 SL 宇野栄三  
 早川信次郎 竹川日佐夫 安原隆 秋山光一郎 小宮山敬夫 田部井彰良 中山吉雄 高杉勲  
 鈴木宏 佐藤文夫 千野弘 天野総次郎 大留輝夫 萩原正之助 須田和助 千葉孟  
 吉沢泰治 山田十四郎 伊庭雄 新野俊男
- 1938 9.18 箱根山塊 明神・明星岳 引率：長谷川誠一先生  
 CL 竹川日佐夫 SL 宇野栄三  
 中山吉雄 阿部日出夫 小宮山敬夫 安原隆 多田 中尾 大留輝夫 佐藤文夫 佐々木章
- 1938 10.23 ハヶ岳高原 松原湖 夜行日帰り 引率：長谷川誠一先生  
 CL 相原武彦 SL 堀口大三郎  
 安原隆 前田隆雄 小宮山敬夫 西山栄蔵 阿部日出夫 天野総次郎 大留輝夫 鈴木宏  
 吉沢泰治 中山漢治 田辺一夫 清水新
- 1938 11.12~13 大菩薩峠ハイキング 引率：長谷川誠一先生  
 CL 浅井清敬 SL 松井統治  
 石原正嘉 近藤憲久 山下洋 早川信次郎 山中清太郎
- 1938 11.12~13 妙義山
- 1938 11.28~30 山と科学展覧会 主催：生物研究会と合同
- 1939 4.25 奥武蔵野高原 正丸峠 丸山 吾野駅 引率：長谷川誠一先生  
 CL 近藤憲久 SL 早川信次郎  
 鈴木哲夫 桑島 宇野栄三 天野総次郎 大留輝夫 萩原正之助 千野弘 鈴木夏雄  
 石井郡司 岸野新一郎 佐々木章 松井茂宣 岸田般弥 森野潔 本尾敬 森重愛児  
 松井民夫 上成正夫 吉田忠夫 矢島基臣 河内昭和 加藤洋一 片岡大輔 正木鎮一郎  
 水谷 須藤文夫 石井徹夫 豊田正雄 早川平三郎 長島隆 伊藤順 木下豪児 大島  
 橋田隆夫 安宅三郎 伊庭昭正
- 1939 6.11 奥多摩 川乗山ハイキング 獅子口小屋 引率：長谷川誠一先生  
 CL 近藤憲久 SL 桑島真雄  
 鈴木哲夫 天野総次郎 中山吉雄 山本 桜井隆 千野弘 鈴木宏 伊藤 萩原正之助  
 佐藤文夫 本尾敬 上成正夫 相原 松井民夫 城田 森重愛児 渡辺和隆 石井徹男  
 水谷 早川平三郎 須藤文夫 伊藤順 松本鎮一郎 片岡大輔 矢島基臣 河内昭和  
 伊庭昭正 橋田隆夫 安宅 三郎
- 1939 6.24~25 ミツ峠ハイキング 引率：長谷川誠一先生  
 CL 近藤憲久 SL 早川信次郎  
 鈴木哲夫 桑島真雄 田部井新良 宇野栄三 秋山光一郎 宮原隆 牛尾十朱 小宮山教夫
- 1939 7月 十文字峠・信州峠・瑞垣山・増富鉱泉 引率：長谷川誠一先生  
 江夏明 前田隆雄 人見敦 阿部 宮田甚一 今井良行



## 1940～1949 昭和15～24年

- 1940 4.30 小利根水郷 引率：長谷川誠一先生  
佐藤文夫 千野弘 中山吉雄 鈴木宏 天野総治郎 他1名
- 1940 7.21～25 常念岳縦走（大滝山～燕岳）主催：★山岳部解散 有志で
- 1940 8.3～6 菅平から
- 1948 8月 雲取山  
CL 庄司保
- 1949 3.29 海沢・山の神尾根 主催：暁星ハイキンググループ  
CL 庄司保 SL 猪野一夫
- 1949 4.25 谷川岳  
CL 岡田一雄
- 1949 7.8～9 富士山
- 1949 南ア 日向山
- 1949 箱根 明神岳
- 1949 奥秩父 乾徳山
- 1949 7.25～26 谷川岳 マチガ沢
- 1949 8.3～8 日原合宿  
CL 庄司保 SL 猪野一夫  
原実 田辺正夫 片桐
- 1949 8.30 丹沢 キュウ八沢
- 1949 9月上旬 雲取山 巳の戸班 主催：国体登山部 予選
- 1949 11月上旬 丹沢 源次郎沢 主催：岳連登高祭

## 1950～1959 昭和25～34年

- 1950 2月 森上スキー
- 1950 4月 雲取山

- 1950 7.23~30 日原合宿  
CL 庄司保 SL 猪野一夫  
他11名
- 1950 9月上旬 丹沢主脈 主催：神奈川国体予選  
CL 田辺正夫  
他
- 1951 4.10~11 奥多摩 川苔山  
CL 吉村惇
- 1951 5.4~5 丹沢 沢登り  
CL 猪野一夫 SL 吉村惇  
松本富雄 田辺正夫 猪野義夫
- 1951 烏帽子~槍縦走  
CL 猪野一夫 SL 吉村惇  
高橋宏 雨宮透 泉可彦 江川敬宜 井上英男 杉山明夫 片柳孝昭 他1名
- 1952 4.18~19 丹沢塔ヶ岳 主催：暁峯岳友会  
CL 庄司保 SL 江川敬宜  
片柳孝昭 雨宮透
- 1952 5.22~23 谷川岳東面 主催：暁峯岳友会  
CL 猪野一夫 SL 庄司保  
泉可彦
- 1952 7.18~23 穂高岳・涸沢合宿 主催：暁峯岳友会  
CL 猪野一夫 SL 庄司保  
片柳孝昭 泉可彦
- 1952 7.26~8.4 徳沢合宿 主催：暁星山岳同好会  
CL 中村真吾 SL 竹平稔夫  
猪野義夫 佐藤徹 中村泰徳  
OB 庄司保 吉村惇 泉可彦
- 1952 8.18~19 谷川岳東尾根 主催：暁峯岳友会  
CL 岡田一夫 SL 猪野一夫  
雨宮透
- 1952 10.10~12 鳳凰山 主催：暁峯岳友会  
CL 吉村惇 SL 雨宮透
- 1952 11.3~4 八ヶ岳偵察 主催：暁峯岳友会  
CL 泉可彦 SL 中村真吾  
猪野義夫

- 1952 12.30~1.5 八ヶ岳 冬山合宿 主催：暁峯岳友会  
CL 福住修治 SL 庄司保  
中村真吾
- 1953 2.5~6 日光 女峯山 主催：暁峯岳友会  
CL 猪野一夫 SL 庄司保  
雨宮透
- 1953 4.18~19 丹沢 集中登山 主催：暁星・暁峯合同  
勘七沢 CL猪野一夫 SL田辺正夫  
中村真吾 竹平稔夫 佐々木莞爾  
水無本谷 CL庄司保 SL江川敬宜  
泉可彦  
源次郎沢 CL吉村惇 SL雨宮透  
片柳孝昭 川田恵三
- 1953 4.29 海沢 主催：暁星山岳同好会  
CL 竹平稔夫  
中村真吾  
OB 江川敬宜
- 1953 5.2~3 甲武信岳 主催：暁峯岳友会  
CL 庄司保 SL 雨宮透
- 1953 5.16~17 谷川岳 遭難救助 主催：暁峯岳友会 引率：藤田先生・奥平先生  
CL 福住修治 SL 庄司保  
雨宮透 山下真護 立教大
- 1953 5.31 丹沢 源次郎沢 主催：暁星山岳同好会  
CL 竹平稔夫  
佐藤哲也 中村真吾
- 1953 7.20~28 奥秩父主脈（雲取～甲武信）縦走 主催：暁星山岳会  
CL 竹平稔夫 SL 中村真吾  
佐々木莞爾 矢野邦夫 高井康郎 伊藤登 三木毅  
OB 吉村惇
- 1953 7.25~26 谷川岳 一の倉沢 主催：暁峯岳友会  
CL 岡田一夫 SL 庄司保  
雨宮透
- 1953 7.29~8.3 白馬山 主催：個人山行  
CL 北平希行 SL 片柳孝昭
- 1953 8.3~14 槍・薬師・立山縦走 主催：暁峯岳友会  
CL 庄司保 SL 雨宮透  
猪野義夫

- 1953 8.27~28 谷川岳 懇親山行 主催：暁峯岳友会  
 CL 猪野一夫 SL 田辺正夫  
 山下真護 庄司保 中村真吾 岡田一夫
- 1953 10.3~4 丹沢 塔ヶ岳 集中登山 主催：暁星・暁峯合同  
 大倉尾根 CL庄司保  
 西村紀雄 杉浦直彦 雨宮淳 山内弟 廣瀬久  
 水無川本谷 CL山下真護  
 中村真吾 佐々木兄  
 源次郎沢 CL江川敬宜 SL竹平稔夫  
 山内兄 佐々木弟  
 勘七沢 CL雨宮透 SL猪野義夫  
 高杉一彦
- 1953 11.7~8 乾徳山 主催：暁星山岳同好会  
 CL 竹平稔夫 SL 中村真吾  
 猪野義夫 佐々木莞爾 高井康郎 矢野邦夫 杉浦直彦 山内桂輔 西村喜伸 雨宮淳 三木毅  
 OB 吉村惇 小林乾
- 1953 12.28~1.7 八ヶ岳 冬山合宿 主催：暁峯岳友会  
 CL 庄司保 SL 雨宮透  
 田辺正夫
- 1954 2.21~22 岩原スキー  
 CL 雨宮透 SL 江川敬宜
- 1954 4.25 大岳山 集中登山 主催：暁星・暁峯合同  
 CL 庄司保 SL 江川敬宜  
 山下真護 北平希行 猪野義夫 藺田充 佐々木兄 高井康郎 伊藤登 高杉 三木毅 雨宮淳  
 高島賢司 杉浦直彦
- 1954 5.1~3 丹沢主脈縦走 主催：暁星山岳部  
 CL 猪野義夫 SL 藺田充  
 佐々木兄 山内兄 清水晃 高井康郎 片桐
- 1954 7.6 先輩を囲みて（お茶の水 岸体育館） 主催：暁峯岳友会  
 伊庭勝弥 藤島敏男 舟田三郎 麻生武治 初見一雄 近藤等 小塚修 福住修治 猪野一夫 吉村惇  
 青木栄三 川田恵三 庄司保 北平希行 西脇雅之助 杉山泰夫 渡辺忠敏 江川敬宜 山下真護  
 中村泰徳
- 1954 8.1~10 横尾 夏山合宿 主催：暁星山岳部  
 CL 猪野義夫 SL 藺田充  
 清水晃 片桐 雨宮淳 高島賢司 杉浦直彦 高林尚志 庄司保 雨宮透 田辺正夫 山下真護 泉可彦  
 吉村惇
- 1954 8.10~17 後立山縦走 主催：暁峯岳友会  
 CL 庄司保 SL 雨宮透  
 佐藤徹 市川（渡辺）忠敏 竹平稔夫

- 1954 10.1~2 塔ヶ岳 集中登山 主催：暁星山岳部
- 1954 10.3~4 塔ヶ岳 集中登山 主催：暁星・暁峯合同
- 1954 水無本谷  
CL 山下真護 SL 中村真吾  
佐々木 市川（渡辺）忠俊
- 1954 源次郎沢  
CL 江川敬宜 SL 竹平稔夫  
山内兄 佐々木弟
- 1954 勘七沢  
CL 雨宮透 SL 猪野義夫  
高杉
- 1954 大倉尾根  
CL 庄司保 SL 雨宮淳  
山内弟 西村紀雄
- 1954 戸沢  
CL 佐々木兄 SL 藺田充  
山内兄 廣瀬久雄 清水晃 片桐 高杉
- 1954 源次郎  
CL 猪野義夫 SL 杉浦直彦  
山内弟 高島賢司 西村紀雄 加藤
- 1954 10.13~18 新雪の穂高岳 主催：暁峯岳友会  
CL 庄司保 SL 山下真護  
泉可彦
- 1954 10.14~17 尾瀬・銀山平 主催：暁峯岳友会  
CL 佐藤哲也 SL 中村泰徳
- 1954 10.31~11.1 水無川 戸沢 主催：暁星山岳部  
CL 高島賢司 SL 山内弟  
西村紀雄 杉浦直彦 佐々木弟
- 1954 10.31~11.2 秋の八ヶ岳 主催：暁星山岳部  
CL 藺田充 SL 佐々木兄
- 1954 11.5~7 那須岳・三斗小屋 主催：暁峯岳友会  
CL 江川敬宜 SL 雨宮透  
佐藤哲也

- 1954 11.27~28 丹沢主脈 遭難事故 主催：暁峯岳友会  
CL 庄司保 SL 佐藤哲也  
藺田充 小塚修
- 1955 4.29 庄司氏追悼山行 主催：暁星・暁峯合同 引率：藤本先生・森先生  
CL 泉可彦 SL 猪野一夫  
田辺正夫 江川敬宜 井上英男 佐藤哲也 中村泰徳 市川（渡辺）忠俊 高橋宏 中村真吾 田辺宏  
藺田充 猪野義夫 片桐 佐々木兄 佐々木弟 北岡 杉浦直彦 山内兄 泉邦彦
- 1955 5.3~5 将監峠・雲取山 主催：暁峯岳友会  
CL 北平希行 SL 中村泰徳  
雨宮淳
- 1955 7.22~31 横尾 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：石沢先生  
CL 藺田充 SL 雨宮淳  
新田 猪野義夫 泉邦彦 高島賢司 高木尚志 佐々木弟 北岡  
OB 田辺正夫
- 1955 7.28~8.6 涸沢 夏山合宿 主催：暁峯岳友会  
CL 江川敬宜 SL 田辺正夫  
高橋宏 佐藤哲也 中村泰徳 井上英男 中村真吾 藺田充
- 1955 9.24 丹沢水無川本谷 主催：暁星山岳部  
CL 高島賢司 SL 佐々木兄  
山内兄 金沢 嘉悦克
- 1955 9.24~25 丹沢主脈縦走 主催：暁星山岳部  
CL 藺田充 SL 雨宮淳  
杉浦直彦
- 1955 10.8~10 北ア 大滝山・徳本峠 主催：暁星山岳部  
CL 猪野義夫 SL 雨宮淳  
藺田充 杉浦直彦
- 1955 10.21~23 八ヶ岳縦走 主催：暁峯岳友会  
CL 雨宮透 SL 中村泰徳  
小塚修
- 1955 11月 庄司氏一周忌追悼 主催：暁峯岳友会  
CL 佐藤哲也 SL 中村泰徳  
雨宮淳 小塚修（青根コース） 江川敬宜 雨宮透
- 1956 1.4~8 草津スキー・志賀高原 主催：暁峯岳友会  
CL 中村泰徳 SL 中村真吾  
佐藤哲也 高橋宏 雨宮透 山下真護 藺田充 猪野義夫 高林 高橋修
- 1956 4.4~6 雲取山 主催：暁峯岳友会  
CL 中村泰徳 SL 佐藤哲也

- 1956 5.1~6 春山・徳沢キャンプ 主催：暁峯岳友会  
CL 中村泰徳 SL 佐藤哲也
- 1956 5.2~3 雲取山 主催：暁星・暁峯合同  
CL 中村真吾 SL 北平希行  
雨宮透
- 1956 5.2~3 水無川 戸沢 主催：暁星山岳部  
CL 高島賢司 SL 佐々木兄  
杉浦直彦
- 1956 7.21~8.1 横尾 夏山合宿 主催：暁星山岳部  
CL 杉浦直彦 SL 高島賢司  
桑原康昌  
OB 田辺正夫
- 1956 8.9~14 槍・烏帽子縦走 主催：暁峯岳友会  
CL 井上英男 SL 中村泰徳
- 1956 8.25~28 奥秩父 将監・雁坂峠 主催：暁星山岳部  
CL 雨宮淳 SL 杉浦直彦
- 1956 9.29~30 大菩薩峠 懇親山行 主催：暁星・暁峯合同 引率：藤本先生  
CL 中村泰徳 SL 猪野義夫  
杉浦直彦 高島賢司 田辺正夫 江川敬宜 佐藤哲也 泉可彦 竹平稔夫 雨宮淳 千葉 金森  
豊田 手塚 吉村 西崎 高島耕司 田中秀暁 高橋嘉弘 原正吾 山田先生
- 1956 9月 裏磐梯 主催：暁峯岳友会  
CL 江川敬宜 SL 中村泰徳  
中村真吾
- 1956 11.3~4 雲取山  
CL 雨宮淳  
高島賢司 高橋嘉弘 田中秀暁 原正吾 桜井卓也 高島耕司  
OB 中村泰徳 竹平稔夫
- 1957 4.2 裏高尾縦走  
CL 雨宮淳  
高島賢司 嘉悦克 原正吾 高島耕司 川合真之 桜井卓也  
OB 中村泰徳 竹平稔夫
- 1957 4.28~29 丹沢主脈縦走  
CL 高島賢司  
雨宮淳 杉浦直彦 木滑修一郎 佐々木明 高橋嘉弘 桜井卓也 原正吾 田中秀暁  
OB 中村泰徳

- 1957 5月 谷川岳 ヒツゴ沢 主催：暁星山岳部  
CL 高島賢司 SL 雨宮淳  
高島耕司
- 1957 5.25 鷹巣山  
高島賢司 高島耕司
- 1957 7.25～8.3 烏帽子～槍～徳本峠縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部  
CL 雨宮淳 SL 高橋嘉弘  
高島耕司 桜井卓也 原正吾 野村光 高島賢司 杉浦直彦 田中秀暁  
OB 泉可彦 中村泰徳
- 1957 8.24～29 丹沢合宿  
CL 雨宮淳  
高島賢司 杉浦直彦 高橋嘉弘 高島耕司 桜井卓也 原正吾  
OB 竹平稔夫 中村真吾 中村泰徳 雨宮透 雨宮淳
- 1957 槍・立山縦走 主催：暁峯岳友会  
CL 佐藤哲也 SL 中村泰徳  
高島賢司 田辺正夫 中村真吾 井上英男 雨宮透
- 1957 10.11～13 八ヶ岳縦走 主催：暁星山岳部  
CL 高島賢司 SL 雨宮淳  
高島耕司 高橋嘉弘
- 1957 11.2～3 丹沢三峯縦走 主催：暁星山岳部  
CL 原正吾 SL 高島耕司  
田中秀暁 柴野邦彦
- 1957 11月中旬 高水三山 主催：暁星山岳部  
高橋嘉弘 高島耕司 桜井卓也
- 1958 4.1～3 奥多摩 氷川合宿 主催：暁星山岳部  
CL 高島耕司 SL 高橋嘉弘  
川合真之 柴野邦彦  
OB 中村真吾 雨宮淳 嘉悦克
- 1958 4月上旬 丹沢主脈縦走 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘  
高島耕司 原正吾 桜井卓也 柴山治郎 松岡章夫
- 1958 4.29 丹沢塔ヶ岳集中（大倉尾根） 主催：暁星・暁峯合同  
CL 中村泰徳 SL 高橋嘉弘  
春日寛司 井沢清泰 田中賢二 平野徹 西村紀雄 月舘秀雄 朝倉氏 平沼氏 斎藤氏
- 1958 4.29 丹沢塔ヶ岳集中（水無川本谷） 主催：暁星・暁峯合同  
CL 田辺正夫  
高島賢司 高島耕司 松岡章夫 柴野邦彦



- 1958 4.29 丹沢塔ヶ岳集中（勘七沢） 主催：暁星・暁峯合同  
CL 伊藤哲也  
田中秀暁 桜井卓也
- 1958 5.3～4 雲取山 主催：暁星山岳部  
CL 高島耕司 SL 柴野邦彦  
高橋嘉弘 田中賢二 小峯南 角出光一 伊藤浩史
- 1958 5.10～11 奥多摩 川苔山 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘 SL 高島耕司  
井沢清泰 春日寛司 松岡章夫 平野徹 小峯南 田中賢二 伊藤浩史
- 1958 6.7～8 武甲山 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘 SL 柴野邦彦  
松岡章夫 井沢清泰 春日寛司 田中賢二 伊藤浩史 小峯南 平野徹  
OB 中村泰徳 竹平稔夫
- 1958 7.15～16 丹沢 表尾根トレーニング 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘 SL 高島耕司  
柴野邦彦 松岡章夫 春日寛司 井沢清泰 桜井卓也 原正吾 平野徹 小峯南 田中賢二
- 1958 7.31～8.7 横尾 夏山合宿 主催：暁星山岳部  
CL 高島耕司 SL 柴野邦彦  
田中秀暁 原正吾 平野徹 松岡章夫 桜井卓也 春日寛司 井沢清泰 小峯南 西村紀雄  
OB 佐藤哲也 中村泰徳
- 1958 8.8～12 槍・燕・餓鬼縦走 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘 SL 高島耕司  
田中秀暁 小峯南 柴野邦彦 平野徹
- 1958 8.13 丹沢 クズ八沢 主催：暁星山岳部  
高橋嘉弘 高島耕司
- 1958 9.2～6 日光 尾瀬 主催：個人山行  
CL 高橋嘉弘 SL 高島耕司
- 1958 10.12～13 佐藤徹氏壮行会 三頭山 主催：暁星・暁峯合同  
高橋嘉弘 高島耕司 田中秀暁 柴野邦彦 田辺正夫 泉可彦 中村泰徳 雨宮透 雨宮淳 竹平稔夫  
江川敬宜 佐藤哲也
- 1958 10.20～21 不老山 主催：暁星山岳部  
CL 高島耕司 SL 平野徹
- 1958 10.25～26 夜叉神峠 主催：暁星山岳部  
高橋嘉弘 高島耕司 柴野邦彦

- 1958 富士山  
高橋嘉弘 高島耕司 田中秀暁  
OB 田辺正夫
- 1958 11.22~23 乾徳山~黒金山 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘 SL 高島耕司  
柴野邦彦 平野徹
- 1958 12.18~20 八ヶ岳 ポッカ 主催：個人山行  
高島耕司 柴野邦彦
- 1958 12.30~1.6 美ヶ原 スキー合宿 主催：暁星山岳部  
CL 高橋嘉弘 SL 高島耕司  
田中秀暁 原正吾 平野徹 柴野邦彦
- 1959 3.24~28 丹沢主脈縦走  
CL 柴野邦彦 SL 平野徹  
高橋嘉弘 高島耕司 田中秀暁 灰谷信次 鈴木介伸 高橋勝重  
OB 高島賢司
- 1959 4.4~6 金峰山  
CL 柴野邦彦 SL 平野徹  
高橋嘉弘 高島耕司 石井忠治 鈴木介伸 西村紀雄
- 1959 4.25~26 大菩薩峠  
CL 柴野邦彦 SL 平野徹  
灰谷信次 鈴木介伸 一之瀬東雄 大西和男 西村紀雄 岩崎 軽海 高島耕司  
OB 竹平稔夫
- 1959 6.16~17 武甲山  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
鈴木介伸 大西和男 石井忠治 中野忠義 飛松伸治
- 1959 6月 谷川岳  
CL 柴野邦彦 SL 平野徹  
石井忠治 中野忠義 田中秀暁  
OB 中村泰徳
- 1959 7月 御正体山  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
石井忠治 鈴木介伸 中野忠義 大西和男 飛松伸治
- 1959 7月 針ノ木~剣縦走 夏山合宿 剣沢：暁峯合同 引率：森淳寿先生  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
石井忠治 一之瀬東雄 中野忠義 鈴木介伸 高橋嘉弘 高島耕司  
OB 田辺正夫 山下 中村

1959 8月 秩父主脈縦走  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
石井忠治 鈴木介伸 高島耕司  
OB 高島賢司

1959 10.14 鷹の巣山  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
石井忠治 中野忠義 大西和男 寒河江進  
OB 中村泰徳

1959 11.2~3 丹沢 塔ヶ岳集中 (大倉尾根)  
CL 中野忠義 SL 永井  
飛松伸治

1959 11.2~3 丹沢 塔ヶ岳集中 (表尾根)  
CL 石井忠治 SL 大西和男  
寒河江進

1959 11.2~3 丹沢 塔ヶ岳集中 (源次郎沢)  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
OB 田辺正夫 高島賢司

1959 12.24~30 菅平 スキー合宿  
CL 柴野邦彦 SL 姚正雄  
石井忠治 大西和男 飛松伸治 寒河江進 中橋

## 1960~1969 昭和35~44年

1960 6月 御正体山  
石井忠治 鈴木介伸 中野 大西和男 小幡純 京野赳郎 保坂邦彦

1960 夏 裏銀座 夏山合宿

1960 12.24~30 菅平 スキー合宿  
石井忠治 大西和男 野口孝一 寒河江進 芝木国雄 小幡純 京野赳郎 保坂邦彦

1961 4.15~16 烏尾山 集中山行  
石井忠治 寒河江進 芝木国雄 京野赳郎 保坂邦彦 小幡純 高橋健 須貝道義 真期郭  
OB 泉可彦 藺田充 雨宮淳 柴野邦彦

1961 5.6~7 雲取山~鷹ノ巣  
CL 野口孝一  
寒河江進 芝木国雄 京野赳郎 保坂邦彦 真期郭

1961 5.27~28 丹沢 桧洞丸  
CL 芝木国雄  
寒河江進 京野赳郎 高橋光則

- 1961 7.4~5 塔ヶ岳 夏山予備山行  
 CL 寒河江進  
 京野赳郎 保坂邦彦  
 OB 石井忠治 藺田充
- 1961 7.25~8.2 烏帽子~槍縦走 夏山合宿  
 CL 寒河江進  
 京野赳郎 飛松伸治 保坂邦彦  
 OB 藺田充 雨宮淳
- 1962 8月 飯豊山 主催：暁星山岳部  
 CL 京野赳郎
- 1962 12月 日光・光徳牧場 主催：暁星山岳部  
 CL 京野赳郎
- 1962 12.25~31 奥日光 スキー合宿  
 CL 保坂邦彦 SL 塩田幸一  
 土井清之 陳維誠 久渡俊一 小浦雅敏 京野赳郎 戸沢正人 小幡純 小沢昭 飛松伸治 保坂邦昭
- 1963 3.30~4.6 北八ヶ岳 春山合宿  
 保坂邦彦 京野赳郎 飛松伸治 保坂邦昭  
 OB 柴野邦彦 平野徹
- 1963 4月 丹沢 集中登山 主催：暁星山岳部  
 CL 小幡純  
 保坂邦彦 京野赳郎 土井清之 久渡俊一 安藤建一 池田典秋  
 OB 泉可彦 市川(渡辺)俊夫 陣維誠 星野圭一 戸沢正人 小澤昭 保坂邦昭 山口恒夫 雨宮淳  
 猪野義夫 堀口和利 平野徹 岡田利政 坂井聖二
- 1963 5.18~19 武甲山 主催：暁星山岳部  
 CL 飛松伸治 SL 小幡純  
 保坂邦彦 久渡俊一 安藤建一 天野晃 三代川春一 陣維誠 池田典秋 星野圭一 戸沢正人 小沢昭  
 保坂邦昭 山口恒夫 肥沼俊夫 西脇実 坂井聖二 岡田利政
- 1963 6月 大菩薩峠 主催：暁星山岳部  
 CL 池田典秋 SL 陣維誠  
 保坂邦彦 京野赳郎 飛松伸治 安藤建一 天野晃 三代川春一 星野圭一 小浦雅敏  
 OB 平野徹 小澤昭 肥沼俊夫 山口恒夫 保坂邦昭 堀口 黒田
- 1963 7.25~31 ボッカ 夏山合宿 主催：暁星山岳部  
 保坂邦彦 安藤建一
- 1963 7.31~8.10 北アルプス 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：森淳寿先生・松本光男先生  
 CL 飛松伸治 SL 小幡純  
 保坂邦彦 京野赳郎 安藤建一 三代川春一 戸沢正人 小沢昭 保坂邦昭 山口恒夫 小浦雅敏  
 堀口和利 肥沼俊夫 古宮正 黒田基 岡田利政 坂井聖一  
 OB 平野徹

- 1963 9.16~17 奥多摩 主催：暁星山岳部  
CL 安藤建一 SL 天野晃  
三代川春一 戸沢正人 保坂邦昭 山口恒夫 肥沼俊夫 保坂邦彦 飛松伸治
- 1963 9.22~23 丹沢 鍋割山 オープン山行  
小浦雅敏 他
- 1963 奥秩父 甲武信岳  
小浦雅敏 他
- 1963 10.6~7 丹沢 源次郎沢 主催：暁星山岳部  
CL 安藤建一 SL 天野晃  
戸沢正人 保坂邦昭 肥沼俊夫 保坂邦彦 飛松伸治
- 1963 12.25~31 日光 光徳牧場 スキー合宿 主催：暁星山岳部  
CL 安藤建一 SL 天野晃  
三代川春一 小浦雅敏 戸沢正人 小澤昭 保坂邦昭 肥沼俊夫 坂井聖二 岡田利政 保坂邦彦  
OB 柴野邦彦
- 1964 2.20~23 大菩薩峠 主催：暁星山岳部  
CL 安藤建一 SL 天野晃  
三代川春一 小浦雅敏 小沢昭 保坂邦昭
- 1964 3.31~4.4 奥多摩 春山ラリー 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
CL 天野晃 SL 三代川春一  
戸沢正人 小澤昭 保坂邦昭 肥沼俊夫  
OB 柴野邦彦 保坂邦彦 京野起郎 土井清之 小幡純 久渡俊一
- 1964 5.9~10 丹沢 オープン山行 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
CL 三代川春一  
戸沢正人 保坂邦昭 肥沼俊夫 松林公蔵 長谷川一郎 難波秀紀 奥山義公 安藤健一  
OB 平野徹 保坂邦彦
- 1964 6.19~20 丹沢 鍋割山 主催：暁星山岳部  
CL 三代川春一  
保坂邦昭 肥沼俊夫 松林公蔵 宮川紳三 難波秀紀 岡田利政 片山日出夫
- 1964 7.23~24 秩父 雲取山 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
CL 三代川春一  
小浦雅敏 小沢昭 保坂邦昭 肥沼俊夫 松林公蔵 長谷川一郎 難波秀紀 宮川紳三 奥山義公  
OB 小幡純
- 1964 8.2~10 飯豊山 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
CL 三代川春一  
小沢昭 保坂邦昭 肥沼俊夫 松林公蔵 長谷川一郎 宮川紳三 奥山義公  
OB 飛松伸治 土井清之

- 1964 10.3~4 丹沢主稜縦走 主催：暁星山岳部  
 CL 小沢昭  
 戸沢正人 保坂邦昭 肥沼俊夫 松林公蔵 長谷川一郎 宮川紳三 奥山義公 三代川春一  
 OB 土井清之
- 1964 11月 瑞牆山 主催：個人山行  
 CL 小浦雅敏  
 保坂邦昭  
 OB 小幡純 塩田幸一
- 1964 12.25~31 日光 光徳牧場 スキー合宿 主催：暁星山岳部  
 CL 保坂邦昭  
 小浦雅敏 戸沢正人 小沢昭 肥沼俊夫 松林公蔵 長谷川一郎 宮川紳三 奥山義公 加藤賢朗  
 OB 京野赳郎 土井清之 保坂邦彦
- 1965 1.30~31 丹沢 塔ヶ岳往復 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
 CL 小浦雅敏  
 戸沢正人 肥沼俊夫 松林公蔵  
 OB 小幡純 塩田幸一
- 1965 4.2~6 奥秩父 金峰山・瑞牆 春山合宿 主催：暁星山岳部  
 三代川春一 戸沢正人 肥沼俊夫 小浦雅敏 小沢昭  
 OB 小幡純 保坂邦彦
- 1965 4.28~29 鳥尾・三ノ塔 オープン山行 主催：暁星山岳部  
 CL 小浦雅敏  
 戸沢正人 小澤昭 肥沼俊夫 長谷川一郎 宮川紳三 保坂邦昭 金沢和巳 加藤賢朗  
 OB 保坂邦彦 京野赳郎 土井清之 小幡純
- 1965 6.26~27 武甲山 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
 CL 小浦雅敏 SL 戸沢正人  
 牟田口章人 和田洋三 松林公蔵 加藤賢朗 保坂邦和 金沢和巳  
 OB 小幡純 保坂邦彦
- 1965 7.24~25 奥多摩 鷹ノ巣山 主催：暁星山岳部  
 CL 戸沢正人 SL 肥沼俊夫  
 和田洋三 長谷川一郎 金沢和巳
- 1965 7.31~8.6 南アルプス 白峰三山縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：松本光男先生  
 CL 小浦雅敏 SL 戸沢正人  
 肥沼俊夫 和田洋三 長谷川一郎 宮川紳三 加藤賢朗 保坂邦和 松林公蔵 金沢和巳  
 OB 保坂邦彦
- 1965 9.25~26 丹沢 水無川（新茅沢） 主催：暁星山岳部  
 CL 戸沢正人 SL 肥沼俊夫  
 和田洋三 長谷川一郎 松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗 保坂邦和

- 1965 10.31~11.1 北八ヶ岳 天狗岳 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 戸沢正人 SL 肥沼俊夫  
和田洋三 松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗 保坂邦和 金沢和巳
- 1965 12.24~30 長野 北飯山 スキー合宿 主催：暁星山岳部  
CL 戸沢正人 SL 肥沼俊夫  
小浦雅敏 和田洋三 保坂邦和 加藤賢朗 長谷川一郎 金沢和巳  
OB 保坂邦彦 久渡俊一
- 1966 2.19~20 奥多摩 三頭山 主催：暁星山岳部 引率：松本先生  
CL 肥沼俊夫 SL 和田洋三  
松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗 保坂邦和  
OB 小幡純
- 1966 3月 北八ヶ岳 春山合宿 主催：暁星山岳部  
CL 肥沼俊夫  
OB 小幡純 安藤建一
- 1966 4.28~29 丹沢 オープン山行 主催：暁星山岳部 引率：松本先生  
CL 和田洋三 SL 牟田口章人  
松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗 金沢和巳 戸沢正人 肥沼俊夫  
OB 中村泰徳 中村真吾 田辺正夫 小幡純 市川俊夫
- 1966 6.4~5 大菩薩峠 夏山強化 主催：暁星山岳部  
CL 和田洋三 SL 牟田口章人  
松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗 保坂邦昭  
OB 小幡純
- 1966 7.26~30 奥秩父 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：小川先生  
CL 和田洋三 SL 牟田口章人  
松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗  
OB 保坂邦彦
- 1966 8月 剣岳 夏山合宿 主催：暁峯岳友会  
CL 中村泰徳 SL 小幡純  
和田洋三
- 1966 9.24~26 日光 白根山 主催：暁星山岳部  
CL 和田洋三  
松林公蔵 加藤賢朗
- 1966 11.5~6 奥多摩 雲取山 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生・上山武明  
CL 松林公蔵 SL 加藤賢朗  
田代茂  
OB 小幡純

- 1966 12.25~31 野沢 スキー合宿 主催：暁星山岳部 引率：小武海氏  
CL 和田洋三 SL 宮川紳三  
松林公蔵 加藤賢朗 田代茂 肥沼俊夫 金沢和巳 水田  
OB 小幡純
- 1967 2.18~19 上州 武尊山 スキー合宿 主催：暁星・暁峯合同  
CL 和田洋三  
加藤賢朗 田代茂 金沢和巳 田辺正夫 田辺宏 雨宮透 高橋宏 中村泰徳 石井忠治 寒河江進  
保坂邦彦  
OB 小幡純
- 1967 3月 スキー個人山行 主催：個人山行  
CL 和田洋三  
松林公蔵 宮川紳三 加藤賢朗 田代茂  
OB 小幡純 田辺正夫
- 1967 4月 丹沢主脈縦走 主催：暁星山岳部 引率：福山三雄先生  
CL 松林公蔵  
和田洋三 宮川紳三 加藤賢朗 田代茂 金沢和巳 安達則昭  
OB 小幡純 土井清之
- 1967 6月 川苔山集中 主催：暁星・暁峯合同  
CL 松林公蔵  
加藤賢朗 田代茂 金沢和巳 安達則昭 太田慶樹 田辺正夫 吉村惇 高橋宏 中村泰徳 竹平稔夫  
石井忠治 大西和男 小幡純 戸沢正人 肥沼俊夫
- 1967 7月 富士山 主催：暁星山岳部 引率：小川先生  
CL 松林公蔵 SL 加藤賢朗  
田代茂 金沢和巳 安達則昭
- 1967 7月 丹沢主脈縦走 主催：暁星山岳部  
CL 松林公蔵 SL 加藤賢朗  
和田洋三 金沢和巳 太田慶樹
- 1967 8.20~29 剣・立山縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：松本光雄先生  
CL 松林公蔵 SL 加藤賢朗  
田代茂 金沢和巳 太田慶樹  
OB 肥沼俊夫
- 1967 10月 丹沢・塔ヶ岳 本谷沢 主催：暁星山岳部 引率：小川先生  
CL 松林公蔵 SL 加藤賢朗  
田代茂 金沢和巳 太田慶樹 肥沼俊夫
- 1967 11月 雲取山（奥秩父） 主催：暁星山岳部 引率：増村先生  
CL 松林公蔵 SL 加藤賢朗  
太田慶樹  
OB 保坂邦昭



- 1967 12月 野沢 スキー合宿 主催：暁星山岳部  
CL 松林公蔵 SL 田代茂  
加藤賢朗 金沢和巳 太田慶樹 安達則昭 神沢和年 田辺正夫 浅野 長谷川
- 1968 1月 丹沢主脈縦走 主催：暁星山岳部 引率：増村先生  
CL 松林公蔵 SL 田代茂  
安達則昭 保坂邦彦
- 1968 1月 北八ヶ岳 主催：個人山行  
CL 肥沼俊夫  
松林公蔵 田代茂
- 1968 1月 丹沢 集中登山 主催：暁星山岳部 引率：増村先生  
CL 金沢和巳 SL 太田慶樹  
松林公蔵 田代茂 安達則昭 篠原猛夫 光永正 青柳龍資 青柳進 岩崎靖
- 1968 6.8~9 奥多摩 御前山 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 金沢和己 SL 太田慶樹  
安達則昭 篠原猛夫 光永正 岩崎靖 青柳進 青柳龍資  
OB 肥沼俊夫
- 1968 8.5~13 飯豊連峰 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平田浜造先生  
CL 金沢和己 SL 太田慶樹  
安達則昭 青柳進  
OB 小幡純
- 1968 9.21~23 丹沢水無川本谷 主催：暁星山岳部 引率：平田浜造先生  
CL 金沢和己 SL 太田慶樹  
松林雄二郎  
OB 小幡純 保坂邦彦
- 1968 丹沢水無川本谷 (事故救援隊)  
田辺正夫 山下真護 中村泰徳 江川敬宜
- 1968 11月 黒金山・乾徳山 主催：個人山行  
CL 金沢和己 SL 篠原猛夫
- 1968 12.20~22 雲取山 主催：暁星山岳部 引率：増村寛先生  
CL 金沢和己 SL 篠原猛夫  
青柳進 松林公蔵 田代茂 宮川伸三  
OB 小幡純
- 1969 1月 塩沢スキー 主催：暁星・暁峯合同  
金沢和己 篠原猛夫 中村泰徳 田辺正夫 雨宮透 柴野邦彦 石井忠治 保坂邦彦 小幡純
- 1969 3月 日光 白根山 春山合宿  
松林公蔵 加藤賢朗 田代茂  
OB 小幡純 肥沼俊夫

- 1969 5.3 武甲山 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
 CL 松林雄二郎 SL 青柳進  
 青柳龍資 金沢和己 太田慶樹
- 1969 6.7~8 丹沢主稜 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
 CL 松林雄二郎 SL 黒沢三則  
 青柳進 青柳龍資 末吉讓
- 1969 7.18~23 南アルプス南部縦走 夏山合宿 主催：暁峯岳友会  
 CL 小幡純 SL 松林公蔵  
 宮川紳三 田代茂 中村泰徳
- 1969 7.28~31 奥秩父 雲取山・雁坂峠 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
 CL 松林雄二郎  
 長谷川光 金英雄  
 OB 和田洋三
- 1969 10.31~11.3 瑞牆山・金峰山 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
 CL 松林雄二郎 SL 金英雄  
 長谷川光 金沢和己  
 OB 松林公蔵

## 1970~1979 昭和45~54年

- 1970 5.2~3 三ツ峠 主催：暁星山岳部 引率：増村寛先生  
 CL 金英雄 SL 長谷川光  
 平井宏 吉野興一 福井篤 武智伊知郎
- 1970 6.7 陣馬山 主催：暁星・暁峯合同  
 吉野興一 他3人 暁峯5人 家族4人
- 1970 6.27~28 丹沢三ノ頭 主催：暁星山岳部  
 CL 金英雄 SL 長谷川光  
 平井宏 伊藤公仁 吉野興一 福井篤 武智伊知郎
- 1970 7.13 塔ノ岳 主催：暁星山岳部  
 CL 金英雄 SL 長谷川光  
 伊藤公仁 吉野興一
- 1970 8.5~8 北八ヶ岳縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
 CL 金英雄 SL 長谷川光  
 伊藤公仁 福井篤 吉野興一  
 OB 太田慶樹
- 1970 11.28~29 川乗山 主催：暁星山岳部  
 CL 金英雄 SL 長谷川光  
 吉野興一 福井篤 鷺谷隆広 山崎善彦

- 1971 1.31 陣馬山 主催：暁星山岳部  
CL 金英雄 SL 長谷川光  
水野純夫 吉野興一 福井篤 鷺谷隆広
- 1971 5月 乾徳・黒金・西沢溪谷 オープン山行 主催：暁星山岳部  
CL 水野純夫 SL 平井宏  
吉野耕一 永田篤文 佐野聖文
- 1971 8.25～31 白馬岳・雪倉岳・朝日岳 夏山合宿  
主催：暁星山岳部 引率：福山三雄先生  
CL 水野純夫 SL 平井宏  
福井篤 永田篤文  
OB 小幡純 田代茂 太田慶樹
- 1972 夏 仙丈・甲斐駒 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平田浜造先生  
CL 平井宏 SL 伊藤公仁  
宮崎和則 福井篤 永田篤文 他
- 1973 春 谷川岳 マチガ沢 引率：増村寛先生  
平井宏 福井篤
- 1973 5.5～6 三峰山～雲取山 オープン山行 主催：暁星山岳部 引率：松原先生  
CL 伊藤公仁  
福井篤 吉野興一 佐野聖文
- 1973 6.15～16 大菩薩峠  
伊藤公仁 吉野興一
- 1973 8.20～23 奥秩父主脈縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 伊藤公仁 SL 福井篤  
吉野興一
- 1974 4.28～29 大ダワ林道～雲取山  
佐野聖文 松田弘之 長沼利幸 大堀雅之
- 1974 5.11～5.12 丹沢三峰 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 福井篤 SL 吉野興一  
永田篤文 佐野聖文 松田弘之 大堀雅之
- 1974 6.10 白毛門岳～朝日岳 主催：暁星山岳部  
福井篤 吉野興一
- 1974 8.1～8 飯豊連峰 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 福井篤 SL 吉野興一  
松田弘之 大堀雅之 秋山哲弥
- 1974 10.9～10 日光白根山  
福井篤 永田篤文 大堀雅之 松田弘之

- 1974 11.3~5 サオラ峠~飛竜  
佐野聖文 大堀雅之 松田弘之
- 1975 4.2~5 セツ石山・雲取山・夕日沢・青岩鍾乳洞  
秋山哲弥 松田弘之 大堀雅之 佐野聖文
- 1975 4.26~27 源次郎沢より塔ガ岳 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生・平田浜造先生  
CL 佐野聖文 SL 大堀雅之  
松田弘之 秋山哲弥 駒形克哉 宮村匡昭
- 1975 5.18 御前山集中A隊 水ノ戸沢溯行  
佐野聖文 秋山哲弥 大堀雅之
- 1975 5.18 御前山集中B隊 湯久保尾根  
松田弘之
- 1975 5.31~6.1 御前山 主催：高体連全国大会予選 引率：平敷哲先生  
佐野聖文 松田弘之 秋山哲弥 大堀雅之
- 1975 6.7~8 櫛形山 オープン山行 主催：暁星山岳部 引率：平田浜造先生  
CL 佐野聖文 SL 大堀雅之  
松田弘之 秋山哲弥 駒形克哉 伊藤均 朝比奈義仁 川田一慶 柏木弘 斯波鳴夫
- 1975 6.28~29 大岳山 主催：国民体育大会予選  
CL 佐野聖文  
松田弘之 大堀雅之
- 1975 7.11~13 雲取山・カンバ谷・青岩屏風岩 強化合宿  
CL 大堀雅之 SL 佐野聖文  
松田弘之 秋山哲弥 駒形克哉 朝比奈義仁
- 1975 8.21~28 南アルプス 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 大堀雅之 SL 佐野聖文  
秋山哲弥 松田弘之  
OB 高橋
- 1975 9.12~14 谷川岳 主催：高体連 関東大会 引率：平敷哲先生  
CL 福井篤 SL 大堀雅之  
佐野聖文 松田弘之 秋山哲弥
- 1975 9.14~15 谷川岳 国体強化合宿 引率：森川氏  
佐野聖文 松田弘之 大堀雅之
- 1975 9.20~21 氷川屏風岩  
佐野聖文 秋山哲弥 大堀雅之
- 1975 10.26~31 大台が原山 主催：第30回三重国体 引率：森川洋祐先生（都立港工高教諭）  
CL 佐野聖文 SL 大堀雅之  
松田弘之

- 1975 11月 背戸ノ沢・塔ガ岳 主催：高体連秋季大会 引率：本松暉雄先生  
佐野聖文 大堀雅之 松田弘之 秋山哲弥
- 1976 3月 八ヶ岳 春山合宿  
佐野聖文 大堀雅之 秋山哲弥 川田一慶 伊藤均 朝比奈義仁
- 1976 4.2~4 長沢谷  
大堀雅之 秋山哲弥 佐野聖文
- 1976 4.24~25 大菩薩峠 新人歓迎 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 大堀雅之 SL 秋山哲弥  
大森憲司 窪田浩之 大沢寿史 駒形 川口 伊藤
- 1976 5.8~9 乾徳山・黒金山  
窪田浩之 小高克巳 高地豊
- 1976 5.29~30 マチガ沢 雪上訓練 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生・増村寛先生  
CL 大堀雅之 SL 秋山哲弥  
大森憲司
- 1976 6.19~20 権現岳 オープン山行  
CL 大堀雅之 SL 佐野聖文  
大森憲司 窪田浩之 北茂和 富塚誠 桜井武司 大沢寿史 今井滋
- 1976 7.14 モミソ沢  
CL 大堀雅之  
佐野聖文 大森憲司 窪田浩之
- 1976 7.16~17 奥多摩 夏山予備合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 大堀雅之 SL 大森憲司  
高橋紀夫 白崎峰宏 斎藤晴正
- 1976 7.26~29 奥秩父縦走  
CL 窪田浩之 SL 大沢寿史  
大森憲司 越智健
- 1976 8.7~11 八ヶ岳縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 大堀雅之 SL 秋山哲弥  
大森憲司 窪田浩之  
OB 福井篤 吉野興一
- 1976 8.15~19 尾瀬ヶ原・燧岳  
窪田浩之 高地豊 高地芳康
- 1976 8.25~28 荒山沢・不動岳東岩稜初登 主催：山岳同人EAC  
大堀雅之 他5名

- 1976 9.15 鷹ノ巣山 集中登山  
A隊 . . . 今井滋 越智健 白崎峰宏  
B隊 . . . 大堀雅之 大森憲司 窪田浩之 佐野聖文 北茂和
- 1976 10.9~10 丹沢三峰 新人歓迎 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 大森憲司 SL 窪田浩之  
高橋紀夫 白崎峰宏 桜井武司 速水宣孝 島崎仁嗣 越智健
- 1976 11.3 烏帽子岳  
桜井武司 越智健 今井滋 島崎仁嗣 生方良延
- 1976 12.15 丹沢表尾根 集中登山  
A隊 . . . 高橋紀夫 白崎峰宏  
B隊 . . . 大堀雅之 窪田浩之
- 1976 12.29~1.1 金峰山  
大森憲司 窪田浩之 高地豊
- 1977 2.11 武甲山  
窪田浩之 桜井武司 大澤寿史 越智健 高地豊
- 1977 3.22~26 唐松岳 春山合宿 主催：暁星山岳部 引率：増村寛先生  
窪田浩之 大森憲司  
OB 大堀雅之
- 1977 4.4 大山川  
CL 大森憲司 SL 窪田浩之  
今井滋
- 1977 4.23~24 塩沢 新人歓迎  
CL 大森憲司 SL 窪田浩之  
数野光広  
OB 佐野聖文 大堀雅之 秋山哲弥
- 1977 4.29~5.1 大菩薩  
窪田浩之 大澤寿史 島崎仁嗣 今井滋
- 1977 6.6 大岳山 集中登山A隊 オープン山行 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生  
CL 高橋紀夫 SL 白崎峰宏  
今井滋 越智健 宮内慎悟
- 1977 6.6 大岳山 集中登山B隊 国体予選強化  
CL 窪田浩之 SL 大森憲司  
桜井武司
- 1977 6.19~20 大岳山 国体予選  
CL 大森憲司 SL 窪田浩之  
桜井武司

- 1977 7.13~14 勘七ノ沢  
CL 大森憲司 SL 窪田浩之  
桜井武司 大沢寿史
- 1977 8.1~6 南ア南部縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：平敷哲先生  
CL 大森憲司 SL 窪田浩之  
桜井武司 大澤寿史
- 1977 9.18 鷹ノ巣山 オープン山行 集中登山 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生  
A隊・・・ CL大森憲司 SL桜井武司 越智健  
B隊・・・ CL窪田浩之 SL大澤寿史  
C隊・・・ CL高橋紀夫 SL長弘昌 島崎仁嗣 宮内慎悟
- 1977 10.8~10 尾瀬・燧岳  
CL 窪田浩之 SL 桜井武司  
大澤寿史 市川創作 長弘昌 島崎仁嗣
- 1977 11月 塔の岳 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生  
CL 高橋紀夫  
長弘昌 市川創作
- 1977 12.28~1.1 北八ヶ岳縦走  
CL 窪田浩之 SL 高地豊  
桜井武司 木内一元
- 1978 3月 奥多摩 OB会  
窪田浩之 大森憲司 高橋紀夫 市川創作 長弘昌  
OB 多数 その他
- 1978 5.27~28 マチガ沢 雪上訓練 引率：増村寛先生
- 1978 奥多摩 日原 オープン山行
- 1978 雲取山 プレ夏山合宿  
CL 吉澤公寿 SL 高橋紀夫
- 1978 8.3~7 南アルプス 白峰三山縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生  
CL 吉澤公寿 SL 高橋紀夫  
川上幹生 中村直 安齋和之 市川創作 長弘昌 川上桶生
- 1978 秋 金峰山 引率：本松暉雄先生  
CL 吉澤公寿 SL 高橋紀夫
- 1979 高水三山 オープン山行  
CL 吉澤公寿 SL 高橋紀夫
- 1979 5.3 武甲山 引率：守屋先生  
CL 吉澤公寿

1979 鳳凰三山 プレ夏山合宿 引率：本松暉雄先生  
CL 吉澤公寿 SL 高橋紀夫

1979 8月 赤石・悪沢岳 夏山合宿 引率：守屋先生・本松暉雄先生

## 1980～1989 昭和55年～平成1年

1980 12.20 裏高尾 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
高橋紀夫 中村直 市川創作 安齋和之 長弘昌 斉藤頼之 宮田康弘

1981 1.18 三頭山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
高橋紀夫 中村直 市川創作 長弘昌 安齋和之 斉藤頼之 宮田康弘

1981 7.16～19 八ヶ岳・赤岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 市川創作 SL 安齋和之  
斉藤頼之

1981 8.2～8.8 鳳凰三山・甲斐駒・仙丈縦走 夏山合宿 主催：暁星山岳部  
引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
CL 市川創作 SL 安齋和之  
斉藤頼之 深田康介 佐藤洋一

1981 9.23 丹沢 塔ノ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 市川創作 SL 安齋和之  
斉藤頼之

1981 11.1～3 八ヶ岳 上智大ヒュッテ 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
CL 市川創作 SL 安齋和之  
斉藤頼之

1982 3.24～25 奥多摩小袖キャンプ場所 追い出し山行 主催：暁星山岳部  
引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
市川創作 安齋和之 斉藤頼之 江口太郎 佐藤洋一  
OB 高橋紀夫 中村直

1982 6.13 川苔山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 斉藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男

1982 7.17～19 甲武信岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 斉藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男

1982 8.5～7 棒の折山・藤棚山・金毘羅山 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
CL 安齋和之  
市川創作 斉藤頼之 深田康介 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男 佐藤洋一



- 1982 9.23 大岳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男
- 1982 11.1～3 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男
- 1983 2.11 陣馬山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男
- 1983 4.30～5.1 丹沢塔ノ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 菅野祐一 三村知司 田口全男 木村公紀 白石祐介 佐藤一昌
- 1983 6.12 鷹ノ巣岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 堀籠太郎 江口太郎 菅野祐一 三村知司 田口全男 財満耕平 木村公紀 白石祐介  
佐藤一昌 松永成太
- 1983 7.20～23 金峰山・瑞牆山 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 堀籠太郎 佐藤洋一 江口太郎 三村知司 田口全男 財満耕平 木村公紀 白石祐介  
佐藤一昌 松永成太 鷹野孝治
- 1983 8.1～6 北アルプス後立山連峰 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 三村知司 田口全男 財満耕平 木村公紀 白石祐介 佐藤一昌  
松永成太 鷹野孝治
- 1983 9.14～15 大菩薩峠 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 堀籠太郎 三村知司 田口全男 財満耕平 木村公紀 白石祐介  
松永成太 鷹野孝治
- 1983 11.1～3 丹沢塔ノ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 齊藤頼之  
江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男 木村公紀 白石祐介 松永成太
- 1983 11.27 武川岳・二子山（中止） 主催：暁星山岳部
- 1983 12.22 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平 三村知司 田口全男 木村公紀 松永成太
- 1984 2.11 高水三山 主催：暁星山岳部 引率：本松暉雄先生・吉野興一先生  
CL 齊藤頼之 SL 深田康介  
佐藤洋一 江口太郎 三村知司 田口全男 木村公紀 白石祐介 鷹野孝治 中島一憲

- 1984 5.5~6 両神山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 齊藤頼之 SL 深田康介  
 江口太郎 中島一憲 三村知司 田口全男 財満耕平 佐藤洋一 木村公紀 松永成太 鷹野孝治  
 後藤祐介
- 1984 6.9~10 乾徳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 齊藤頼之 SL 深田康介  
 江口太郎 中島一憲 佐藤洋一 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀
- 1984 7.13~15 甲斐駒ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 齊藤頼之 SL 深田康介  
 江口太郎 中島一憲 佐藤洋一 三村知司 財満耕平 田口全男 佐藤一昌 松永成太 鷹野孝治  
 後藤祐介
- 1984 8.1~6 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
 CL 齊藤頼之 SL 佐藤洋一  
 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀 松永成太
- 1984 8.22~26 常念岳・槍ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 齊藤頼之 SL 深田康介  
 江口太郎 中島一憲 佐藤洋一
- 1984 9.15~16 武尊山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 佐藤洋一  
 江口太郎 中島一憲 三村知司 財満耕平 田口全男
- 1984 11.1~2 三頭山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治
- 1985 4.27~29 雲取山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 田口全男 財満耕平 水沼二郎 高橋智人
- 1985 6.2 武甲山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 江口太郎 SL 中島一憲  
 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 高橋智人  
 真田知幸 山岡力
- 1985 7.13~15 谷川岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎  
 高橋智人 真田知幸 山岡力 加藤諭
- 1985 7.29~8.4 赤石岳・聖岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 高橋智人 真田知幸  
 加藤諭

- 1985 8.20~24 白峰三山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀  
 OB 市川創作
- 1985 9.14~15 巻機山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎  
 高橋智人 真田知幸 加藤諭 山岡力
- 1985 10.11 二子山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 深田康介 SL 江口太郎  
 中島一憲 三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎  
 高橋智人 真田知幸 加藤諭 山岡力
- 1986 1.9 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 三村知司  
 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 高橋智人 真田知幸 加藤諭 山岡力
- 1986 5.3~6 乾徳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 高橋智人 真田知幸 山岡力 田中尚道 大島義信 石山哲 矢橋岳彦  
 桜井正人 前田昭彦
- 1986 6.22 川苔山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 真田知幸 山岡力 田中尚道 大島義信 石山哲 矢橋岳彦 桜井正人  
 前田昭彦 鈴木浩蔵
- 1986 7.12~14 金峰山・瑞牆山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 真田知幸 山岡力 田中尚道 高橋智人 石山哲 大島義信 矢橋岳彦  
 桜井正人 前田昭彦 鈴木浩蔵
- 1986 8.3~7 白馬岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 水沼二郎 真田知幸 山岡力 田中尚道 高橋智人 石山哲 矢橋岳彦 桜井正人 前田昭彦 鈴木浩蔵  
 大島義信
- 1986 8.25~29 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 水沼二郎  
 OB 齊藤頼之
- 1986 10.9~10 大菩薩峠 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 真田知幸 山岡力 田中尚道 高橋智人 石山哲 矢橋岳彦 桜井正人  
 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 井村真也 高野晋 山元崇

- 1986 11.1~4 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 田口全男 SL 後藤祐介  
 佐藤一昌 鷹野孝治 真田知幸 山岡力 高橋智人 水沼二郎 田中尚道 石山哲 矢橋岳彦 桜井正人  
 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 井村真也 高野晋 山元崇
- 1987 1.25 倉岳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 田口全男 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 田中尚道 石山哲 矢橋岳彦  
 桜井正人 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山岡力 山元崇
- 1987 2.11 棒ノ折山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 田口全男 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 田中尚道 石山哲 矢橋岳彦  
 桜井正人 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山岡力 山元崇
- 1987 3.22~25 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 中島一憲 深田康介 江口太郎 中島一憲 田口全男 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也  
 真田知幸 高野晋 山岡力 石山哲 矢橋岳彦 桜井正人 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇  
 OB 齊藤頼之
- 1987 5.2~5 甲武信岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 田口全男 佐藤一昌 高橋智人 水沼二郎 田中尚道 井村真也 真田知幸 高野晋 山岡力 石山哲  
 矢橋岳彦 前田昭彦 室健二郎 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹
- 1987 6.7 大岳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 高橋智人 田中尚道 井村真也 高野晋 山岡力 田中尚道 石山哲 矢橋岳彦 前田昭彦  
 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆  
 OB 高橋紀夫
- 1987 6.21 武川岳・二子山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 田中尚道 山岡力 石山哲 矢橋岳彦  
 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆
- 1987 7.12~14 鳳凰三山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 山岡力
- 1987 7.30~8.4 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 山岡力 石山哲 矢橋岳彦 前田昭彦  
 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆

- 1987 8.25~31 穂高岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治 水沼二郎  
 OB 齊藤頼之
- 1987 9.2 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 水沼二郎 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 山岡力 田中尚道 石山哲 矢橋岳彦  
 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆
- 1987 11.2~3 両神山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 水沼二郎 高野晋 井村真也 石山哲 矢橋岳彦 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇  
 成田大樹 室健二郎 杉山一隆
- 1987 11.22 塔ノ岳 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 後藤祐介 SL 鷹野孝治  
 佐藤一昌 水沼二郎 高野晋 井村真也 田中尚道 山岡力 石山哲 矢橋岳彦 前田昭彦 鈴木浩蔵  
 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆
- 1988 1.24 棒ノ折山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 高野晋  
 井村真也 鷹野孝治 佐藤一昌 石山哲 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆
- 1988 2.21 二子山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 後藤祐介 鷹野孝治 佐藤一昌 井村真也 真田知幸 高野晋 田中尚道 石山哲 山元崇 矢橋岳彦  
 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 成田大樹 室健二郎 杉山一隆
- 1988 3.20~3.23 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 田口全男 後藤祐介 鷹野孝治 佐藤一昌 高橋智人 井村真也 真田知幸 高野晋 石山哲 矢橋岳彦  
 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆  
 OB 齊藤頼之 深田康介
- 1988 5.3~5 三ツ峠山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 井村真也 高野晋 石山哲 矢橋岳彦 前田昭彦 鈴木浩蔵 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎  
 杉山一隆 難波裕之
- 1988 6.5 御前山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 井村真也 真田知幸 高野晋 田中尚道 石山哲 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹  
 室健二郎 杉山一隆 難波裕之
- 1988 6.19 鳴虫山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 井村真也 高野晋 田中尚道 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆  
 難波裕之

- 1988 7.13~14 安達太良山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 井村真也 高野晋 田中尚道 矢橋岳彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之
- 1988 7.29~8.3 尾瀬 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 高野晋 SL 井村真也  
 田中尚道 矢橋岳彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之
- 1988 8.25~30 北岳・間ノ岳・塩見岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 高野晋  
 鷹野孝治 井村真也 田中尚道 真田知幸 矢橋岳彦 大島義信  
 OB 齊藤頼之 田口全男
- 1988 9.18 大持山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 井村真也 真田知幸 高野晋 田中尚道 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎  
 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦
- 1988 11.2~3 瑞牆山・金峰山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 高野晋 井村真也 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之  
 二澤真彦
- 1988 箱根明神ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 高野晋 井村真也 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之  
 二澤真彦
- 1989 1.22 丸山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 高野晋  
 井村真也 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之  
 二澤真彦
- 1989 2.11 陣馬山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 高野晋 井村真也 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之  
 二澤真彦
- 1989 3.20~23 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 高野晋 井村真也 真田知幸 後藤祐介 鷹野孝治 佐藤一昌 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇  
 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦  
 OB 田口全男
- 1989 5.3~5 雲取山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 高野晋 井村真也 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 杉山一隆 二澤真彦 奥田宗史  
 大村寿一郎 野垣岳稔 志甫津伸樹 浅井秀明

1989 6.4 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 井村真也 真田知幸 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之  
二澤真彦 奥田宗史 大村寿一郎 野垣岳稔 志甫津伸樹 浅井秀明 井波喬之

1989 6.18 塔ノ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 井村真也 真田知幸 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之  
二澤真彦 奥田宗史 大村寿一郎 野垣岳稔 志甫津伸樹 浅井秀明 井波喬之

1989 7.12~14 苗場山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 井村真也 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 奥田宗史  
野垣岳稔 志甫津伸樹 浅井秀明

1989 7.30~8.3 燕岳・常念岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 井村真也 真田知幸 難波裕之 成田大樹 杉山一隆 奥田宗史 浅井秀明

1989 8.24~28 飯豊山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
井波喬之 高野晋 井村真也 真田知幸 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇  
OB 齊藤頼之 田口全男 後藤祐介

1989 9.15 鷹巣山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 井村真也 矢橋岳彦 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 奥田宗史 野垣岳稔  
志甫津伸樹 浅井秀明 井波喬之

1989 御荷鉾山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 真田知幸 大島義信 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 野垣岳稔

1989 11.23 鹿倉山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 高野晋  
井村真也 矢橋岳彦 山元崇 成田大樹 難波裕之 大村寿一郎 野垣岳稔 浅井秀明 井波喬之

## 1990~1999 平成2~11年

1990 1.21 景信山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 水沼二郎 SL 山岡力  
高野晋 井村真也 真田知幸 矢橋岳彦 大島義信 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦  
大村寿一郎

- 1990 3.20~24 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 水沼二郎 SL 山岡力  
 高野晋 井村真也 真田知幸 鷹野孝治 矢橋岳彦 前田昭彦 大島義信 山元崇 大村寿一朗  
 野垣岳稔 浅井秀明 井波喬之 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦  
 OB 後藤祐介 佐藤一昌 田口全男 深田康介 江口太郎 中島一憲
- 1990 5.3~5 荒船山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 前田昭彦 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 大村寿一朗 野垣岳稔 浅井秀明  
 井波喬之 生川友恒 五十嵐啓
- 1990 6.3 笠山・堂平山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 野垣岳稔 浅井秀明 井波喬之 森定司 生川友恒  
 五十嵐啓 木村衛昭
- 1990 6.24 仏果山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 野垣岳稔 井波喬之 森定司 生川友恒
- 1990 7.14~16 鳳凰三山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 藤永端 浅井秀明 井波喬之 生川友恒 五十嵐啓  
 木村衛昭
- 1990 7.30~8.4 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 前田昭彦 山元崇 浅井秀明 井波喬之 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 高野晋
- 1990 8.27~9.1 常念岳・槍ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 前田昭彦 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 藤永端  
 OB後藤祐介 佐藤一昌 田口全男
- 1990 11.1~3 笠取山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 前田昭彦 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 藤永端 浅井秀明 井波喬之 森定司  
 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓
- 1990 11.23 扇山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 矢橋岳彦  
 山元崇 成田大樹 難波裕之 二澤真彦 大村寿一朗 野垣岳稔 浅井秀明 井波喬之 森定司  
 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭
- 1991 1.15 箱根明神ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 大島義信 SL 前田昭彦  
 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 藤永端 浅井秀明 井波喬之 大村寿一朗 野垣岳稔 森定司  
 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭



- 1991 3.10 高水三山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
杉山一隆 二澤真彦 井波喬之 浅井秀明 生川友恒
- 1991 3.20~24 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
水沼二郎 山岡力 高野晋 井村真也 真田知幸 大島義信 矢橋岳彦 山元崇 杉山一隆 藤永端  
二澤真彦 井波喬之 野垣岳稔 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也  
OB 後藤祐介 佐藤一昌 鷹野孝治
- 1991 5.3~6 大菩薩峠 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
杉山一隆 二澤真彦 藤永端 浅井秀明 井波喬之 野垣岳稔 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭
- 1991 甲斐駒ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
杉山一隆 二澤真彦 藤永端 井波喬之 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭
- 1991 8.5~7 北岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 成田大樹 SL 二澤真彦  
藤永端 浅井秀明 井波喬之 野垣岳稔 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也
- 1991 8.25~29 黒部五郎岳(台風) 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
二澤真彦 藤永端 浅井秀明 井波喬之 生川友恒 五十嵐啓  
OB 高野晋
- 1991 9.29 武川岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
二澤真彦 藤永端 浅井秀明 井波喬之 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也
- 1991 11.1~3 甲武信岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
二澤真彦 浅井秀明 井波喬之 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭
- 1991 11.23 棒ノ折山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
二澤真彦 藤永端 井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也
- 1992 1.19 陣馬山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 難波裕之 SL 成田大樹  
二澤真彦 藤永端 浅井秀明 井波喬之 野垣岳稔 森定司 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也
- 1992 2.9 皇鈴山・登谷山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
CL 浅井秀明 SL 森定司  
井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也

- 1992 3.21~24 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 難波裕之 SL 成田大樹  
 大島義信 矢橋岳彦 前田昭彦 山元崇 二澤真彦 藤永端 浅井秀明 森定司 井波喬之 野垣岳稔  
 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也  
 OB 後藤祐介 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 山岡力 高野晋 田口全男 井村真也
- 1992 5.2~5 飛竜山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之
- 1992 6.21 大岳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 伊藤央
- 1992 7.12~14 国師岳・金峰山・瑞牆山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太
- 1992 7.31~8.4 白馬岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 伊藤央  
 OB 水沼二郎
- 1992 8.24~29 薬師岳、立山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓  
 OB 高野晋 前田昭彦
- 1992 9.20 金時山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太
- 1992 10.31~11.1 三頭山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太
- 1992 11.22 二子山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 草野和俊 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 遠藤良太
- 1993 2.11 丸山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 井波喬之  
 野垣岳稔 生川友恒 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 伊藤央

- 1993 3.21~23 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 難波裕之 成田大樹 杉山一隆 二澤真彦 藤永端 生川友恒 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 伊藤央  
 OB 水沼二郎 山岡力 大島義信 矢橋岳彦 山元崇 前田昭彦
- 1993 5.2~4 櫛形山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太  
 荒川陽彦 野田隆一郎
- 1993 6.6 六ツ石山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 助村隼也 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑
- 1993 7.13~15 磐梯山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 荒川陽彦  
 野田隆一郎 内山恭佑
- 1993 8.1~4 燕岳・常念岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 木村衛昭 加藤義之 遠藤良太 野田隆一郎  
 OB 成田大樹 二澤真彦
- 1993 8.26~30 穂高岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也  
 OB 大島義信 前田昭彦
- 1993 9.18~19 御正体山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎  
 内山恭佑
- 1993 11.2~3 両神山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 遠藤良太 荒川陽彦  
 内山恭佑
- 1994 1.15 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 生川友恒 五十嵐啓 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑
- 1994 2.11 宮ノ倉山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 木村衛昭 加藤義之 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎  
 内山恭佑

- 1994 3.20~22 弁天島 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 浅井秀明 SL 森定司  
 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太  
 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑  
 OB 成田大樹 二澤真彦
- 1994 5.3~5 黒岳・三ツ峠 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 松尾洋平 常陸悠介 山田創  
 池田稔 日野淳
- 1994 6.4~5 百蔵山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 助村隼也 加藤義之 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 日野淳  
 小野晃
- 1994 6.26 石裂山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 木村衛昭  
 加藤義之 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 日野淳 小野晃
- 1994 7.12~14 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 遠藤良太 荒川陽彦 常陸悠介 山田創 池田稔 日野淳 小野晃
- 1994 8.2~6 尾瀬 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 小野晃
- 1994 8.25~29 野口五郎岳・三俣蓮華岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎
- 1994 11.1~3 雲取山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 助村隼也 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑 松尾洋平 常陸悠介 池田稔  
 日野淳 小野晃
- 1994 11.22 大霧山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 木村衛昭 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔  
 日野淳 小野晃
- 1995 1.15 富山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
 助村隼也 遠藤良太 荒川陽彦 野田隆一郎 内山恭佑 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 小野晃

- 1995 2.11 明神ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 生川友恒 SL 木村衛昭  
遠藤良太 松尾洋平 池田稔 小野晃 井浪皓之
- 1995 3.20～23 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
木村衛昭 助村隼也 浅井秀明 森定司 井波喬之 野垣岳稔 草野和俊 遠藤良太 荒川陽彦 小野晃  
松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 日野淳 井浪皓之  
OB 成田大樹
- 1995 5.3～5 御荷鉾山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
遠藤良太 松尾洋平 常陸悠介 山田創 日野淳 小野晃 井浪皓之
- 1995 6.25 黍穀山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
CL 生川友恒 SL 遠藤良太  
松尾洋平 常陸悠介 山田創 日野淳
- 1995 7.13～15 甲斐駒ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
木村衛昭 遠藤良太 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之
- 1995 8.2～7 朝日連峰 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 生川友恒 SL 五十嵐啓  
遠藤良太 松尾洋平 常陸悠介 山田創 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之
- 1995 8.25～29 槍ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
OB 難波裕之
- 1995 11.2～3 笠取山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 遠藤良太 SL 池田稔  
日野淳 井浪皓之
- 1995 11.23 高水三山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
松尾洋平 池田稔 日野淳 井浪皓之 小野晃
- 1996 1.14 日の出山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
松尾洋平 池田稔 日野淳 小野晃
- 1996 2.11 高宕山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生  
CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
松尾洋平 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之 和田哲史

- 1996 3.16~19 氷川 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 生川友恒 五十嵐啓 木村衛昭 助村隼也 松尾洋平 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之 山田創  
 OB 草野和俊 浅井秀明
- 1996 5.2~5 天城連峰 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 遠藤良太 SL 松尾洋平  
 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之 和田哲史 山田創
- 1996 6.23 陣馬山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 松尾洋平 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之 和田哲史 山田創
- 1996 7.13 大菩薩嶺 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 松尾洋平 池田稔 日野淳 小野晃 井浪皓之 和田哲史 山田創
- 1996 7.30~8.4 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
 CL 遠藤良太 SL 日野淳  
 松尾洋平 池田稔 小野晃 井浪皓之 和田哲史 山田創
- 1996 8.26~30 白峰三山 主催：暁星山岳部 引率：遠西敬二先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 日野淳 井浪皓之 小野晃  
 OB 木村衛昭
- 1996 9.15 御殿山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 松尾洋平 小野晃 井浪皓之 和田哲史 山田創
- 1996 11.1~3 雁坂峠 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 小野晃 和田哲史 日野淳 江本哲朗
- 1997 1.19 明神ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 松尾洋平 小野晃 井浪皓之 和田哲史 山田創 日野淳 江本哲朗 池田稔
- 1997 2.11 生藤山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 遠藤良太 SL 日野淳  
 小野晃 井浪皓之 江本哲朗
- 1997 3.19~22 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 遠藤良太 SL 常陸悠介  
 日野淳 小野晃 井浪皓之 江本哲朗 和田哲史  
 OB 五十嵐啓 木村衛昭

- 1997 5.3~4 乾徳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
小野晃 井浪皓之 山田創 和田哲史 池田稔 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷 森川譽久  
磯部紀之 坂口亮
- 1997 6.22 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 小野晃 井浪皓之 山田創 和田哲史 池田稔 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷  
松尾洋平
- 1997 7.12~15 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 和田哲史 池田稔 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷 森川譽久 磯部紀之 坂口亮
- 1997 7.28~8.1 常念岳・燕岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 池田稔 SL 小野晃  
遠藤良太 荒川陽彦 石川知郷 森川譽久 磯部紀之 坂口亮
- 1997 8.24~29 野口五郎岳・三俣蓮華岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 小野晃  
荒川陽彦 和田哲史 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷
- 1997 9.14 塔ノ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 小野晃  
荒川陽彦 和田哲史 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷 池田稔 日野淳 井浪皓之 森川譽久  
磯部紀之 坂口亮
- 1997 11.2~3 両神山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 和田哲史 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷 池田稔 日野淳 井浪皓之 森川譽久  
磯部紀之 坂口亮
- 1997 11.23 伊豆ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 池田稔 小野晃 井浪皓之 和田哲史 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 石川知郷 森川譽久  
磯部紀之 坂口亮
- 1998 1.15 倉岳山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
遠藤良太 荒川陽彦 井浪皓之 和田哲史 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 森川譽久 磯部紀之  
坂口亮
- 1998 3.20~23 北八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
遠藤良太 荒川陽彦 井浪皓之 和田哲史 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 角田寛人 森川譽久  
磯部紀之 坂口亮  
OB 五十嵐啓 木村衛昭

- 1998 5.3~4 櫛形山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
小野晃 井浪皓之 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 山田創 角田寛人 峰岸涼太 森川誉久 磯部紀之  
坂口亮 佐藤龍一 大岡直哉 中嶋明彦 土屋主税 井波翔
- 1998 6.21 三ノ塔 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 角田寛人 峰岸涼太 森川誉久 磯部紀之 大岡直哉  
中嶋明彦 土屋主税 伊波翔 青木駿介 佐藤龍一
- 1998 7.11~13 薬師岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 峰岸涼太 石川知郷 角田寛人 森川誉久 磯部紀之 大岡直哉 中嶋明彦 土屋主税  
伊波翔
- 1998 7.30~8.2 八ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
荒川陽彦 小野晃 山田創 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 井浪皓之 前中貴斗 森川誉久 磯部紀之  
坂口亮
- 1998 8.24~28 野口五郎岳・三俣蓮華岳 主催：暁星山岳部  
引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
遠藤良太 荒川陽彦 小野晃 井浪皓之 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 山田創 峰岸涼太 角田寛人  
森川誉久 磯部紀之 佐藤龍一 坂口亮
- 1998 9.13 棒ノ折山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
小野晃 井浪皓之 山田創 石川知郷 峰岸涼太 角田寛人 森川誉久 磯部紀之 坂口亮 佐藤龍一  
土屋主税 伊波翔 青木駿介 中嶋明彦
- 1998 11.1~4 男体山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
小野晃 江本哲朗 山田創 石川知郷 峰岸涼太 角田寛人 前中貴斗 森川誉久 磯部紀之 坂口亮  
伊波翔 土屋主税 青木駿介
- 1998 11.23 天覚山・大高山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
小野晃 井浪皓之 石川知郷 峰岸涼太 角田寛人 森川誉久 磯部紀之 坂口亮 佐藤龍一 伊波翔  
土屋主税 青木駿介
- 1999 1.15 日の出山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
CL 常陸悠介 SL 日野淳  
小野晃 井浪皓之 江本哲朗 山田創 前中貴斗 石川知郷 峰岸涼太 角田寛人 森川誉久 磯部紀之  
坂口亮 佐藤龍一 伊波翔 土屋主税 青木駿介



- 1999 3.21~23 氷川 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 常陸悠介 SL 小野晃  
 荒川陽彦 井浪皓之 山田創 江本哲朗 前中貴斗 峰岸涼太 角田寛人 森川誉久 磯部紀之 坂口亮  
 佐藤龍一 土屋主税 伊波翔 青木駿介  
 OB 遠藤良太 木村衛昭
- 1999 5.2~4 茅ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 常陸悠介 SL 角田寛人  
 森川誉久 磯部紀之 坂口亮 佐藤龍一 伊波翔 土屋主税 青木駿介
- 1999 6.13 明神ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 山田創 SL 森川誉久  
 磯部紀之 坂口亮 佐藤龍一 伊波翔 土屋主税 青木駿介 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人 利穂佑起
- 1999 7.10~12 燧ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 常陸悠介 SL 山田創  
 森川誉久 磯部紀之 坂口亮 佐藤龍一 伊波翔 土屋主税 青木駿介 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人  
 利穂佑起 伊藤勇太
- 1999 7.29~8.2 鳥海山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・井上豊先生  
 CL 磯部紀之 SL 森川誉久  
 坂口亮 佐藤龍一 伊波翔 土屋主税 青木駿介 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人 利穂佑起 伊藤勇太
- 1999 8.25~27 木曾駒ヶ岳 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 磯部紀之 SL 森川誉久  
 坂口亮 佐藤龍一 土屋主税 青木駿介
- 1999 9.15 大山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 磯部紀之 SL 森川誉久  
 坂口亮 佐藤龍一 土屋主税 青木駿介 伊波翔 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人 利穂佑起 伊藤勇太
- 1999 11.1~2 天城山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 磯部紀之 SL 森川誉久  
 坂口亮 佐藤龍一 土屋主税 青木駿介 伊波翔 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人 利穂佑起 伊藤勇太
- 1999 11.21 石老山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 磯部紀之 SL 森川誉久  
 坂口亮 土屋主税 伊藤陽祐 五十嵐晃 利穂佑起 伊藤勇太

## 2000 平成12年

- 2000 1.16 幕山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生  
 CL 磯部紀之 SL 森川誉久  
 坂口亮 佐藤龍一 青木駿介 伊波翔 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人 利穂佑起 伊藤勇太

2000 2.11 武山 主催：暁星山岳部 引率：吉野興一先生・遠西敬二先生・井上豊先生

CL 磯部紀之 SL 森川誉久

坂口亮 佐藤龍一 土屋主税 伊波翔 青木駿介 伊藤陽祐 五十嵐晃 中田逸人 利穂佑起 伊藤勇太

# 記録

## 暁星山岳部 黎明期

暁星山岳部の歴史 2001年3月15日 中村泰徳

OB会発足に当たり、最初に関心を持ったのが暁星山岳部の歴史でした。たまたま、同窓会誌「暁星」平成5年度号に、「戦前の暁星山岳部史」と題して、佐藤文夫氏1942年（昭和17年）卒が記録を残されていたので、連絡を取らせて頂きました。以下原文の通り。

「私達の時代は、その幕引きをしたらしいのですが、具体的事実は何も無い。おりしも中国大陸での戦火は拡大、太平洋は波高し...の時代で、時局がらと言う事で、自然消滅みたいな事に成ってしまいました。部長は長谷川誠一先生、というよりは（アンパン）として全校的に親しまれた、国語担当の先生でした。年に四、五回近郊の山々を日帰りですり歩いたり、夏休みには、高学年は北アルプス、1～3年は奥秩父、上越、日光周辺を4～5日のコースで...というのがその概要です。それでも四年生になった時には、前述の次第で山岳部としての行動が出来ず、有志として長谷川先生をリーダーに、大滝山・常念岳・燕とアルプス銀座の縦走をしたのが最後となりました。部長であった長谷川先生は、健康で長寿をたもたれましたが、今年1994年（平成6年）5月15日に101才の高齢でお亡くなりになりましたので、その面影を偲びつつ、筆を取らせて頂きました」

部歴編纂に当たり、1945年（昭和20年）以前の部を担当するよう言われ、調べ始めたのが、昨年平成12年の三月。近藤等氏1921年（大正10年）卒を代々木上原のご自宅に訪ねたのが最初でした。

一ヶ月ほど前に手紙で取材を申し込んだ所、快く応じて下さいました。代々木上原の駅から約5分ほどの閑静な住宅街だが、ご多分に漏れず分譲のマンションが立ち並びはじめ、昔からのお屋敷は影を潜め始めています。お住まいは文化人らしくモダンなコンクリート打ちっばなし二階建。建物までの小さなお庭には花が植えられ、落ち着いた有る上品なお住まいでした。奥様とお二人の生活で、海外生活の長いご家庭を感じさせる、暖かいおもてなしをうけました。英国風のミルクテイと美味しいアップルパイ、そして果汁のジェリーをご馳走になりました。過去に一度だけお目にかかった事がありますが、初対面同様。いかにも旧き良き時代の暁星ボーイらしく、同窓の後輩として、心を許して、お話をさせて頂きました。

その後、近藤等氏の従弟で、近藤稔氏1939年（昭和14年）卒鎌倉在住より貴重な御手紙を頂き情報を増やさせていただきました。

何よりも一番有り難かったのは、佐藤文夫氏の紹介で、長谷川誠一先生のご令嬢、さざれ氏から借用できた、長谷川先生の記録手帳でした。これにより1936年（昭和11年）から1940年（昭和15年）までの部員と山行の概略を知ることが出来ました。

このほか、岩城讓太郎氏1937年（昭和12年）卒には日本橋三越前の日本橋クラブにて、松井総治氏1940年（昭和15年）卒には中野のご自宅にて、それぞれ貴重なお話を聴くことが出来ました。いずれの先輩方も、近藤等氏同様、暁星ボーイとして年齢の差を感じさせず、暖かく協力していただけました。

色々前書きが多くなってしまいましたが、調査の原点としたのが、1954年（昭和29年）7月6日 当時の暁星山岳会と暁峯岳友会（1947年昭和22年...1976年昭和51年頃まで活動した有志によるOB会）が主催して、戦前のOBにお集まり頂いた懇談会の出席者達です。僕もこの会には出席致しました。最年長者が伊庭勝弥氏1909（明治41年）卒・藤島敏男氏1914年（大正2年）卒・舟田三郎氏・麻生武治氏1917年（大正5年）卒・初見一雄氏1927年（昭和2年）卒・近藤等氏1939年（昭和14年）卒・小塚修氏1945年（昭和20年）卒・福住修治氏1947年（昭和22年）卒他学生が12名、合計20名でした。こうしたそうそうたる山の名士達は、同じ暁星の卒業生と言うだけで、集まって下さったのでしょうか？ 声を掛けたのは庄司保氏1950年（昭和25年）卒故人で、どのようは方法で連絡を取ったかは不明です。舟田・麻生氏は同学年で分かるとしても、年齢的にもかなり差の有る先輩達です。その時の会の雰囲気は、かなりくだけた先輩・後輩といっ

た雰囲気、どう考えても既に大正の頃より、暁星山岳部はあったと判断しています。しかしながら、出席した8名の先輩の内、近藤・小塚氏を除いては、皆亡くなられ話を聴くことは出来ません。

岳人辞典（東京新聞出版局）舟田三郎氏の部分で「1914年（大正3年）舟田氏は暁星中学に学友（多分麻生氏等）と暁星山岳部を創設した」と記録しています。一方 長谷川誠一先生（通称アンパン）は、その回顧録で「1936年（昭和11年）岩城謙太郎氏1937年（昭和12年）卒の発案で、長江幹事の許可を得て、暁星山岳部を組織、自分が部長に選ばれた」と記録しています。岩城謙太郎氏、近藤等氏にお会いして確認しましたが、自分達の前には山岳部は無かったようだ、とあまり明確ではありません。

その後取材を続けたところ、一枚の記念写真が出てきました。場所は志賀高原のスキー場、写っているのが松井統治氏1940年（昭和15年）卒、同級生で山岳部にいた伊庭三郎氏（神戸在住でご健在）同じく近藤英雄氏、麻生武治氏1917年（大正5年）卒、ドイツ大使館員ゾフ氏。松井氏の記憶では、写真には一緒ではないが近藤等氏もいた、との事。

伊庭三郎氏は伊庭勝弥氏の甥ごさん。伊庭勝弥氏1909年（明治44年）卒の同級生が近藤廉治氏で息子さんが近藤英雄氏。

ちなみに近藤廉治氏のお父様、近藤廉平氏は日本郵船の創業者。伊庭勝弥氏は住友財閥の番頭。麻生武治氏は祖父が福澤諭吉門下の啓蒙家。なにやら明治、大正の上流家庭の交流が見えるような気がいたします。当時皆さんは永田町界隈の大きなお屋敷にお住まいになられていて、大勢の若者達が入りを出していた様子です。松井氏は小学校1年生の時に近藤廉治氏に薦められ、日光で開校されたアルベルトスキー学校に入校したのが、山と関りを持った初めだそうです。その時には近藤廉治夫妻、息子の英雄氏、伊庭氏など暁星に関係のある人達が大勢スキー学校に参加したようです。

以上を総合して推察するに、暁星山岳部の原点は、伊庭勝弥氏、近藤廉治氏1909年（明治41年）卒に有るように思います。大変残念ながら、今回は1937年 昭和12年以前の記録は確認できませんでした。しかしながら、舟田三郎、麻生武治、藤島敏男、初見一雄氏などは、いずれも著名な登山家で、多くの山岳著書を書かれており、何らかの暁星時代の記録が残っていると、確信しています。その一例として、「岩と雪」通巻16号 昭和44年11月25日発刊 舟田三郎著「近代アルピニズムへの道」の一部をご紹介します、今回のまとめと致します。

#### 岩山登攀より

「.....大正7年7月（舟田氏はすでに暁星は卒業、早稲田の大学生と推定する）中学（暁星）の下級生四名を誘って、前年すでに長次郎雪溪から登ったことのある剣岳を、早月川白萩谷から入り、赤元山からの山稜を大窓の頭、小窓の頭、剣頂上、別山へと岩稜縦走したのも、子供心に味をしめた岩壁の魅力の誘いと思っている。

この時は小窓の頭の幕営から登って剣岳山頂で日が暮れ、頂上直下の巨岩の陰に入って一夜を明かした。翌日、剣から別山頂上に下りて来た時、偶然にも同級生の麻生武治（暁星・早稲田）中川嘉一郎（暁星・大学は不明）君が、これから剣に行くのだといって、天幕を張っていた。

後日、夏休みが終わり九月に登校した日、両君から聞いたことであるが、麻生、中川両君が別山に幕営していたところに、後から慶大山岳部の大先輩二名が案内者数名と剣岳背稜縦走の一番乗りを志してやって来た。私達の中学生隊が、しかも案内人なしにお先に、剣山稜の完全縦走の話をしたところ、大先輩たちは私達の初縦走を否定して、信じなかったという事であった。案内者も無しに、しかも中学三年生を混じえての連中に、剣の岩稜の完全縦走など出来るはずが無い、と主張したそうである。.....」



## ●1937.12.24～28 湯田中・上林・丸池 志賀高原スキー合宿

松井総治 湯川保郎 近藤英雄 伊庭三郎 近藤等  
OB 麻生武治  
特別参加 ゾフ氏（ドイツ大使館員）



丸池にて

(左より)  
松井  
湯川  
近藤  
麻生  
ゾフ氏  
伊庭

### 一枚の記念写真からの思い出 2001年2月 松井統治

私のスキーの歴史は1929年（昭和4年）、暁星小学校1年A組に入学した冬に始まる。同級生で私の家と「電車通り」を隔てた永田町の近藤英雄君こと（ひーちゃん）に誘われ、お父様の近藤廉治氏から奥日光に開校されるアルベルグ・スキー学校と、それに参加されるお友達の話をお聴いたときに、私のスキーの第一歩が始まった。その中に暁星の先輩でもあり、廉治氏のクラスメイトでもあった伊庭勝弥氏ご夫妻も同行されていた。近藤、伊庭先輩お二人のお友達も大勢いらっしゃって楽しかった。昼間はスキーで夢中になっていても、夜、床に入ると寂しくなって、しくしく泣いた時に、伊庭のおばさまが優しく側に居てくださったのも、忘れられない思い出である。このアルベルグ・スキー学校の成果は、ひーちゃんと共に上級組に編入されたことが自信となり、ますますスキーの道にのめり込んで行った訳である。暁星在学中、スポーツなら何でもだったが、特に蹴球部で先輩方に引っ張られ練習で足腰を鍛えられた。それがスキー上達に役立った。冬になるとホームグラウンドも奥日光、岩原から志賀高原へと移り、丸池小屋が定宿となった。そのころは上林から荷物もスキーも己の肩と足だけが頼りで、馬糞は女子供のものだった。ましてグレンデにはロープもリフトもない志賀高原スキー場だった。丸池小屋の次郎松爺さん一家とも親しくなり、時には炭俵を背に荷物運びも手伝った。そんなことが格好より、転ばないスキーを覚え、グレンデスキーよりサブリックに弁当を入れシールを腰に巻いて、発甫・熊の湯に足をのぼし高天原、横手のノゾキ辺りまで一日行程の山スキーを楽しんだ。その頃、近藤等先輩1939年（昭和14年）卒、伊庭三郎（同級生で勝弥氏の甥）、戦死した湯川保郎君（同級生）と共に麻生武治大先

輩1917年（大正5年）卒、ドイツ大使館のゾフさんに朝日山で新雪の中を回転、滑降するテクニックも教えて頂いた。そして雪粉を巻き上げ豪快に滑るお二人の姿が私の脳裏に焼き付いている。また長野電鉄小屋の美しいお嬢さんの残映も残っている。そして暁星山岳部が長谷川誠一先生のご指導を受けて誕生し、白馬、黒部、大菩薩などなど、大勢の先輩、学友と山歩きを楽しませて頂いた事も有り難い事だ。戦後、長島先輩（記憶が正しければ）がこの志賀高原での写真の事を麻生先輩に話され、それがきっかけで、戦前から経営していた高円寺にあった私の店「成吉思荘」に来られた時、九十才のご高齢も感じさせず、ラ・マルセイエーズを元気に歌われたのも良き思い出である。伊庭勝弥さん、麻生武治さん、近藤廉治さん、英雄君、伊庭三郎君そして近藤等さん、なにか暁星という縦糸とスキーや山の横糸が織り成す縁の所産と言えれば良いのだろうか。また最近になって、暁星山岳部OB会で、お目にかかった中村泰徳さんが中学生の頃、私の店のあった高円寺に住まわれており、七つボタンの制服で通りかかった時、懐かしく「このおじさんも、昔、暁星に行っていたんだよ」と声を掛けたのが、中村泰徳さんと聴いて（こんな不思議な事があるのか）と信じられなかった。長谷川誠一先生の礎石の上につくられた暁星山岳部は、一世紀も前から見えない柱がたっていたように思えてならない。今ここに改めて暁星山岳部に敬意の念を表さずにいられない。広島で原爆に飛ばされても、今なお、元気で居られる事も感謝、感謝。暁星山岳部の皆さん、有難うございます。

## ●1937.7.18～23 北アルプス 燕・槍ヶ岳縦走

LT 長谷川誠一先生  
 加藤昇一郎  
 近藤稔  
 近藤等  
 大倉雄二  
 他5名  
 G 浅川氏

ルート  
 7月18日 新宿—松本  
 7月19日 一有明—中房  
 7月20日 一燕  
 7月21日 一槍ヶ岳  
 7月22日 一徳沢—上高地  
 7月23日 一新宿



徳沢園にて

(後列左より)  
 近藤等  
 浅川氏  
 近藤稔

(前列左より)  
 不明  
 加藤昇一郎  
 長谷川先生

## ●1938.7.21～26 北アルプス 白馬岳・黒部

LT 長谷川誠一先生

加藤昇一郎 佐洋太郎 近藤等 古川直之 山下洋 熊坂哲夫 浅井清敬 松井統治  
湯川保郎

G 浅川氏

ルート（推定） 樽池・白馬・黒部



白馬岳にて

夏山の思い出 2001年3月17日 近藤等

思い出というものは過去に確実にあったもので、それを懐かしみ、思い出すごとに現実のものとして、よみがえってくるものだ。

このうれしい事実を再確認させて下さったのはOBの中村泰徳氏だ。写真を含めた部歴を編纂なさるといってお話があったので、なにかお役に立つものはないかと昔のものを探してみたところ、

1936年と1937年の「山日記」の山行記録を切り取った紙片と、私に山の魅力を教えてくださった大恩人の長谷川誠一先生となつかしい学友たちが写っている槍ヶ岳（1937年夏）と白馬岳（1938年夏）の山行の写真が数点出てきた。

1937年夏の燕岳から槍ヶ岳への縦走は私にとって最初の北アルプス登山で、縦走路から槍ヶ岳を遠望した少年の感激は今でもよみがえってくる。その26年後にはじめてヨーロッパ・アルプスに接したときと同じ強烈な印象を与えてくれたものだった。

翌1938年夏の樽池からの白馬岳登山もなつかしい思い出だ。記念写真を見ると、長谷川先生、ガイドの浅川さん、それに加藤昇一郎、松井統治、いとこの近藤稔ははっきり見分けがつくが、あと数人は名前が思い出せないのが残念だ。もう60年以上も昔のことなので許していただきたい。





## ●1939 夏休み（日程は不明） 秩父・金峯山・瑞牆山

CL 鈴木宏

SL 天野

千野弘 山本 中山吉雄 佐藤文夫

### ルート

1日目 昇仙峡—金桜神社—水晶小屋泊

2日目 一金峯山—大日小屋泊

3日目 一瑞牆山—金山平（有井館泊）

4日目 一信州峠—信濃川上—戸倉



*Parnassius phoebus*  
Cuv.

### かもしか会の発端 2000年8月 佐藤文夫

自立心の湧いてくる年頃でもあったか、それは中学三年の夏休み。ひとつの冒険旅行に向かって出発することになった（1939年・昭和14年）。学校の山岳部というものに所属して、山を歩くという知識はあったものの、今から考えると、軽い山行を数度重ねただけの連中が、若干経験の深い学友をリーダーにして、仲間は六人、奥秩父連峰の主峰 金峯山（2599メートル）から瑞牆山の縦走コースに挑戦しようということになった。誘われるままに、自分達で計画し、無人の山小屋に泊まる登山プランに、わくわくして、新宿駅を夜行で発ち、甲府から昇仙峡へ…。しかしそれから先の山道に入って初日からつまづいた。どこで道を間違えたものか、目的の水晶小屋は見当がつかず、日は暮れてくる、仲間は居るといっても心細さが先立ってくる。泣きたい気持ちを隠して、ヤミクモに歩いて、当初のコースとは外れていたのだが、幸運にも避難小屋らしきものを見つけ、初めての自炊経験。気持ちも落ち着いて、一夜の眠りを結んだ。翌日、金峯山山頂に立つてからは、コースも順調に捗る。帰途は、予算も余ったということで、突然の予定変更、信州戸倉温泉に向かう。こうなると、わが暁星ボーイは大様なもので衆議一決、一流の旅館へ、となって教えられるままに、笹屋ホテルに乗り込み、二の膳のつくような最高級のお泊り。当時で四円五十銭という料金であった。フカフカの布団で疲れを取った分、財布のほうはスッカラカンで帰宅したものである。しかし、これがキッカケで、学校の山岳部では安全なコースしか歩かないと、個々にグループを組んで、丹沢や奥多摩の沢歩き、裏妙義コースでは遭難まがいの山中行で、やっと横川駅の終列車に間に合う始末。そろそろ食料不足が深刻になりつつある時代で、晩飯を食べる機会もないまま、腹ペコで上野駅から我が家へたどり着いた事もある。今は行列の続く尾瀬の湿原も、秘境といわれて訪れる人も少なく、静かな別天地を満喫したものだ。その間、四年生に進級した年に、暁星山岳部は解散という事態になった。（この夏1940年・昭和15年7月21日～25日、長谷川先生と有志で北アルプス大滝山から燕岳まで縦走）山岳部長の長谷川先生はリベラル派、この思想傾向が気に入らないと、軍部からやって来た配属将校の陸軍大尉が、星の徽章を後ろ盾にゴリ押ししてきた結果ということである。この頃は中国相手に、ドロ沼の戦争状態、やがて太平洋戦争に突入しようか… というサーベル族が幅を利かせている頃だったから、悪代官の一言で消滅してしまっても、対策は立てられない。だがそこは山仲間、ともに息を喘がせながら山道を登り、同じ飯盒のメシを食ってきたという意識で、二人、三人と集まって輪は広がり、いつのまにか気の合った仲間が、十数人集まるようになってきた。校庭の一隅で打合せをしているだけでは間に合わなくなって、学校に近い友人の家に押しかけ、アーじゃない、コーじゃないの拳句「かもしか会」として発足、会長は決めたが、細かい会則など一切なし、プランがまとまっ

た段階で適当に山行きを実行、長谷川先生の主宰した文藝部にも所属していた友人からは回覧誌の発行も提案され、これも呑み込んで、何が目的というでもない、それでいてまとまりのよいグループがスタートすることになった。山行きに関しては前記のように、東京周辺の山々を歩き、回覧誌の方は、すでに用紙類の入手の困難な状態の中、いろいろと手を尽くして二・三回 回覧したか...? 次の段階は少し進歩してガリ版刷りの小冊子をつくり、各自の手許に残すような、活動は中々活発なものであった。学窓を巣立つた後も、軍務につくまでのしばらくの間、戦況もそれほど逼迫していなかったこともあって、折にふれて仲間と山歩きは続けられた。戦後は各地から復員の仲間を迎える度に旧交を温め、社会人として仕事の第一線で働く合間にも、元気者は適当に登山歴を重ねたり、それがなくても、逢う機会をつくり合って六十年の長い交友関係が続いている。四・五年前には古い文集「樹林」「かもしか」などを、百一才の長命で亡くなった長谷川先生（1994年5月没）の蔵書の中で見つけ出し、友人の協力でガリ版刷りそのままの復刻版も出来あがった。しかしそんな友も年齢には克せず、一人欠け、二人欠け かもしかの群れも淋しいものになった。山に行こう、回覧誌をつくらうという幼い行動が、出発点となって続いてきた六十余年の友情、その友が欠けて行く淋しさもあるが、今になっても新鮮な感じで浮かび上がってくる日々は、めぐまれた友人関係の結果だと思う。本棚から古い一冊を取り出した。それは昭和16年（1941年）発行という、扱い次第で背ノリの部分がバラバラになってしまいそうな本だが、加藤泰三の「霧の山稜」という中学生以来、愛蔵のものである。その中の詩の一篇から

「過ぎし日は 遠く昔のようだと お前は言うが

過ぎし日は 近くて昨日のようだと 僕は黙っていた」

## ●1940.7.21～25 大滝山・常念岳縦走



大滝山にて（左より）千野・中山・不明・長谷川先生・ガイド浅川氏・鈴木・天野

## ●1949.8.3～8 日原谷 夏山合宿 檜尾小屋（造林小屋）にて

CL 庄司保

SL 猪野一夫

田辺正夫 原実 西脇雅之助（岡本？）

2001年2月 田辺正夫

8月3日 立川乗換え青梅線氷川駅下車。バス日原下車。日原林道をたどる。鍾乳洞から先はすごい栈道。なれない足元に手間取り重荷にあえぎ予定の半分も進まない。夕方炭焼小屋（名栗沢出合）で檜尾小屋の情報を聞く。（無人で荒廃、後2時間かかる、無理をせずここに泊まれ）。合宿一日目を其処に泊まり翌日に備えることにする。

8月4日（曇りのち雨）樵道をやっと昼過ぎに檜尾小屋へ到着。話にたがわず、無人小屋は荒廃しすぎ。これから世話になる小屋の設営。床の笹を刈り、水源を探し水路を造り、竈を作る。全員疲れて早く寝るが、ダニに悩まされて眠れない。

8月5日（曇り雨）大ダワ林道をえんえんとたどり、大ダワから一気に雲取山頂上へ。雲取山荘で有名な“鎌仙人”こと富田さんから不安な明日以降の天気を詳しく聞き、富田新道を駆け降りる。

8月6日 唐松林道を石尾根まで直登、後半は藪こぎ。ブナ坂から稜線を雲取山頂へ。下りは、主稜線を三条ダルミまで降り、巻き道で雲取山荘を経て昨日の大ダワ林道を駆け下る。さすがに疲れた。

8月7日（午前中晴れ）ゆっくり起きて久しぶりに太陽の陽に当たる、風呂を沸かしたり昼頃までのんびり。入山時とは違い荷も心も軽く、気分も軽やかに下山。氷川山荘の畳の上でゆっくり眠る。

8月8日 合宿解散の日、みんなほっとして帰京。

当時は戦後の混乱期で食料調達もままならず、登山道は荒廃し、かろうじて山仕事の人が補修した栈道を利用させて頂くのがやっとだった。事前の情報収集は大仕事で、戦前の本の情報などでは参考にしかならず、土地の人や、炭焼の人や、樵の人の話など断片的で不確かな情報を基に総合判断するしかなかった。しかも入山してみると、事前に調べた資料と矛盾する現実に絶えず遭遇し、その度に何とか適応していかなければならなかった（応用問題の塊）。今の様に整った登山界からでは想像できないだろう。

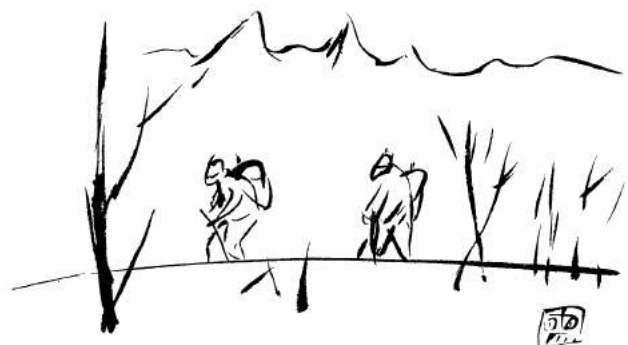
テントも寝袋もない装備で一般ルートでない、人の入らない秩父の谷を選んだのは、若さとはいえ登りたいという気持ちだけが先行していた時に、初めて自分たちの力だけで（知識・経験・体力・器材）企画した合宿は、終わってみれば自分たちの力量不足をしみじみと実感させられた。自然の厳しさと山の素晴らしさに深い感銘を受け、以降の山行計画がとても慎重になった。

## ●1950.7.23～30 日原檜

CL 庄司保

SL 猪野一夫

他11名



## ●1951 夏 烏帽子・槍縦走

CL 吉村惇

SL 高橋宏

雨宮透・泉可彦・江川敬宜・井上英男・杉山明夫・片柳孝昭・他1名

## ●1952.7.26～8.4 北アルプス 徳沢合宿

CL 中村眞吾

SL 竹平稔夫

猪野義夫 佐藤徹 中村泰徳 江川敬宣

OB 庄司保 吉村惇 泉可彦

ルート 槍ヶ岳・蝶ヶ岳 他



### 合宿思い出の記 2001年1月27日 中村眞吾

二十一世紀、最初のOB会会合で思いがけなく部歴編纂委員から徳沢合宿の山行後記を書くよう指示があった。何しろほぼ半世紀前のことで手許には五葉の古ぼけた写真以外になんの資料、記録もなくどこの山に登ったのかも定かに覚えていない。そこでいささか私的な事を含めて当時の山岳同好会やそれとのかかわりを思い出してみたい。私のはじめての山行は前年の夏の雲取山だった。当時高三だった兄の同級生に連れていってもらったのだが、その縁で山岳同好会やOB会（暁峰）の存在を知り、次第に山の魅力にとりつかれていった。1952年、高一になってみると同好会には二年生不在だったが、暫くして中村泰徳、佐藤徹の両氏が入会、一年生は竹平、猪野の両君も参加した。夏の合宿には江川氏も参加したが三年生は部活を自粛ということで、一年ながら部

歴の若干古い私がCLということになった。実質は大学生のOB庄司、吉村、泉の三氏にすべて指導していただいた。前述したとおり山行の中身についてはまるで記憶していないが、雨で火がなかなかつかず業を煮やしてペール缶のガソリンをかけたら、缶が爆発して火傷をしそこなったことや、泉先輩（当時日大芸術学部在学中）が商売道具のカメラを横尾に置き忘れ夕闇迫る中、徳沢から取って返し無事持ち帰ることができたことなど、山とは直接無関係のことが懐かしく思い出される。この山行を共にした方々には故人となった方、消息不明、或いは全く付き合いのなくなった方もおられるが、私にとってはその後の山とのかかわりや暁星山岳部との長い付き合いの原点となった合宿だった。

## ●1953.7.20～28 奥秩父主脈縦走

CL 竹平稔夫

SL 中村眞吾

佐々木侃爾 矢野邦夫 高井康郎 伊藤登 三木毅

OB 吉村惇

### ルート

7月20日 飯田橋—氷川山荘

7月21日 一七ツ石小屋

7月22日 停滞

7月23日 一雲取小屋

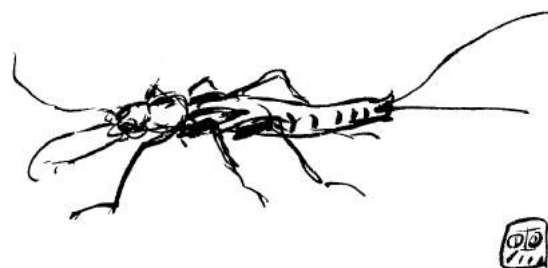
7月24日 一将監小屋

7月25日 一雁坂小屋

7月26日 一甲武信小屋

7月27日 甲武信岳—十文字峠—戦場ヶ原

7月28日 帰京



### 山行後記 2001年1月29日 中村眞吾

1952年の徳沢合宿記と同じ経緯で1953年の奥秩父主脈縦走についても山行後記を書くよう依頼された。この山行のCL竹平君の詳しい記録を読み返してなんとか一文をまとめようと試みたが、やはり50年前のことごく断片的なことを除いてどんな山行だったのかその全体像はまるでおもしろい浮かばない。1953年度 中村泰徳、佐藤徹両氏は3年で夏山参加はできず、2年の竹平君と私、それに山行経験の殆どない1年生会員5名、OBの吉村氏に指導していただきこの山行がおこなわれた。夏山合宿をどこにするかいろいろ意見があったが、前年が徳沢でのキャンプだったので今年は縦走をしよう。みんなの実力から考えて奥秩父に落ち着いた。当初は雲取から金峰までの計画だったが、21日 三木君が体調不良で同行断念、22日 鴨沢まで送り届けるというハプニングがあったりして予定通り行動できず、甲武信から先を断念して十文字峠経由下山した。テント二張を持参しながら実際に使用したのは戦場ヶ原だけ、後は全部小屋どまりとなった。適当な幕営地がなかったことがその理由だが計画の段階でなぜそれがわからなかったのか、今になるとどうしても理解できない。はじめからテントを持たず荷を軽くすれば金峰まで行けたらと思うと一寸悔いが残る山行だった。

## ●1954.8.1～10 北アルプス 横尾 夏山合宿

CL 猪野義夫

SL 藺田充

片桐 清水晃 雨宮淳 高林尚志 杉浦直彦 高島賢次

OB 庄司保 田辺正夫 山下信護 泉可彦 雨宮透



1954.8 松本駅にて

(後列左より) 田辺・庄司・吉村・山下・雨宮透・泉

(中列左より) 清水・藺田・片桐・猪野

(前列左より) 高林・高島・杉浦・雨宮淳

**合宿所感** 1954年11月15日 庄司保 (部報より転載)

1年間の中でもっとも大きな計画である夏山合宿も全く終了し、君達もホッとした事と思う。今回は計画当初より色々相談をうけ、又私達も少しでも多く君達と一緒に山に行き種々な点に於て教えたり教えられたりしたいと考えていたので、合宿に同行させてもらいました。そこでこの合宿について感じたことを幾つか書いてみます。

先づ結論を言えば、君達は「山に慣れてない！！」と言うことです。然し君達はなれない仕事を実によくやりました。午前3時に起床して朝食の用意、行動出発の準備、そして5時には出発、行動中とて勝手な行為は勿論厳禁、休みも少なく一步一步山の頂を目指して歩いている時は、きっと山がなんと高いんだらうと思った事でしょう。テントキーパーはBCに一人残って朝食の後片付け、そしてすぐ夕食の準備等々に追われ、夕方行動隊が帰ってくると直ぐ夕食、そして薪取り、朝の準備・・・テントに入るのは9時を過ぎる。殊に朝は、さっき寝たばかりかと思ったのに3時きっかりには情容赦もなく目覚し時計は鳴り響き、ねむい目をこすって寒い外に出て行くのは相当な意志が必要だったろう。しかもその瞬間から、夜毛布にくるまる迄皆常に明朗な態度で事

にあたって呉れたことは非常に嬉しかった。是非今後もこの明朗さ、素直さを忘れないで続けて持ってください。

しかし忘れないでもらいたいことは今度の合宿が絶好のテント場と連日の好天と言う最大の好条件に恵まれたということです。この様な好条件がそろふことはめったになく、もっともっと悪い条件ばかりがそろふ方が多いのです。そのことを良く良く考えて下さい。次に話は変わりますが合宿に参加しなかった諸君に一言、君達は山に行く友達に何か協力しましたか。自分には行かないからといって横を向いていた人が多かった様ですが、今後はこの様な事なく会員総てが協力して計画を立て実行して行くべきだと思います。

何かと勉強な私達の言う事を良くもきいて動いてくれた諸君に御礼を言います。どうかこの合宿で勉強したことを一つの土台として発展して行って下さい。

殆ど予定通り計画を遂行出来たことを大変嬉しく思っています。

## ●1955.7.22～31 北アルプス 横尾 夏山合宿

LT 石沢先生

CL 藺田充

SL 猪野義夫

雨宮淳 高島賢次 北岡治郎 佐々木昭 高林尚志 泉邦寿 新田弘一

OB 泉可彦 田辺正夫



1955年 泉邦寿（部報より転載）

7月22日 昼から学校に集まりパッキングした。僕の荷物は6～7貫あった。共同装備として2～3貫の袋とザイルとナベが当たった。ナベが当たったのはあまりよくない。何かかっこうが悪いようで……。4時ごろから（10時15分の汽車にのるのに）待つとはなんてばかばかしいとは思

ながら新宿の駅にいったら見ると、もう先着が居るのにおどろき、あきれてしまった。乗車する時はものすごい、皆けんかゴシである。やっとすわって安心したら急におなかへって弁当をたべた。

7月23日 塩尻についた時は、雨はしょぼしょぼ降っていた。荷物をおろすのに一苦労！キュークツなバスにのって上高地まで、オシリがいたくていたくてイヤなっちゃうよ！上高地についても雨がふっている。何人か横尾に入るのがおっくうなようで歩けなくなるようである。明神のあたりまで来たらくつずれが出来て痛くなってしまった。それからもがまんして徳沢まであるいた。前来たときよりも徳沢までの距離が長くなったようである。雨がふって困難なので徳沢園にテントをはるようになった。なかなか杭（ペグ）が入らないので何度もやり直した。やっとテントがたって、さて食事用意となってもなかなか火が付かないのでこずった。カンパンを食べ、みそ汁を飲んだ。暖かいみそ汁が腹わたにしみとおった。この日は早く寝てしまった。

7月24日 天気は晴れのようなのである。薪をとりいき火をたいてご飯のしたくを北岡君や雨宮君がやってくれた。ダシのかわりにスルメをそのままほうりこんだりしてひどいみそ汁ができた。昼ごろからとてもよく晴れてきたので横尾まで入ることにした。横尾まではそうとうあった。だいぶこたえた。泉氏の「BCまでもう少しもう少し」もあてにはならないなんてみんな言っていた。本当である。あぶなっかしい橋をふらふらしながら渡り横尾の岩小屋付近に BCをガッチリとはった。場所はとてもよいところである。屏風岩が真正面にそびえ何かこわいようである。ライスカレーを作ったがその辛いこと辛いこと、みな「辛い方がうまいんだ」なんて負け惜しみを言いながらみんな食べていた。

7月25日 この日はみんなが疲れているので停滞することになった。この合宿へ持っていったカンパンのすごいこと、乾燥剤の袋がやぶれて粉が出てカンパンに付いてしまって、それが付くと唇がはれてしまって困ってしまう。今日もそのカンパンであった。タワシでこすって食べていた。こんな情景は東京では見られないですな！この日、田辺氏が来た。ちょっと体の調子が悪いそうです。・・・・

## ●1956.7.21～8.1 北アルプス 横尾 夏山合宿

CL 杉浦直彦  
SL 高島賢司  
桑原康昌  
OB 田辺正夫





## 夏山合宿の思い出 1956年 高島賢治（部報より転載）

今年も夏休みからいろいろと計画を立てたりもめたりしたが、結局参加人員3名の横尾合宿および銀座の縦走ということになった。今まで先輩にたよりきって安全で楽な合宿ばかりしていた我々は、楽な合宿に慣れ合宿はこんなものだと言った山を甘く見過ぎたような気持ちが多分にあったと思う。縦走のためOB田辺氏が入山するまでの我々は、合宿というよりはキャンプ生活のようであった。田辺氏の細心な予備の食料の計算、縦走路の下調べなど（これに対して我々は実に危険なくらい無知でいいかげんだった）。このような山に対しての先輩の気の配り方を僕はこの三年間見てきたのである。しかし、それをまね自分のものとはしなかった。火のおこし方、カマドの作り方、いろいろな食べ物の利用法、これらをこの二年間、僕は気にもかけずにただボサッと見てたにすぎなかった。実にもったいないことをしてきたと思う。考えるに今まであまりに先輩ばかりにたよりきっていた我々は、これからは先輩の指導を積極的に仰ぎ、自分たちの力で立派な登山ができるようになるべきだと思う。先輩をはなれて初めての夏山のことで、いろいろとうまくいかず、苦しいところはあった。しかし、まがりなりにも自分たちが積極的に夏山合宿を行ったことにより、大いに反省しプラスになったはずだと思う。

## ●1957.7.25～8.3 烏帽子・槍・徳本峠縦走

CL 雨宮淳

SL 高橋嘉弘

高島耕司 桜井卓也 原正吾 野村光 高島賢司 杉浦直彦 田中秀暁

OB 泉可彦 中村泰徳



三ツ岳頂上

●1958.7.31～8.7 横尾 定着合宿

CL 高島耕司

SL 柴野邦彦

田中秀暁 原正吾 平野徹 松岡章夫 桜井卓也 春日寛司 井沢清泰 小峯南  
西村紀雄

OB 佐藤哲也 中村泰徳

ルート

7月31日 島々ーつり橋ーテント場

8月1日 ー岩魚留小屋ー徳本峠ー白沢

8月2日 ー徳沢ー横尾

8月3日 横尾ー徳沢ー大滝小屋ー蝶ヶ岳ー横尾

8月4日 常念岳パーティー ーの俣経由 蝶ヶ岳より下山

CL柴野 田中 桜井 平野 OB中村

奥穂高パーティー 涸沢ーザイテングラードより

井沢 春日 西村 OB佐藤

8月5日 常念岳パーティー

CL高島 春日 松岡 原

奥穂高パーティー

CL柴野 田中 小峯 平野 桜井 OB中村

8月6日 槍ヶ岳 槍沢経由

CL高島 井沢 松岡 柴野 小峯 平野 西村

8月7日 縦走組を残し 徳本峠経由で下山



## ●1958.8.8～12 槍～燕～餓鬼岳 縦走合宿

CL 高橋嘉弘

SL 高島耕司

田中秀暁 小峯南 柴野邦彦 平野徹

### ルート

8月8日 横尾～槍沢

8月9日 一大槍ヒュッテ～水俣乗越～西岳～大天井～燕～北燕

8月10日 一東沢乗越～餓鬼山荘

8月11日 一餓鬼岳～大凧山～常磐駅

2001年3月 柴野邦彦

後半の縦走合宿の食料も持ったため、徳本越えは朝5時に出発して、夜の7時にテント場着という長い一日になった。道の状態が悪かったのと、荷が重かったため疲労による転落などが続き、目的の横尾までは行けず、白沢泊りとなった。

入山は大変だったが、BC設営後は天気にも恵まれ、高1以下は初めての北アルプスを満喫した。縦走合宿に入ると足なみも揃い、予定どおりに餓鬼までの日程をこなして無事合宿を終えた。

## ●1959.7月 針ノ木～劔 縦走合宿

LT 森淳寿先生

CL 柴野邦彦

SL 姚正雄

石井忠治 中野忠義 一の瀬東雄 大西和雄 高橋嘉弘 高島耕司 田中秀暁

### ルート

1日目 大町～扇沢

2日目 一針ノ木峠～針ノ木山往復～南沢出合

3日目 一平～刈安峠～五色ヶ原

4日目 休養停滞

5日目 一ザラ峠～浄土山～雄山～劔沢（暁峯岳友会と合流：田辺正夫・山下真護・中村泰徳）

6日目 劔沢で雪上訓練 他

7日目 劔岳往復

8日目 一大日岳～称名



森 淳寿 先生



2001年3月 柴野邦彦

北アルプスを横断し縦走する大きな計画で、先輩、引率の先生、高3の参加等に恵まれて成功することができた。

当時はOBの山岳会である暁峯岳友会との結びつきが強く、この時も立教大山岳部OBの山下氏、理科大山岳部OBの田辺正夫氏、また同じく理科大山岳部OBの森先生などに、設営技術、登山技術など数々のことを教えて頂いた。部としても充実しており、人数も多かった。計画通りに進めない場合でも状況に合わせて、どこにでも設営しどこにでも歩いてゆく自信を持ち始めていた五色ヶ原では理大の山岳部と設営が隣りあわせた。おかげで、翌日劔沢に着くと先着していた理大の方にテント場を確保して頂いていた。これは森先生、田辺先輩の名前のおかげで、持つべきものは先輩である。

森先生はこの時暁星に就任されたばかりであり、しかも新婚早々だった。奥様が一人で劔沢の小屋まで上って来ておられ、縦走を終えた森先生はその晩から奥様とともに小屋に泊られた。

●1960 7月末～8月 針ノ木～槍縦走 夏山合宿

CL 石井忠治

鈴木介伸 野口孝一 寒河江進 姚正雄

OB 雨宮淳 田辺正夫

ルート

1日目 大町―扇沢―針の木峠―

2日目 一船窪岳

3日目 一烏帽子岳

4日目 停滞

5日目 一野口五郎―雲の平

6日目 一三俣蓮華―双六―硫黄沢乗越

7日目 一横尾

8日目 一上高地

9日目 一徳本峠―島々



針の木～烏帽子間はルートが悪く上り下りも激しい。  
鈴木が腕をケガ 烏帽子で田辺氏同伴で下山。

## ●1961.7.25～8.2 烏帽子・槍縦走

CL 寒河江進

京野赳郎 保坂邦彦 飛松伸治

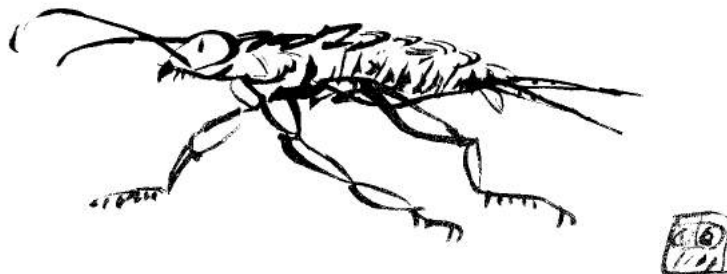
OB 雨宮淳 藺田充

### ルート

烏帽子一槍一東天井一八丁ダル

### 夏山合宿の思い出 1961年 飛松伸治（部報より転載）

1961年7月24日から8月2日までの夏山合宿が夜汽車の汽笛とともに始まった。メンバーはOBの藺田氏と26日から入った雨宮氏、リーダーの寒河江さん、食糧の京野君、記録の保坂君と装備の僕の6人。僕は、あまり山に行っていないので胸がドキドキして落ち着きませんでした。京野・保坂両君は、大変落ち着いていました。先ず初日に頑張れば、次の日からの行程は楽だと先輩の方々に言われたので、僕としては、ガンバッタつもりでもやはりバテてしまいました。それに足にマメができてしまいイヤナ気がしました。それで3日目からもバテまくってしまいました。これこそ“楽あれば苦あり”だと思いました。僕がバテてOBの方々や、リーダーや、同輩の人々に大変迷惑をかけてすまないと心から思いました。山に登っている時は、山岳部なんかやめて2度と山へは来るまいと思っていましたが、東京に帰ってみると、大変楽しくて、山へ行ったのは大変ためになったと思いました。また、本当は、“苦あれば楽あり”だなと思いました。僕はこれを機会にトレーニングをしてチョコチョコ山へ行こうと思いました。また来年！！



## ●1962.12.25～31 奥日光 スキー合宿

CL 保坂邦彦

SL 塩田幸一

土井清之 陳維誠 久渡俊一

小浦雅敏 京野起郎 戸沢正人

小幡純 小沢昭 飛松伸治

保坂邦昭



1962年 戸沢正人（部報より転載）

12月25日 学校集合—上野—日光—中禅寺湖—光徳牧場—学習院ヒュッテ 学校に朝集合して上野11時30分発に乗った。日光から中禅寺湖までバスで行き、乗り換えて光徳ロッジまで行った。そこで雪を見たときは喜んだが、小屋まで行っても変わらないのがっかり。小屋までは40分足らずだったが、今までにない大荷物のため意外と長く感じ、小屋に着いたときは薄暗く、夕食が7時ごろになった。夜食を食べて11時消灯。皆くたびれていたのが早く眠れた。

12月26日 スキー練習 8時前外に出てスキーをつけると雪が昨日より多く感じられ嬉しかった。中学生はスキーが初めての為スイスイと上手いかず、皆の集まっているところへ行くのも一苦労だった。昼前に光徳ロッジまで先輩の知り合いの押見を迎えに行った。光徳ロッジまでは急な斜面のためラッセルのしっぱなしで、ロッジに着いたときはほっとした。押見が来ないので昼食を摂りに小屋に帰った。昼食後押見を混ぜた全員で光徳ロッジまで競争したが、中2の4名がずっと遅れてしまい、飛松さんが迎えに来た。

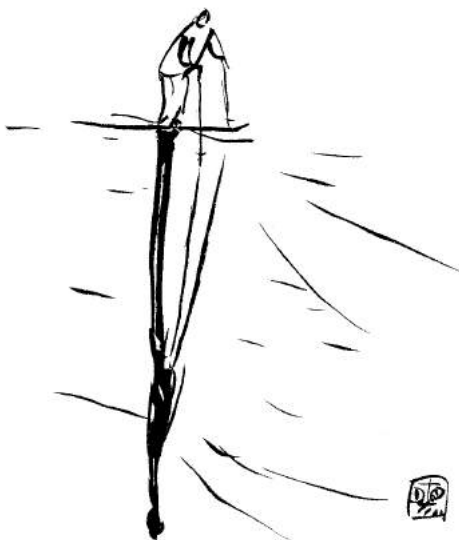
12月27日 スキー練習 全制動、斜滑降は一応教えてもらったが思うように滑れなかった。小澤君が足を挫いた。

12月28日 スキー練習 雪が少ないので雪を集めてグレンデを作った。しばらく練習をしたが、どうにも雪が少ないので、昼食後、光徳ロッジまで数回往復した。もう皆も上手くなってきたのでお互いが競争できるようになった。他のパーティが小屋に来て合宿を始めた。

12月29日 小屋—山王峠—涸沼—切込湖—刈込湖—小屋 8時半ごろ出発。サブザックにスキーという軽装だったが、スキーが意外と重かった。途中、小浦君が目にごみを入れて小休止。久しぶりに歩いたので1時間半ぐらいの行程を3度も休んだ。適当な場所でグラウンドを敷いてスキーをつけた。地形が少し違うので面白かった。

12月30日（雨）停滞 起きてみると何か降っている。雪だろうと思って開けてみると雨でがっかり。朝食後、京野さん宛てに電報が届いて京野さんは帰京。午後雨がやんだので、皆適当にすべる。夕食後コンパそして11時過ぎ消灯。

12月31日 小屋—光徳ロッジ—中禅寺湖—日光—上野 小屋が汚れていたのが、時間をかけて掃除をした。9時出発。日光で汽車に乗るとき、スキーがジャマだった。上野着17時解散。



## ●1963.7.31～8.10 北アルプス 夏山合宿

LT 森淳寿先生 松本光男先生  
CL 飛松伸治  
SL 小幡純  
保坂邦彦 京野起郎 安藤建一  
三代川春一 戸沢正人 小沢昭  
保坂邦昭 山口恒夫 小浦雅敏  
堀口和利 肥沼俊夫 古宮正  
黒田基 岡田利政 坂井聖一  
OB 平野徹

### ルート

8月1日 上高地—横尾—一の俣  
8月2日 —槍沢  
8月3日 —槍ヶ岳—西鎌尾根—双六池  
8月4日 双六池で停滞  
8月5日 —三俣蓮華—雲の平  
8月6日 雲の平で停滞  
8月7日 —伊藤新道—湯俣  
8月8日 —濁小屋—七倉—大町



槍ヶ岳山頂

1963年 山口恒夫（部報より転載）

8月1日（晴）上高地で待っているとなつかしい顔がバスからのぞく。何か嬉しさが胸をつく。あの苦しい荷上げも終わり無事任務を果たした自信を持てた。出発も予定どおり、何事もなく一ノ俣までの行程を終了した。

8月2日（晴）夜も明けぬころからテント場は活動し始めた。出発は予定よりも早く行い午前中の好条件のもとに歩調は続いた。先輩の「頑張れ！」の言葉がみんなにどれほどはげましになった事か。槍ヶ岳、何度見ても味のある山、そんな姿を見たとき、全員の嬉しさも最高だった。今日の行程は午前中で終了し午後には槍沢の雪渓で楽しむ姿も見うけられた。

8月3日（晴のち雹）出発時、朝焼けと共に見せた太陽は出発を遅らせてしまうほど優麗で偉大であった。槍沢の登りは苦しくバテる者続出。「頑張れ、頑張れ」もむなしく予定時間を回ってしまった。槍ヶ岳の山頂は、山の偉大さと厳しさを与えた。それは山を志す者の自信をためし、自信をつけるものであった。西鎌尾根は心配していたよりもスムーズに通過、イオウくさい乗越も通過し、すがすがしい草付きで体を休めた。やがて空模様が悪化、どす黒い雲が一面おおって今に



も激しい雨が…。天気と競争であった。脱落者も数名出しながらやっと双六池が見える所に出た時「勝った」とそうつぶやいた。夕方大粒のヒョウに襲われその晩は濃いガスが我々を襲った。

8月4日（晴）森先生下山。今日一日疲労した体を労りながら今日までの反省を各自行う。

8月5日（晴）出発そうそうバテる者が出る。OB、先輩の厳しい声の中で一生懸命奮闘した。見ると泣きながら登った槍が朝日に映え一時心を奪われてしまった。それは遠い雲海の中に絵具をたらしたように赤い。黒く鋭く光る槍ヶ岳がそれを従えているようであった。雲の平への途中、今まで見ることのできなかつた自然の緑。目にしみるほどのながめ。雲の平へのきつい登りへと入っていった。

8月6日（晴）草原の美しさを知った日でもあった。

8月7日（晴）北アの雪水が原因か数名が激しい下痢を訴える。同じ頃、北アで大学山岳部が赤痢を起こしているのが心配になり、無念ながらも行程を大きく変更し下山という悲しい結果になってしまった。下山しても山行はまだ終了しない。想像していたよりも伊藤新道は苦しく、泣きたくなくなるほど重いザック、全員の顔も虚であった。

8月8日（晴）濁小屋までの道は長い。進んでも進んでも回りの景色は変化しない。七倉に着いた時みんな相当バテていたが歩き終えたという感激は大きかった。

## ●1964.8.2～10 飯豊連峰 夏山合宿

LT 松本光男先生

CL 三代川春一

SL 小澤昭 保坂邦昭 肥沼俊夫 宮川紳三  
松林公蔵 長谷川一郎 奥山義公

OB 飛松伸治 土井清之



### ルート

8月2日 学校－飯田橋－上野

8月3日 ＝徳沢＝弥平四郎

8月4日 －松平峠－切合

8月5日 －草履塚－飯豊神社－飯豊本山

8月6日 －御西岳－大日岳－御西岳－天狗の庭  
－烏帽子岳－十文字鞍部

8月7日 －北股岳－門内避難小屋（停滞）

8月8日 －門内岳－地神山－飯豊温泉

8月9日 －長者ヶ原＝小国＝郡山

8月10日 上野（解散）





#### 飯豊1964 2001年3月12日 三代川春一

今回、暁星山岳会時代の日々を思い起こす機会を頂き感謝します。インターネット、携帯電話の普及している昨今とは比べものにならない、あの飯豊夏山合宿の1964年は東京オリンピックの年でもありました。当時は登山口までのトラック便を運送会社に往復はがきで予約を行う時代でした。卒業後は山からすっかり遠ざかってしまいましたが、暁星山岳会で養われた体力、気力そしてサバイバル能力？のおかげでが今の自分があるのだということを改めて感じています。

以下は暁星山岳会会報第9号（昭和40年4月1日発刊）にある36年前の筆者による夏山合宿（飯豊連峰）記録よりの抜粋です。稚拙な文章ではありますがご一読いただければ幸いです。

「8月2日、出発、色々あわただしい準備もすみ、ついに出発。メンバーはCL高二（すなわち僕）と高一3名、中二4名及びOB2名と松本先生。上野駅では2時ごろから並んで待ち、森先生その他多数の人に見送られて列車は発車した。山に行く時いつも感じる期待と不安の混ぜ合わさった妙な気分になる。しかもこの合宿では僕にCLとしての責任がのしかかっている。8月5日、いよいよ飯豊本山を通過する日だ。この日の出発は大分遅くなってしまった。太陽に照りつけられて登る。いつもトップを高一にして二番、三番目に長谷川、奥山をつけたが、いつも三番目の者が遅れるようだ。この日、天気はものすごく良く、気持ちの良い縦走を行えた。数年前縦走した先輩の話とは違い、相当人が出ている。雪渓も今年は少ないようだ。飯豊本山の少し手前に、きれいな水場があったのには驚いた。この縦走では予想していたよりよい水がありそうだ。この日のテント場は、御西の少し手前の、雪渓の所に変更した。この日は最も縦走の気分を味わえた日であった。夏山後記（これは高一某君記す）8月7日、門内小屋のとき、OB飛松さん、土井さん、小澤に肥沼が水をとりに雪渓の方に下っていった。途中から草があり我らは全員草の上に乗ってすべってしまった。一回目は何とかとまったが、飛松さんが又すべりだした。あぶない！と思ったときはピッケルをつかって滑落停止をした。お見事。雪渓の水は真黒。まるで都会のドブ川であった。しかし水がなかった我々はこの水を飲んだ。おれは死んだねずみが入っていた水や、きたない水を飲んだことがあるから平気だった。高一は3人とも十貫を超えた。それゆえバテたのが一人いた。中二は軽かった。高一にしてみれば誠にうらやましい。」

●1965.7.31～8.6 南アルプス 白峰三山縦走 夏山合宿

LT 松本光男先生

CL 小浦雅敏

SL 戸沢正人

肥沼俊夫 和田洋三 長谷川一郎

宮川紳三 加藤賢朗 保坂邦和

松林公蔵 金沢和巳

OB 保坂邦彦

ルート

7月31日 新宿出発（中央線）－

8月1日 ー甲府ー芦安ー広河原小屋

8月2日 ー白峰御池ー肩ノ小屋

8月3日 ー北岳ー中白峰ー間ノ岳ー農鳥小屋

8月4日 停滞

8月5日 ー西農鳥岳ー農鳥岳ー大門沢小屋

8月6日 ー奈良田ー甲府ー新宿解散

1965年 松林公蔵（部報より転載）

7月31日 山男で超満員の夜行で新宿を出発。

8月1日（晴れ）3時30分の甲府駅は登山者のみでどことなく淋しかった。僕たちは列車の窓から降りバス停へと急いだ。芦安でマイクロバスに乗り換え広河原まで入った。広河原は夏とは思えないほど気温が低く、皆ガタガタ震えていた。周囲を見回すと巨大とも言うべき雄大な諸峰の山容が鋭く張り出していて、その岩肌は白銀に照り返っていた。明日からの行程に備えて散歩で体力調整後、沢の水で氷のように冷した“有難迷惑な”差し入れのスイカを食べた。20時半の消燈後、肥沼が水と間違えて石油を飲み大騒ぎとなるが別状なし。

8月2日（晴れ）5時半出発。重いザックは肩にめり込み、急な登りが果てしなく続いた。長谷川バテ気味の内に白峰御池を通過して、「草すべり」と呼ばれる初めて経験する急な斜面を登った。途中、保坂や和田が鼻血を出したことなどもあって、4度小休止をとって、4時間かかって稜線に出た。約30分で肩ノ小屋に到着。消燈21時半。

8月3日（晴れ）食当起床3時、出発は7時30分。約1時間で何のこともなく北岳に到着した。山頂は日本第二の高峰にふさわしい展望で、甲斐駒・鳳凰三山・間ノ岳・農鳥岳などが一望できた。保坂が鼻血を出したり、長谷川が落としたヤカンをはるか下方まで保坂氏が取りに行ったりしたことなどで少々遅れ、北岳小屋分岐で昼食。中白峰を経て間ノ岳に到着したのは13時だった。農鳥小屋までは急な下りを、テント場確保のため駆け下りた。農鳥小屋の少し手前で雷鳥を見るため2分間小休止。

8月4日（晴れ）停滞。水場の掃除をしたあと、ゆっくり休養。

8月5日（晴れ）2時50分食当起床。中学生だけで共同装備を持つことになった。パッキングの最中、御来光を見て6時に出発。西農鳥山頂はとても狭く、12人登るのがやっとだった。ここからの展望は最高で、北ア・荒川岳・塩見岳・富士山に至るまで一望できた。大門沢下降点に9時着、急な下りが谷底深くまで続いていた。今まで苦勞して獲得した高度を一瞬にして奪い去られるのかと思うと情けなくなった。小休なしで約2時間走り続け河原まで降り、昼食。頭が痛くなる者が続出したので、大門沢小屋に設営。コンパをして23時に消燈。

8月6日（晴れ）奈良田発のバスにあわせてゆっくり出発。始めは沢に沿って歩いたが、しばらく山に入りやがて再び沢に出た。このあたりから吊り橋が急激に増え、トラック道に出るまで続いた。トラック道を歩いて11時40分奈良田に到着した。ここで牛乳を一人2本ずつ飲んだ。この1週間の間でこの牛乳が一番美味しく感じられた。13時半奈良田を出発。途中、保坂氏と先生は再登山をするため下車。甲府には16時に着いた。ここから小浦は生研の夏合宿支援に八ヶ岳に向かった。食事をしてから汽車に乗り、21時40分新宿着解散。



1965.6  
武甲山

●1966.7.26～30 南アルプス 奥秩父 夏山合宿

LT 小川先生  
 CL 和田洋三  
 SL 牟田口章人  
 松林公蔵  
 宮川紳三  
 加藤賢朗  
 OB 保坂邦彦

ルート

7月26日 学校＝新宿＝  
 7月27日 蕪崎＝増富＝金山＝瑞牆山荘＝富士見平  
 7月28日 一大日小屋＝金峰山＝朝日岳＝大弛小屋  
 7月29日 一北奥千丈岳＝国師岳＝甲武信岳＝破風避難小屋  
 7月30日 一破風山＝雁坂峠＝広瀬＝天科＝塩山＝新宿（解散）



甲武信岳

2001年2月19日 和田洋三

部の存続問題で微妙な時期で憧れの北アルプス合宿を断念し、OBと協議の結果奥秩父に決定した。その上中学生の部活も禁止となり、高校生のみとなっていた。

天気には恵まれていて、合宿中晴天だったと思う。サブリーダーの牟田口は初めての合宿なのでチームワーク、計画等に心配だった。

牟田口以下数名の疲労が激しかったので、2日目の全員での往復を中止し、加藤、松林のみ往復する。後の反省材料となる。

瑞牆山往復の途中の岩場で採取してきた『岩タケ』を夕食の味噌汁にするが、とても苦くて飲めなかった。

今合宿の一番の失敗が食料系の計算違いで米の量が不足したことである。

大弛のテント場で気付き小屋やほかのパーティーからカンパをお願いし、大変恥ずかしい思いをした。

翌日の早朝、国師ヶ岳より北奥千丈岳に登ったときの、早朝の爽やかさと奥秩父の最高峰からの眺めが今でも一枚の写真のように記憶に残っている。

計画ではコブシ小屋で三日目のテント場の予定をひとつ先の破風避難小屋に延ばしたが、水場が非常に遠くヤブとアブがひどいため苦労した。また、合宿最後のコンパでコーヒーを飲み2~3人寝られず朝近くまで話していたので雁坂峠まで辛かった思い出がある。

広瀬に下山後、ダム工事の為、バスが天科までしか来ず車道を1~2時間歩くはずが先生のお蔭でトラックに便乗することができて非常に嬉しかった。

合宿後、OBの小幡氏・中村氏と共に、北ア・立山剣岳に入山することが出来た。

## ●1967.8.20~29 剣・立山縦走 夏山合宿

LT 松本光雄先生

CL 松林公蔵

SL 加藤賢朗

田代茂 金沢和巳 太田慶樹

OB 肥沼俊夫

### ルート

8月20日 上野駅出発（20時35分 急行黒部）—

8月21日 —富山駅—千寿平—美女平—室堂—別山乗越—剣沢小屋

8月22日 剣岳往復

8月23日 停滞（台風）

8月24日 —別山—雄山—浄土山—ザラ峠—五色ヶ原

8月25日 停滞（雨）

8月26日 —鳶山—越中沢岳—スゴ小屋—間山

8月27日 —薬師岳—山頂小屋

8月28日 —太郎兵衛平—折立—有峰—小見—富山駅解散

8月29日 —上野駅



越中沢岳

1967年 松林公蔵（部報より転載）

8月21日（晴）定刻に富山駅着。富山電鉄とバスを乗り継ぎ室堂まで入る。新入部員のバテが激しく、皆でハッパを掛け、やっとの思いで別山乗越まで荷を担ぎ上げる。剣沢までのガラガラ道がつらい。皆バテているので、早々に食事、ミーティングをして消灯。

8月22日（晴）一服剣で小休止、白馬・鹿島槍・五竜・鉢ノ木が朝日に映え渡っている。クサリ場で岩の感触を楽しみつつ頂上へ。五色・薬師が一望。帰路は剣御前経由。台風18号が明日正午ごろ中部山岳地帯を通過の予報で、明日は停滞とする。

8月23日（曇のち晴）台風は房総沖に抜けた。発熱し衰弱している松林と金沢は診察を受けに行った。肥沼氏の指導のもと雪渓で滑落停止の訓練をした。

8月24日（曇のち雨、風強し）別山で小休、ヤッケ着用許可。中食の温かいレモン湯で元気づいて雄山へ向かう。雄山にて金50円を取られ、御祓いを受ける。獅子岳山頂で2回目の中食。水汲みに行った田代・太田が雨でビショ濡れになる。

8月25日（雨のち晴）体力回復も兼ね停滞。午後には晴れ、後立山の山並、槍ヶ岳、剣が見える。

8月26日（晴）五色山荘を通過した頃日が出る。行動中に晴れたのは今日が初めてである。越中沢岳で昼食。間山のちょっとした鞍部をテント場にする、直ぐ設営にかかるも皆動作が緩慢である。

8月27日（雨、強風）3時半シトシト降る雨の中を黙々と出発。北薬師の中腹で小休。北薬師山頂を通過する頃は嵐となった。薬師本峰を通過し薬師小屋で着替えをさせてもらう。強風で雨も激しく、設営出来ないので、小屋に泊まることにする。夕刻17時頃より、ようやく晴れる。槍、穂高、薬師、乗鞍が雄姿を現す。ささやかなコンパ行って消灯。

8月28日（曇）薬師平を経て一気に太郎兵衛平に下る。広々とした湿原で穂高をバックに記念撮影。雨がパラつきだす。ギリギリでバスに間に合った。皆元気そうだが、やはり疲労は目立つ。富山駅で解散。

●1968.8.5～13 飯豊連峰 夏山合宿

LT 平田浜造先生	<b>ルート</b>
CL 金沢和己	8月5日 上野駅出発（22時40分 青森行）—
SL 太田慶樹	8月6日 —徳沢駅—弥平四郎—不動滝
安達則昭	8月7日 —三国岳—種蒔山—切合小屋
青柳進	8月8日 停滞
OB 小幡純	8月9日 —飯豊本山—駒形山—御西岳—大日山—御西岳—天狗ノ庭
	8月10日 —烏帽子岳—カイヤギ岳—北股岳—門内岳
	8月11日 —扇ノ地紙—梶川峰—飯豊山荘—ヌクミ平
	8月12日 —長者原—小国駅—上野



1968年 太田慶樹（部報より転載）

8月6日 郡山で磐越西線に乗り換え徳沢駅下車、仙台屋の車で弥平四郎に入る。何度かの小休止後、一夜の宿に適当な抜川へ出た。昼食を摂り、まだ日の高い内に夕食も摂り、天幕の戸口も閉めた。

8月7日 まだ明けやらぬ山径をたどる。疣岩山で昼食後、三国岳へ。初めての雪溪の出会いで、皆喜びを子供のごとくに表現させた。幕営地は種蒔山直下。

8月8日 停滞。

8月9日 懐電の明かりが夜闇を破る。御秘所あたりで御来光、神社から少して飯豊本山頂、360度の展望を楽しむ。御西までの緩傾の径はニッコウキスゲが満開。昼食は午前8時に御西直下で摂る。大日岳が眼前にひかえている。大天狗ノ庭に向かう。天庭とも言うべき乾湿両方の花が咲き誇っていた。

8月10日 早立ちする。与四太郎の池を通過し、柵皮木岳へ着く。十文字鞍部直下の雪渓で6時30分に昼食。約半日のズレを実感しないのは“山の時間に我々が使われているからなのだろうか？北股岳の登りも難なく通過し、眼下にギルダ原を見る。門内の池を見誤りコースを間違えた。台風7号の不気味な風音の中不安な一夜を過ごした。

8月11日 7時になって歩き出す。北西の彼方に佐渡が見える。後方を振り返ると北股岳、大日岳の北面がナイーブで女性的だ。やがて、地神尾根に入り梶川峰までの緩傾な下りの後、急傾斜を下る。2時間で湯沢峰まで来る。飯豊温泉の露天の鉱泉湯に浸かる。ここで、平田先生はステテコ姿で、風呂の水をひとまず掻い出し、次には我々の裸の姿を写真に収めるなど、“カッコヨサ”を残すことなく我々に披露した。

8月12日 雨をおしての行軍となった。体はズブ濡れで、雨天に歩くことの少ない我々は少々難儀した。長者原に着くと雨はやみ、陽光がその強さを増し始めた。やがてバスに乗車、皆一応に眠り夢の中で夏山の日々を思い返していた。周りの林には夏の陽光が甘美な伴奏を奏でる中で。

## ●1969.7.28～31 奥秩父縦走 夏山合宿

LT 平敷哲先生  
CL 松林 雄二郎  
SL 金英雄  
長谷川光  
OB 和田 洋三

### ルート

7月28日 新宿—氷川—鴨沢—奥多摩小屋  
7月29日 一雲取山—飛龍山—将監峠  
7月30日 一雁峠—雁坂峠  
7月31日 一タナ沢出合—新地平—塩山—新宿



雲取山  
雁坂峠



## 夏山合宿の思い出 2001年2月23日 松林雄二郎

部歴編纂事務局の方から原稿の依頼があり、当時の山行記録により記憶を辿りつつ本文をしたためておりますが、何分にも32年前の思い出であり、部分的にしか思い出せません。しかしこの山行が自分にとって初めて成功した山行であり且つ高校時代最後の山行であった為、細部については上記の通り記憶は曖昧ですが、合宿そのものは思い出深い出来事の一つとなっています。と言いますのはこの夏山合宿の前の山行は5月に丹沢を縦走したのですが、この時に自分の体力のみを基準に行程を組み、メンバー全体のペースを読み切れなかった為に、大幅な行程の乱れを招いてしまった経験がありました。その反省をこの夏山合宿で生かさなければとの責務に駆られて、自分なりに事前研究とシュミレーションを重ね、予定通りの山行が出来たと満足した思い出が鮮明だからです。当時は部員も少なく、今回の合宿の参加者は先生・OBを含めて5人でしたが、山岳部の備品には小人数用の物はなく、テント・なべ等全てが8人用以上で、各人にかかる重量負担が大きくなってしまふ事を懸念していました。金および長谷川の両氏は体も小さく、この合宿が初めての山行だったと記憶しています。故に体力とザックの重さ、1日の歩く距離と高低差、これらを頭に入れて速度を出し行程決めた経緯がありますが、この準備期間に抱いていた不安を非常に大きいものと感じていた記憶が生々しく蘇ってきます。しかしいざ出発となると、鴨沢から歩き始めて自分自身が予想以上にバテてしまい、慌てながらも悟られないように必死に歩いた記憶があります。これも前の晩の緊張による睡眠不足が原因でした。それでも一日目を乗り切った後は快適な山行となり、メンバー共々大休止の時、あるいは展望の開けた場所等のささやかな達成感を満喫しつつ最終テント場の雁坂峠に到着し、安堵感と満足感に満ちたコンパを開くことが出来ました。恒例の事ながらコンパ中はみんな表情・言動も明るく、伸び伸びと飲み食いし、歌を歌いゆったりと心地よい疲労感と達成感に浸っていました。いつも賑やかな金が皆を笑わせてくれ、彼と対照的にいつも静かな長谷川も満足感あふれた会心の笑顔を俯けている光景が印象的でした。山行におけるいつもの普通の光景でしょうが、リーダーとして初めて責任を無事に果たし終えようとしている自分にとってはやはり忘れられない高校時代の思い出です。

## ●1970.8.5～8 北八ヶ岳縦走 夏山合宿

LT 平敷哲先生

CL 金英雄

SL 長谷川光

伊藤公仁

福井篤

吉野興一

OB 太田慶樹

### ルート

8月5日 上野出発－小諸－大河原峠－双子池

8月6日 ー亀甲池－横岳－雨池峠－白駒池

8月7日 ークロユリ平

8月8日 ー東天狗岳－根石岳－夏沢峠－硫黄岳

ー美濃戸口－茅野－新宿

1970年 吉野興一（部報より転載）

8月5日 大河原峠までバスで行き、そこから歩いたのだが大河原峠から双子池までは、約一時間で一回の休みもとらなかった。着いてから少し休み、直ぐ食事係、テント係の二手に分けて仕事を始めた。3時になって、全部の仕事が終わり、3時21分、食事を始めた。後片付けを大急ぎでやってテントの中を整理して6時半消灯、少し窮屈だったが良く眠れたらしい。

8月6日 起床1時。伊藤さんの、昔最新式の日覚ましで起きた。みんなよく働いたので食事は早くできた。2時10分食事を終えてまたすぐ働き出した。テントをたたみ、食器の後片付けを済ましてパッキング。出発は3時20分。横岳へ直登する予定だったが、道に迷ってしまい、大休止をして道を探し出すまでガムを噛んでいた。4時40分頃、道を見つけ亀甲池着は5時7分、予定より1時間遅れてしまった。横岳着7時55分、そこで昼食をとった。雨池峠まで約2時間、何も無いが2～3回小休止をとった。白駒池には3時5分着。テント張りが1時間以上かかったのは、この長距離を歩いた為であろう。休んだ時間を入れて12時間、入れないで9時間半くらいだ。この日は、あまり夜楽しくなかった。

8月7日 4時45分起床、ベルが鳴らずに2時間ほど損をした。この日は3時間ほどしか歩かず全然バテなかった。そのためコンパが終わっても、散歩などができた。消灯は7時15分。

8月8日 一番辛く、一番長かったのがこの日で、休みも入れて9時間ほど歩いた。だが、下りが殆どなので時間は少なくてすんだ。沢の水を見るのは久しぶりなので、沢に出たところで小休止をした。(硫黄岳、天狗岳等は省く)美濃口でコーラを飲んだがとても美味かった。帰りの電車内は大変暑く、僕は洗面所に荷物等を置き、その上に乗って寝ていた。新宿に7時45分に着き、別行動をとって帰った。



## ●1971.8.26～29 白馬岳

LT 福山三雄先生	ルート
CL 水野純夫	8月26日 蓮華温泉－天狗の庭－白馬大池
SL 平井宏	8月27日 一小蓮華岳－三国境－白馬岳－三国境
福井篤	－雪倉岳－ツバメ平
永田篤文	8月28日 一朝日岳－朝日小屋－恵振山－北又小屋
OB 太田慶樹	8月29日 一小川温泉

### 30年後の白馬岳山行後記 2001年3月3日 水野純夫

私は高校からの外部入学生で、中学時代に富士山や妙義山、丹沢等の登山経験はあるものの、北アルプスに入山したのはこの時が初めてでした。参加OBの太田さんには、計画段階のアドバイス、山行中にも休憩の取り方や、ペース配分等色々教を頂きました。天候にも恵まれ、白馬こそ人で溢れていましたが、雪倉岳周辺からは大学のワンゲル部員らしいパーティーに出会ったきりで、静けさに包まれていましたし、シーズンからは外れていますが、雪倉から朝日にかけてはお花畑の宝庫で、その残り香くらいは、楽しめたと思います。朝日岳の山頂からは富山湾を望むことができ、

その点でも恵まれていました。翌日は、恵振山の急坂を下りで良かったと思いながら北又小屋目指して、駆け下りました。最後に北又小屋目指して渡った、長い吊り橋の架かった川が、黒部の陰谷北又谷だとは、その時は知りませんでした。未熟なリーダーではありましたが、現在事務局でご苦労願っている平井氏のSLとしてのサポートや、メンバーの協力で、何とか成功裏に合宿を終えることができたと思っています。その後夏冬4回ほど白馬のピークを踏みましたが、やはりこの山行が、一番思い出に残っています。

## ●1972 夏 仙丈・甲斐駒

LT 平田浜造先生

CL 平井宏

SL 伊藤公仁

宮崎和則 福井篤 永田篤文 他

### 私的山岳部考 2001年4月 平井宏

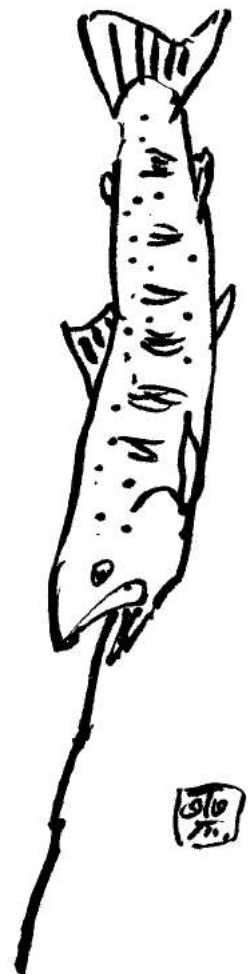
始まりは柔道部でした。

小学校の頃からひとりで講道館に通い柔道をしていた私は、成り行きで中学校柔道部に入部、そこで松林雄二郎先輩と出会うことになります。山岳部の新入部員が少なく廃部になりそうだという理由で転部した松林先輩を追う形で、私も全く未経験の「山を歩く」という世界に入っていました。十代の男子にとって登山の道具は確かに魅力的なもので、山に登る前から何度も「サカイヤ」に出入りしたことを思い出します。勿論、最初の三ツ峠も私にはかなりシンドく、「なぜ山に登るのか」という疑問がしばらくは体のどこかにあったような気がします。

私が在籍していた三年間程は、どの年も高校生部員が二名しかいないという「冬の時代」ではありましたが、山の経験が豊富な2年後輩の福井・吉野などの入部で少しは山岳部らしい格好がつき、佐野・永田など後に山の猛者となる若手も加わり、何とか部を継続していくことができたようです。OBの方々が暁星山岳部の山行に参加していただいていたのは、おそらく私たちの年代位までだと思います。

私がいまだにおつきあいいただいているOB諸氏とは、現役当時一緒に山に登ったことなどほとんどありませんが、始まりはやはり「在学中にお会いしたこと」だと思っています。

このOB会の手伝いをしていると当時より山が好きなのかもしれない自分がいるような気がします。今度はいつどこの山頂に立つのでしょうか。



## ●1973.8.20～23 金峰・国師・甲武信 本合宿

LT 平敷哲先生  
CL 伊藤公仁  
SL 福井篤  
吉野興一

2001年3月 吉野興一

1973年の本合宿といえば、暁星山岳部員数最低記録といってよい。前年まで大勢だった中学生が次々に部をやめていき、結局は本合宿参加者は高校2年生の伊藤さんと高校1年の福井、吉野だけになった。当時の顧問教諭は平敷先生である。それでも奥秩父縦走の準備が進められ、中央線茅野駅から合宿ははじまった。初日はラジウム鉱泉から入り富士見平泊まり。

教師を入れてたった4人ではあったが、布地製のテント一式に4泊分の食料と石油など、キスリングの重量はみな30キロを越えていた。しかも、なのである。某OB氏が出発の間に差し入れをもってきた。ものは「すいか」である。どういうつもりで西瓜だったのか、ほとんどイヤミとしか思えない代物ではあっても、「尊敬する」OBの差し入れである。リーダーの伊藤さんはありがたく押しいただき、私に向かってこう言ったのである。

「吉野、グランドシートの装備だったよな。この西瓜、グランドシートに巻いて、割れないように持って行って」純情だった私はとくに反論することもなく、金属製の椀で西瓜をうまいこと包み込むようにして新聞紙でくるみ、キスリング本体の最上部に乗せてパッキングした。背負うと、西瓜の分というよりは不条理に持たされた荷物の重さの分、私にはとても重いザックに感じられた。2泊目の大弛小屋までの行程は晴天にめぐまれ、金峰の山頂からは四囲の中部山岳地帯のめばしい山峰をほとんど望むことができた。感激であった。3日目、甲武信小屋をめざしたが、途中の東梓の手前の尾根路でのことである。縦走路をはずして東側の小尾根の踏み跡に迷い込んでしまった。気がついたときには高度差二百メートル以上ほども谷筋に下っており、しかも、セオリーに反して道なき道を直登してやっとなのおもいでもとの尾根に戻るのになんと3時間も費やしている。皆、あごをだした。バテバテで甲武信小屋に到着した。テントを張り、水くみもすませ、夕食の準備も終えた。いよいよ、である。先生を入れて4名で喧嘩が起きるはずもなく、正確に四等分にカットされた西瓜が皆の前に配られたとき、伊藤さんがこう言った。「この西瓜、小さいな・・・」三日間、割らないように細心の注意をしながら持ち上げた西瓜である。炎天下の尾根道を運びあげた西瓜である。これを持つように言ったのはあんたじゃありませんか。たとえ小さかろうと、俺には宝物のような西瓜なんすよ。黙ってうれしそうに食べて下さいよ...。私がそんなことを考えているとき、すでに伊藤・福井の両氏は西瓜を食べ終えようとしているではないか。いそぎパクついたその味は、わが生涯最高の西瓜なのであった。

翌日、雁坂峠を越えて西沢側に無事に下山。山の天候の良さとともに西瓜の味を思い出す、妙に味わいのある思い出深い山行ではあった。

## ●1974.8.1～3 飯豊山 夏山合宿（途中撤退）

LT 平敷哲先生

CL 福井篤

SL 吉野興一

松田弘之 大堀雅之

### ルート

8月1日 上野発

8月2日 小国===長者原---事故地点---長者原===小国---大津屋旅館

8月3日 帰京（予定は8日まで）

### 1974年夏山合宿追想記 2001年2月26日 福井篤

早いものであの合宿から27年の歳月がたとうとしている。1974年夏は梅雨空け後も天候が安定せず雨模様の日が続いた。出発の8月1日も雨が激しく、東北地方の一部では豪雨になっていたと思う。その影響を受けて上野発の東北地方行きの列車ダイヤはかなり乱れていた。そんな何か重苦しい様相の中、我々、平敷先生も含め5名は上野駅を後にした。翌日、小国に到着したときは雨も上がり一転快晴。一同乗合バスに乗り込み長者原まで行く。長者原で水を補給し出発する。林道をしばらく歩くと「この先通行不能、わき道を」との標識があった。我々はそれに従いわき道（通常の登山道）を進む。わき道を歩き始め数時間後に大きな雪渓が現れる。標高はまだ低いのに、雪渓が残っていることに対し、一同感動と驚きを憶える。この雪渓をトラバースした後小休止をとる。わき道の左（沢）側は4m近くガレており雪渓も残っていた。わき道上には雪はなかった。いつものように水筒から水を飲んだりポーッと疲れを癒した。その時である。眼の前の松田がふと立ちあがったかと思うと、わき道の左（沢）側のがけへ転落してしまった。いったい何が起こったのか。しかし現にがけ下には松田が臥している。とにかく何とかしなければ。大きく迂回し松田の所に行く。意識はしっかりしているが額から出血している。幸い里から離れていない。直ちに吉野と大堀に長者原まで走ってもらう。現地には福井と平敷先生が残り応急手当にあたる。何時間か待つと地元の人が別ルート（途中で迂回した林道）から救助に来てくれた。松田を背負いジープに乗せ、長者原さらに小国までもどった。病院へ担ぎ込まれた松田は幸い大きな怪我ではなく、脳の異常もなかった。翌日、我々3名は松田を残し帰京した。

上記のことが1974年夏山合宿の概要です。時間が経過しているので一部間違いがあるかもしれませんがそれはお許し下さい。このような形で事故が起こったことに対し、リーダーとして至らぬ点が多々あったと思います。もう少し先であるいは手前で小休止をとっていれば、最悪の転落ということはなかったと思います。それと標高が低いところでも雪がかなり残っている情報を事前に入手し、パーティー全員に衆知させておくことも必要であったと思います。我々が事故を起こした日前後に、いくつかのパーティーがこの飯豊連峰で滑落事故を起こしていました。大怪我でなかったことがせめてもの救いでした。今は立場が変わり、大学の実習船で学生とともに頻りに海洋調査を行っています。当時の平敷先生の心中がよくわかるようになりました。

●1975.8.21～28 南アルプス 夏山合宿

LT 平敷哲先生  
CL 大堀雅之  
SL 佐野聖文  
秋山哲弥 松田弘之  
OB 高橋 宏

ルート

8月21日 集合 新宿===甲府  
8月22日 ---広河原---小休止---二股---お花畑---小太郎尾根---肩小屋  
8月23日 -停滞  
8月24日 ---北岳---稜線小屋---中白峰---間岳---巻き道分岐（昼食）---西農鳥岳---農鳥岳--  
--西農鳥岳---分岐---三国平---熊ノ平  
8月25日 ---展望岩---北荒川分岐---北荒川岳---北股岳---蝙蝠岳---北股岳---塩見岳--  
--塩見岳小屋---本谷山---三伏小屋  
8月26日 -塩見小屋---本谷山---三伏小屋---分岐---稜線---鳥帽子岳 前川河内岳--  
--小河内岳（昼食）---ザレふち---板屋岳---高山避難小屋---テント場  
8月27日 A隊（佐野・大堀）高山裏露营地---荒川前岳---荒川小屋---大聖寺岳---小赤石岳--  
--赤石岳---小赤石岳---大聖寺平---荒川小屋---前岳---中岳---悪沢岳  
B隊（松田・秋山・高橋氏・先生）高山裏---中岳---悪沢岳  
A.B隊合流 悪沢岳---千枚岳---マント沢ノ頭---口ポット雨量計---小休止---二軒小屋  
8月28日 ---転付峠---保利沢小屋---広河原---田代入口---身延===新宿



1975年 大堀雅之（部報より転載）

この合宿の構想をたてたのは半年程前であろうか。去年の失敗もあるので今回は、どうしても成功させたかった。合宿直前といってもいい7月になって僕はリーダーになった。7月中には強化合宿として奥多摩でボッカ訓練をした。体力面では自信があったはずの僕らであったが、パーティが何度か分裂してしまったのは過信によるトレーニング不足ではないだろうか。半年前からの構想には、合宿直前にパーティが全員そろって仕事をするということが少なかった。リーダーとして僕がいたらないため、何度か失敗もしてしまった。最初の計画は北岳～赤石岳であったが僕自身どうしても聖までいきたかった。北岳で台風にたたかれた時もテントのポールをおさえながらがぜん闘志がわいてきた「赤石までは、何としても行く！」こんな意地みたいなものがあった。これを達成するには、少しぐらいの苦しみにくじけては絶対にならないのだ。ひとりひとりの南アルプスの自覚も欠けていたのではないだろうか。一日一日の行程を出発前によく考え、それなりのトレーニングをしていれば、この合宿は完全に達成できたはずだ。部員の団結も足りなかった。「全員が合宿を成功させる気があるのか。」など、つまらない疑問が何度か僕の頭をよぎったこともあった。パーティの最弱の者に合わせるのは鉄則だが、二軒小屋まで下りることが決まった時は内心くやしかった。リーダーとは、常に部員の安全を考えてなければならぬのに、僕は完全に失格である。赤石山頂に立った時はうれしかった。一応、半年間、頭の中であたためていたことが実現したのだから。前途には部員同士のはげしい口論はしょっちゅうで、つかみあうことも何度かあった。この合宿で喜び、苦しさ、助け合いなどの人生の縮図を僕は見た気がする。この貴重な体験をもとに次回より強靱な体力と精神力で挑もうと思う。最後にお忙しいのに付きそって下さった先生、親切なご指導をしてくださったOBの方々にあつくお礼を申し上げます。

## ●1976.8.7～11 八ヶ岳縦走 夏山合宿

LT 平敷哲先生

CL 大堀雅之

SL 秋山哲弥

大森憲司 窪田浩之

OB 福井篤 吉野興一

### ルート

8月7日 上野駅—小諸駅—大河原峠—双子山—双子池

8月8日 一亀甲池—北横岳—坪庭—雨池峠—縞枯山—茶白山—麦草峠—黒百合平

8月9日 停滞 東天狗岳往復

8月10日 一東天狗岳—根石岳—箕冠山—夏沢岳—硫黄岳—赤岳鉱泉

8月11日 一硫黄岳—横岳—赤岳—中岳—阿弥陀岳—行者小屋—赤岳鉱泉—美農戸口

1976年 大森憲司（部報より転載）

8月7日 朝6時に上野駅に集合し、昼前に大河原峠のバス停に到着した。小休止ののち出発。福井さんが差し入れたスイカを大森が担いだ。双子山を越し双子池へ。ハイカーがやたらに多い中で重荷を担ぐ我々はこっけいである。大森の水筒のふたの締め方が悪く水が半分くらいに減った。大森の考案でカレーにトマト入れた夕食が美味かった。スイカを食べた。

8月8日 高1の大森と窪田の食事の用意が遅くサブリーダーの秋山に迷惑を掛けた。3時56分にヘッドランプで足元を照らしながら亀甲池へ向かう、北横岳へのルートを探し、登り始める。頂上から坪庭へ向かう。坪庭にはロープウェーが上がってきており、登山という感じは微塵のかけらもない。雨池峠で小休、縞枯山で昼食。ハイカーばかりで、登山者らしき人は見当たらない。茶臼から麦草ヒュッテまでは飛ばして下り、高見石小屋にも難なく着き、空身で高見石へ登った。大堀が、いきがったハイカーにけちをつけられ不愉快になった。中山で小休、南八ヶ岳の眺めはなかなか良かった。一気に黒百合平へ下った。

8月9日 風雨が強く停滞。秋山が昼頃下山（渋ノ湯）した。空身で天狗岳に登ったが、展望もなく面白くなかった。

8月10日 寝坊して福井さんに叩き起こされた。お粥のようなスパゲティを作ってしまう不味かった。横殴りの雨のなか出発。硫黄岳の登りでは大森も窪田も爆裂火口へ落ちそうになった。大森のペースがまたも鈍くなり、大堀が激怒し登山靴で大森の顔を蹴飛ばした。横岳通過を中止し赤岳鉱泉へ降りた。夕方には天気が回復。夜はコンパ。

8月11日 抜けるような快晴。空身で硫黄、横岳、赤岳、中岳、阿弥陀岳へ登った。展望もよく北アルプス、南アルプス、富士山がとても綺麗であった。赤岳頂上から、先生はそのまま下山された。昼過ぎにテン場へもどり撤収の後出発、窪田がなぜかいじけた。美濃戸口まで下り、福井さんの別荘に寄った。大堀、吉野さんはそこに泊まることにした。大森と窪田は帰京。

## ●1977.8.1～6 南アルプス南部縦走 夏山合宿

LT	平敷哲先生	ルート
CL	大森憲司	8月1日 東京駅発一
SL	窪田浩之	8月2日 一畑薙第一ダム一聖沢橋
	桜井武司	8月3日 一赤石小屋
	大澤寿史	8月4日 一赤石岳一百間洞一中盛丸山一コル
		8月5日 一兔岳一聖岳一上河内岳一茶臼岳一茶臼小屋
		8月6日 一畑薙第一ダム一静岡駅

1977年 大澤寿史（部報より転載）

8月2日 長い林道歩きが始まった。青薙の登山口を右手に見ながら畑薙橋に着き軽食をとる。石渡の水場の湧水は冷たくおいしい。聖沢橋の手前の空き地にテントを張ることにした。

8月3日 暗い中を榎島へと向かう。畑薙へ向かうパーティーと幾度となくすれ違い登山口に着く。手すりや階段の登りを、先生、窪田、大沢、桜井、大森の順で登る。木隙から、聖、荒川、正面には赤石が大きく聳えている。そこから赤石小屋まではすぐだった。小屋からの赤石カール、聖は大きい。

8月4日 小さな山をトラバースし、北沢源頭を過ぎ、カールの登りだ。ジグザグを幾度か繰り返して、やっとコルに出た。そして赤石岳山頂。荒川、聖、中ア、富士の展望を楽しんだ後、下に見える百間平へ、大ガレを下る。ここはハイマツと雷鳥の天国だ。大沢岳は諦める。百間洞山の家で昼食を摂り、水を汲んで出発。30分で稜線に出た。中盛丸山に登る。コルで幕営。

8月5日 小兎の登りは穏やかである。軽く下ってジグザグの兎岳の登り。兎岳からかなり下ったところに避難小屋が見えた。コルの水場の標識で小休。右手は聖の大崩壊地だ。聖岳のハイマツ



の登りにかかる。山頂からは荒川、赤石、上河内などの大展望。大森と窪田は奥聖岳を往復。ガレ場で足下に気をつけながら小聖岳を通過し、聖平に着。上河内岳南面の樹林帯の長い登りのあと南岳を抜け、コルに出た。二重山稜の窪を歩き、ケルンにたどり着く。窪田と桜井と大澤は上河内岳を往復する。上河内岳山頂から光岳、信濃俣、大無間山塊の秘境をのぞむ。分岐に荷物を置いて茶臼を往復した。茶臼小屋の前にテントを張る。光岳はカットする事にした。

8月6日 月の光がダム湖を照らすなかを下る、とても幻想的だ。横窪沢小屋で小休。窪田と桜井と大澤は駆け足で走り続け、ウソッコ沢小屋に目もくれない。この辺りは吊り橋やハシゴが多く、登るのは辛そうだ。まもなくヤレヤレ峠の登りで普通の歩調に戻る。三人で畑薙ダムへ向かう。後を大森、そして先生が追う。バス停に着いた時、「疲れた。終わった。」と思うと同時に「もうこの合宿も終わりなのかな。」と少し寂しい気がした。

## ●1978.8.3~7 南アルプス 白峰三山縦走 夏山合宿

LT 本松暉雄先生

CL 高野公寿

SL 高橋紀夫

川上幹生 中村直 安齋和之 市川創作

長弘昌 川上桶生



本松暉雄先生

### ルート

8月3日 一広河原一 大樺沢二俣一 白峰御池

8月4日 一 小太郎尾根一 北岳山頂一 北岳稜線小屋

8月5日 一 中白峰山一 間ノ岳一 農鳥小屋

8月6日 一 西農鳥岳一 農鳥岳一 大門沢下降点

一 水場一 大門沢小屋

8月7日 一 奈良田



1978年 高野公寿（部報より転載）

今回の合宿は雨にも一回しかふられず、すばらしいけしきを望むことができとても満足であった。昔から登りたかった北岳にも登ることができた。北岳へついたときはうれしかった。しかしこの山行で三峰岳に行けなかったのはとてもざんねんである。僕としては白峰三山+αのかたちで、どうしても行きたかったのだが、その時点でバテている者もいて、しかたなくあきらめた。僕は三峰岳に行くことによって何か一つ多くの物を得られるような気がしていたのだがひじょうにざんねんだ。こんど来るときは絶対に行きたい。さて今回僕はこの山行によって色々なことを知った。三千メートルの稜線における風があんなに強いとは思わなかった。そして正しい命令が出せず、テントをはる際に、テントをとばすという失敗をしてしまった。あの時、だれか一人をテントの中へ入れておさえさせておくべきだったのだ。あきらかに僕のミスである。また今回、行動中に一部が2時間もおくれるということがあった。パーティー全員の体力がかたよりすぎたためである。あの時もトップに「一番弱いやつにあわせて行け。」と命令しておくべきであった。ともかく僕はリーダーとして失格であるところがひじょうに多かった。だが山行したいは、千葉が来れなかったが全員が三山を縦走できて山のすばらしさをまた一つ知ることができた。ともかくよい山行で僕などは奈良田へ下るのがいやになったほどであった。今度来る時は今回の経験をいかしてもっとすばらしい山行をして南アルプスの大自然を大いにたのしみたいものである。

## ●1979.8.3～7 荒川三山・赤石岳

	ルート
LT 守屋純先生	8月3日 -伊那-山伏峠
本松暉雄先生	8月4日 -山伏峠-高山裏露营地
CL 吉澤公寿	8月5日 -高山裏露营地-前岳
SL 高橋紀夫	-荒川小屋= (ピストン) 小赤石岳・赤石岳
中村直	8月6日 -荒川小屋-中岳-悪沢岳-千枚岳
安齋和之	-マンノ-沢の頭-二軒小屋
市川創作	8月7日 -二軒小屋-転付峠-田代-身延
長弘昌	



## 夏山合宿を終わって 2001年3月 吉澤（旧姓高野）公寿

山行は素晴らしい好天に恵まれたものではなく、霧や小雨の中で行われたが、悪沢岳から高曇りの中で見渡せた景色は忘れられない。

山伏峠の上りでは隊列が離れてしまい、二日目の高山裏では天場の周りがキジ等ですいぶんよごれていた。先生が避難小屋にいかれて、天幕で皆で遅くまでバカを言い合っていたのがとても楽しかった。

赤石アタックは有志で行われ、まだ残雪のあった山頂で、ホエブスのプレヒートが強風で上手く行かず、苦勞しての紅茶の一杯だった。

稜線から下った後でのデンツク越えは、前日夕宴で食料を減らし重量を軽くしたにも拘らずキツイものだった。

南アルプス南部は聖域で、当時はあまり人も少なく、行程的にもわりと無理をしない様に組んで行った。霧の中でのしゃくなげや黒ユリ等の高山植物の可憐さ、硬質で美味な南アの水、はい松から垣間見えた富士の稜線、肩に食い込んでくるキスリングの痛み、3千メートル峰をみんなで踏み締めた満足感。個人的には部員が少ない中、2年間部長を勤めさせて頂いた集大成としての思いで深い楽しい合宿でした。

## ●1980.12.20 裏高尾

LT 吉野興一先生

高橋紀夫 中村直 市川創作 安齋和之 長弘昌 斉藤頼之 宮田康弘

## ●1981.8.2~8 鳳凰三山 夏山合宿

LT 本松暉雄先生

吉野興一先生

CL 市川創作

SL 安齋和之

斉藤頼之

深田康介

佐藤洋一



### ルート

8月2日 新宿ー

8月3日 甲府ー夜叉神峠ー杖立峠ー苺平ー南御室小屋

8月4日 南御室小屋ー薬師岳ー観音岳ーアカヌケ沢の頭ー高嶺ー白鳳峠ー早川尾根小屋

8月5日 早川尾根小屋ーアサヨ峰ー栗沢山ー仙水峠ー北沢小屋

8月6日 北沢小屋ー仙水峠ー駒津峰ー甲斐駒ヶ岳ー北沢小屋ー長衛小屋

8月7日 長衛小屋ー分岐ー小仙丈岳ー仙丈岳ー長衛小屋ー北沢峠ー広河原

8月8日 (1) 広河原ー甲府ー新宿 (2) 広河原ー北岳ー広河原ー甲府ー新宿

## 最も思い出深い合宿 2001年3月18日 安齋和之

振り返ると、この合宿は全てにおいて充実した、特に私とCLの市川にとって現役をしめくくるにふさわしい合宿であったと記憶している。当初、メンバーをみておわかりのように、年齢差が激しく、このスケジュールはいま思えば中学1年生が二人もいるこのパーティーにはかなりハードであったように思えるが、最後は私と市川の南アに対する“思い”が優先してしまったのだと思う。しかし、実際は初日の夜又神峠から最初のテン場である南御室小屋まで何の問題も無く、初めての合宿にもかかわらず中学1年の二人は、私達のペースについてきてくれ、全てにおいて予定通りに進んでいった。2日目、テン場を後にしたメンバーは薬師岳に向かう途中、御来光が迫ってくるのを感じ、視界のいい場所まで思いっきりダッシュした。その瞬間は、回りのことを気にせず、夢中で走っていたように思うが、そのときも中学1年の二人はピッタリとついてきてくれていた。しかしあの登りをキスリングを担ぎながら、いくら御来光のためとはいえよくあのスピードで走れたもんだとつくづく思う。その日の夜、予報では翌日の天候がかなり崩れるというものであった。最悪の場合、下山もやむをえないという判断であったが、そのとき、私は何の根拠も無くただなんとなく大丈夫な気がした（自分は晴れ男と信じていた）のと、最後の合宿を途中で終わりにしたくないという気持ちで、“明日は大丈夫ですよ”と無責任な発言をして、吉野先生に怒られたのをよく覚えている。しかし、私の思いは通じ、“晴れ”とまではいかなかったが、雨だけは降らず、予定通り山行は継続となり、3日目も無事に終わった。4日目は、憧れの甲斐駒ヶ岳の日。甲斐駒ヶ岳は先輩の高野さんの憧れの山であり、一度登りたかった山の一つであった。この日は最高の天候に恵まれ、一番いい状況で甲斐駒に登る事が出来た。その夜のテン場からの星空の素晴らしかった。吉野先生も“星”についてロマンを語っていた。4日目も天候に恵まれ、憧れの山の一つである仙丈岳にも登る事が出来た。その後広河原に向かう為、北沢峠からバスに乗ったが、あの「南アスーパー林道」には反対しつつ、つい便利さにかまけて、その「スーパー林道」を利用してしまった瞬間は、なんともいえぬ複雑な気持ちであった。広河原において、本合宿の最後の夜となった。やはり、頑張ってきてくれた中学1年のメンバーもさすがに疲労が溜まってきており、翌日の北岳は吉野先生、安齋、市川の3人で行く事となる。その夜、残った食材で作ったカレーは非常に美味かった。最終日、残った3人で北岳に出発。途中、迷ってしまったが、さすがに経験豊富なメンバーであったためにすぐに挽回し、無事北岳に到着。その日も最高の天気にも恵まれた。北岳は3回目だが何度来ても、素晴らしい山だと思う。この日の3人の行動で、特筆すべき点は“スピード”。ピストンであったというのもあるが、私達が愛用していた地図 エアリアマップの行程時間の登りで半分、下りに至っては3分の1という驚異的なスピードだった。本合宿は、パーティー、天候、もちろん山に恵まれ、全てにおいて充実した山行であり、特に私と市川にとっては現役最後を締めくくるに最もふさわしい合宿となった。

## ●1982.7.17～19 甲武信岳

LT 吉野興一先生

CL 斉藤頼之

深田康介 佐藤洋一 江口太郎 財満耕平

三村知司 田口全男



●1983.8.1~6 北アルプス 後立山連峰

LT 本松暉雄先生 吉野興一先生

CL 斉藤頼之

深田康介 佐藤洋一 江口太郎 三村知司 田口全男 財満耕平 木村公紀 白石祐介  
佐藤一昌 松永成太 鷹野孝治



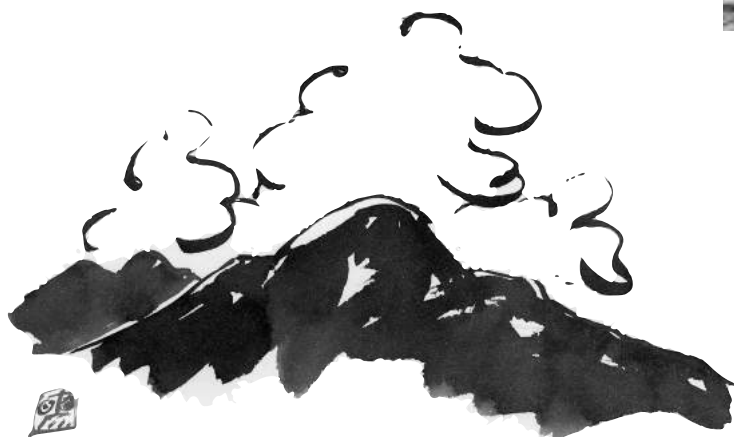
●1984.8.1~6 北八ヶ岳

LT 吉野興一先生

CL 斉藤頼之

SL 佐藤洋一

三村知司 田口全男 財満耕平 後藤祐介  
木村公紀 松永成太



●1985.7.29~8.4 赤石岳・聖岳

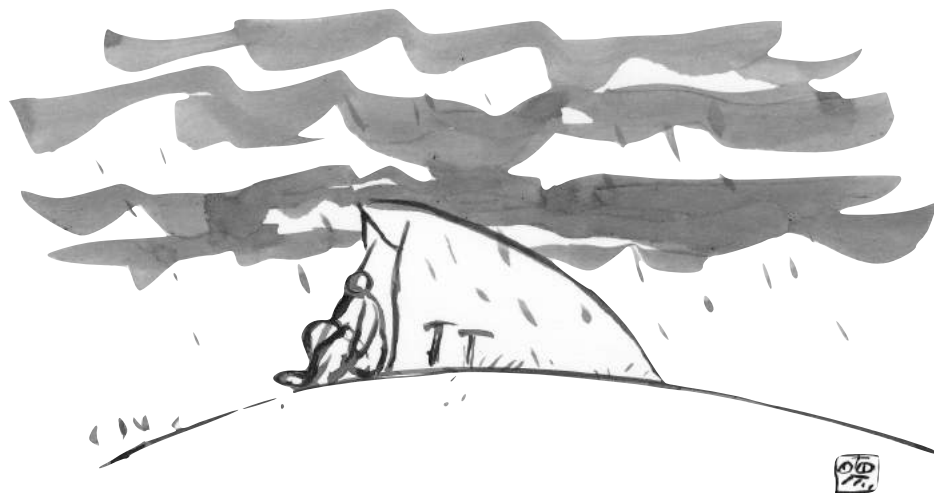
LT 吉野興一先生 遠西敬二先生

CL 深田康介

SL 江口太郎

中島一憲 三村知司 後藤祐介 木村公紀 佐藤一昌 鷹野孝治 水沼二郎 高橋智人

真田知幸 加藤諭



## ●1986.8.3～7 白馬岳 夏山本合宿

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生

CL 田口全男

SL 後藤裕介

水沼次郎 真田知幸 山岡力 田中尚道 高橋智人 石山哲 桜井正人 前田昭彦

鈴木浩蔵 大島義信

### ルート

8月3日 猿倉－白馬尻小屋

8月4日 白馬尻小屋－村営頂上宿舎

8月5日 台風の為停滞

8月6日 頂上宿舎－白馬岳山頂－白馬大池

8月7日 白馬大池－梅池

### 白馬の苦い思い出 2001年2月25日 大島義信

白馬岳には色々な思い出があります。そもそも白馬岳は、山岳部に入部してはじめて登った本格的な山でした。それは何もかも新鮮で、いろいろな意味で刺激的でした。ここで僕は、大きな失敗を二つしています。これはあまり知られていませんが、このとき実はポリタンを忘れてしまっていたのです。本当に焦りました。なんとか隠し通そうとしてあの手この手でごまかし、気の休まることがなかったのを覚えています。合宿の途中サブザックで行動するときなどは、ポリタンがないことが簡単にばれてしまうので、仮病を使って小屋に寝ているという相当卑怯なことまでしていました。ですがこの山行の最後に、そんな悪事をかき消すほどの大失敗をしてしまいます。なんとか合宿を終え、油断しきって電車に乗ったときのことです。当時中学校一年生だった僕は、大好きな漫画週刊誌を手に入れるために、白馬の駅で一時下車しました。ホームを見まわしても売店がありません。きっと階段の裏に売店があるのだと思い込み、懸命に売店を探して走り出しました。電車のことなど、まったく頭にありませんでした。気付いた時には電車の扉は締り、ビールを片手に呆然とする先生の姿、大爆笑する先輩の姿が過ぎ去っていきました。そして電車は小さくなり、ホームに一人残されてしまったのです。お恥ずかしい話ですが、このときまで一人で遠出などしたこともなく、駅員にすがりついて東京までの帰り方を教えてもらいました。結局のところ駅員の勘違いのおかげで、急行券しか持っていなかった僕が、特急に乗り早々と新宿に帰り着くことになりました。ちょうどそのころ松本駅では、そんな事情を知るはずもない吉野先生が、僕を探して奔走しておられたそうです。本当に失礼しました。山の美しさとは対照的に、なんとも苦い思い出の数々でした。

## ●1987.7.30～8.4 八ヶ岳 本合宿

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生

CL 後藤祐介

SL 鷹野孝治

佐藤一昌 水沼二郎 山岡力 井村真也 高野晋 大島義信 矢橋岳彦 前田昭彦  
山元崇 石山哲 鈴木浩蔵 成田大樹 杉山一隆 室健二郎

### ルート

7月30日 茅野―双子池泊

7月31日 一蓼科山ピストン―双子池泊

8月1日 一横岳―麦草峠―白駒池泊

8月2日 一黒百合テント泊

8月3日 一天狗岳―硫黄岳―行者小屋テント泊

8月4日 一赤岳ピストン―行者小屋―美濃戸口―茅野

2001年3月 矢橋岳彦

記憶を辿ると八ヶ岳はこの3年後にもほぼ同じコースで合宿を行っている。長い合宿で辛い所も当然あったが、天候に恵まれたこともあり印象が良かったのであろう。ただ2回目の時には蓼科のピストンは行わなかった。理由は後述。初日は3時間程度の歩き。ところが1年生の室がいきなり体調不良（結局翌日下山）、初日からパーティーは二分された。また自分と同テントの1年成田はザックのハチミツをこぼしたとかで、着くなりいきなり洗濯。初日から可哀相だった。翌日は問題の蓼科ピストン。体調不良の室を下山させるため吉野先生は別行動だったのだが、出発時にリーダー後藤が「さー、つまんない山へ行くぞ」と発言。それを先生が咎め、「だって、そうでしょう？」と一歩も引かずという一幕あり。全員のモチベーションが大いに下がったのは言うまでもない。結局蓼科山頂はガスって何も見えず、みな心の中で「後藤が正しい」と朝のやりとりを思い出したことだった。3日目の横岳への登りは全員かなりバテ気味。到着した白駒池は国道のすぐ脇というロケーションで夜半まで賑々しく、疲れの上に睡眠不足が重なった。よって翌朝には不味いメシとのダブルパンチで調子の悪くなる者が続出（「イワシの缶詰は油も飲め」なんて言うからだという意見多し）。高野は吐くほどで、この日は行程を大幅に短縮し、午前9時前には早々に次の黒百合でテントを設けた。黒百合では時間が余ったので、抜き打ちの非常食チェックが行われ、柿ピー、イカくんなどふざけた非常食が続出。折角ののんびりした雰囲気も先生の怒りの声にかき消された。5日目は皆体力を回復し、天狗、硫黄と縦走。硫黄の噴火口では落ちたら確実に死ぬような所で水沼、後藤らは平気で遊ぶ。また5年生が「前回来た時に作った」という「GAC」というケルンが残っていて一同感激。ケルンを補強して立ち去った。最終日は主峰赤岳へのピストン。2時起き。2時半出発という強行軍もご来光には間に合わなかったが、頂上からの眺望は最高。雲海が眼下に広がり、槍の穂先も確認出来た。全般に天候に恵まれ、非常に充実した山行であった。

文中は敬称を略しました。



●1988.8.25～9.1 北岳・間ノ岳・塩見岳 強化合宿

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生  
CL 水沼二郎  
SL 高野晋  
鷹野孝治 井村真也  
田中尚道 真田知幸  
矢橋岳彦 大島義信  
OB 齊藤頼之 田口全男



ルート

8月26日 一広河原一白峰御池小屋  
8月27日 一肩ノ小屋一北岳一北岳山荘一間ノ岳一三峰岳一熊ノ平  
8月28日 一新蛇抜山一雪投沢付近のテント場  
8月29日 一北俣岳一塩見岳一本谷山一三伏峠  
8月30日 一塩川一

●1988.7.29～8.3 尾瀬

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生  
CL 高野晋  
SL 井村真也  
田中尚道 矢橋岳彦 大島義信 山元崇 成田大樹 室健二郎 杉山一隆 難波裕之



木道の上

## ●1989.8.25～30 飯豊山 強化合宿

LT 吉野興一先生  
遠西敬二先生

CL 水沼二郎

SL 山岡力  
高野晋  
井村真也

大島義信

矢橋岳彦

前田昭彦

山元崇

OB 田口全男

後藤祐介

### ルート

8月25日 山都駅—川入テント泊

8月26日 一三国岳—三国小屋テント泊

8月27日 一飯豊山—御西岳—御西小屋—大日岳—御西小屋泊

8月28日 一停滞でもう1泊

8月29日 一北股岳—飯豊山荘泊

8月30日 一小国駅

2001年3月 矢橋岳彦

この合宿は個人的には一番思い出深い山行である。自分の在籍時、合宿は秩父、八ヶ岳、北アなど西に向かうものがほとんどであり、東北の山が珍しかったこともあるが、この合宿は台風で天気が大荒れし、何かと苦労したことが最大の理由である。アプローチは盤越西線で南側から入山した。自分を含め高校一年は直前までホームステイで散々遊び呆けた後だったが、特にバテた覚えも無い。むしろ部長の水沼がいつものように異常に重い荷をかついでバテていた印象がある。前半は天候もまあまあだったが、飯豊の山頂はガスで何も見えず。大日岳へのピストンでは荷も軽くなったため、大島、高野、前田などと馬鹿話しをしながら進む。3日目の夕方、夕食を作っている時、風が強まりテント泊から小屋泊になった。その時点では全員が喜んでいた。だがその後、雨は暴風雨となり翌日は丸一日停滞。同じ小屋泊りとなった男女グループについて勝手にあれこれ話ししながら無聊を慰めた。その翌日の朝も強い風を伴う雨が降り続けていたが、予備日が無かったこともあり、出発となった。停滞で体力が充分だったことと、暴風雨の中で稜線を歩く緊張感とで全員が集団催眠にかかったようなトランス状態だった。景色を見る余裕など全く無く、「危ない！！」「伏せろ！！」などという言葉の飛び交う稜線の行軍だった。どれだけ風が強かったかというと、私のザックカバーが知らないうちにどこかに飛んでいってしまうぐらい。あるいは前田が「おとっと」と人生を終えてしまいそうになるぐらいのもの。「メシを作るのが面倒臭い」というアバウトかつ危険な考えが何故か全員の一致した意見となり、とにかく前へと進んだ。尾根道に到達すると風も弱まり、はるか麓に飯豊山荘が見えてようやく一息つくことが出来た。ところが、山荘が見えてからが異常に長く、木にくくりつけられた番号が減っていくのを楽しみに数えていたら数字が突然増え、皆でまさに愕然としたのを非常に良く覚えている。結局当初では2日で歩く行程を11時間ほどで歩き、飯豊山荘に到着。その日は山荘泊りとなり、皆で合宿の垢を心行くまで流した。宴会場での雑魚寝は快適だったが、間違えてふすまを開けたどっかのオバさんがパンツ一丁の大島と遭遇、「若いのネー」と言われる事件が勃発。大島は男を上げたのだった。その晩、OBの田口、後藤は吉野と共にビールで宴会。現役部員はそうした行動に悪態をつきながら、合宿を振り返るといふいつもの光景が繰り広げられて合宿は無事終わった。文中一切の敬称を略させて頂きました。そこから当時の「和気あいあいぶり」を感じとって下さい。

## ●1990.8.27～9.1 常念岳・槍ヶ岳 強化合宿

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生

CL 大島義信

SL 矢橋岳彦

前田昭彦 山元崇 成田大樹 杉山一隆 難波裕之 二澤真彦 藤永瑞

OB 後藤裕介 佐藤一昌 田口全男

### ルート

8月27日 三股

8月28日 一蝶ヶ岳一常念岳

8月29日 一大天井一西岳

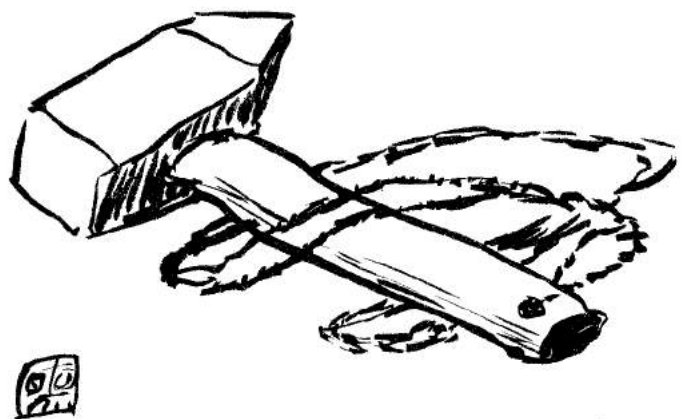
8月30日 一槍ヶ岳山荘

8月31日 一槍ヶ岳一槍ヶ岳山荘一横尾

9月1日 一上高地

### 忘れられない出来事 2001年2月25日 大島義信

この山行は連日晴天に恵まれたと思います。常念、大天井、槍への縦走。全てが順調に進んでいました。そして横尾まで下山し、緊張感から解放された日のことです。キャンプ場の近くには木製の橋があり、その夜この橋まで星空を見に行きました。皆でこの橋に寝転がり、息を呑むほどの壮大な眺めに酔いしれていました。すると、すでにOBとなった佐藤さんが、等速度で移動する光の点を見つけたのです。そしてしばらく考え込み、「進行方向から考えて、あれは何々発、何々行き何々航空の最終便だ。」と言ったのです。佐藤さんは鉄道マニアとして恐れられた存在でしたが、まさか飛行機の時刻まで頭に入っているとは思ってもよらず、みな度肝を抜かれたのを覚えています。またもう一人のOB後藤さんは、この夜飲み過ぎてしまったらしく、翌日の朝ほとんど歩けない状態でした。上高地まであとわずかとはいえ、帰るには歩いて行かなくてはなりません。結局本隊とは別行動をとることになり、僕らは一足先に上高地に向かいました。ところが、です。後ろの方を歩いていたはずの後藤さんが、小屋の車に乗って目の前を過ぎて行ったのです。緊張感がなくなり早く帰りたいと気の焦る僕には、この道程がとても長く感じ、本当に後藤さんをうらやましく思いました。北アルプスの壮大さも然ることながら、この二つの出来事は忘れられない思い出となりました。



## ●1991.8.25～29 黒部五郎岳

LT	吉野興一先生 遠西敬二先生	ルート
CL	難波裕之	8月26日 一有峰口一折立
SL	成田大樹	8月27日 一太郎平小屋
	二澤真彦 藤永端 浅井秀明	8月28日 一北ノ俣岳一黒部五郎岳一五郎平キャンプ場
	井波喬之 生川友恒 五十嵐啓	8月29日 一三俣山荘一鷲羽岳一三俣山荘一双六小屋
OB	高野晋	8月30日 一大ノマ乗越一ワサビ平小屋一新穂高温泉

### 暁星山岳部史上最悪の山行 2001年2月26日 浅井秀明

長い暁星山岳部の歴史の中でこれほどふざけた合宿はなかったのではないだろうか？当時、吉野先生が知ったら激怒したであろう真相も含めてここで書こうと思う。

8月26日早朝、夜行列車で富山駅に到着した我々は乗り継ぎまでの数時間、自由行動となり富山市内を観光することになった。しかし、早朝ということもあり、博物館、資料館などが開いているはずもなく、街全体が静寂で包まれていた。唯一開店していたのが駅前のゲームセンターで、我々は何の迷いもなく店に入っていった。それが全ての間違いの元であるということも知らずに・・・。

それから集合時間までの数時間、参加メンバーのほとんどがその店で湯水のようにお金を使っていた。店を出る頃には、皆必要最低限のお金しか残っていなかった。しかし、天候は晴れ、予定通り合宿が進むだろうという考えが全員の前にはあった。

登り初めて2日目、台風による大雨のため我々は太郎平小屋に避難した。天気予報では立て続けに2つの台風が来ているとのことだった。そこで、長期逗留を含めた今後の予定を決めるために吉野先生が全員の所持金検査を始めた。そして全員が1泊できる分位にしか持ち合わせていないことが判明し、やむなく翌日下山が決定された。

あとに残ったものは「富山ゲーセン合宿」という悪名だけだった・・・。

## ●1992.8.24～29 薬師岳・立山

LT	吉野興一先生 遠西敬二先生
CL	浅井秀明
SL	森定司
	井波喬之 野垣岳稔 生川友恒 五十嵐啓
OB	高野晋

### ルート

8月24日	一太郎平小屋一薬師峠幕営
8月25日	一薬師岳山荘一薬師岳一北薬師岳一スゴ乗越小屋幕営
8月26日	一越中沢岳一五色ヶ原山荘一キャンプ場幕営
8月27日	一五色ヶ原ヒュッテ一ザラ峠一獅子岳一鬼岳東肩一富大研究室一浄土山 一富大研究室一雷鳥沢キャンプ場幕営
8月28日	一一ノ越一雄山一大汝山一雷鳥沢分岐一キャンプ場一室堂ターミナル一

## 薬師立山縦走の思い出 2001年2月26日 浅井秀明

どうも僕らの学年（H6年度卒）は他の学年と比べて山に関する知識、意欲が足りなかったように思う。その最たる例はサブリーダーであった森定司という男である。彼は今も山の話をするときその山の名前を全く覚えておらず、何をやったかというイベントを言うと思い出すのだ。ましてやどれが何という山なのか知っているはずもない。そんな彼が唯一形を覚えている山が鹿島槍であり、それを覚えた（覚えさせられた）のがこの合宿であった。

彼は小休止のたびに吉野先生に「鹿島槍はどれだ？」と質問され間違えてよく蹴飛ばされていた。森定の他にも僕らの学年は各々課題を与えられ答えさせられていたが、彼ほど蹴られた者はいなかったように思う。そして、森定を蹴っている吉野先生の楽しそうな顔がとても印象的だった。もう一つこの合宿で僕らの学年をあらわすエピソードとして立山ピストンをあげたい。これまで縦走を続けてきた我々は一ノ越小屋に到着しそこに荷物を置き、雄山、大汝山へピストンをするようになった。予定ではこの日に立山を登ったあと室堂で一泊し翌日下山というものであった。しかし、今まで背負ってきた重いザックから解き放たれた我々は山頂まで1時間かかるはずの行程を15分で登頂してしまった。そして、その日の内に下山できるということがわかると、予定を短縮し、東京まで帰ってきてしまった。当時の我々にとっては室堂を散策するより少しでもはやく東京に戻るの方が大事だった気がする。今思うともったいない気もするが・・・。

## ●1993.8.26～30 穂高岳 強化合宿

- LT 吉野興一先生  
遠西敬二先生
- CL 浅井秀明
- SL 森定司  
井波喬之  
野垣岳稔  
草野和俊  
生川友恒  
五十嵐啓  
木村衛昭  
助村準也
- OB 大島義信



## 星を見ながら寝る 2001年2月27日 浅井秀明

上高地の喧噪をあとにし、梓川を横手に眺めながら横尾にはいる。台風が懸念されたがその後も天候に恵まれ、順調に奥穂高岳、前穂高岳登頂に成功した我々は3000Mからの大パノラマをおおいに堪能し、翌日下山を開始した。そして、一気に上高地へ下りるのではなく、井上靖の小説“氷壁”の舞台にもなった徳沢で一泊することになった。

テントを張り夕食を済ませたあと、ここは下界であるとの見解の下、吉野先生はOBである大島さんと酒盛りを始められた。周りの自然のせいか、吉野先生はかなり気分良くなられたらしく、現

役部員に外で寝ることを強要しだした。その理由は“星がきれいだから”である。最初は皆軽く流していたが、度重なる呼びかけ（命令？）でほとんどの部員がそれぞれ寝袋を片手に外へ出てきた。そして星を眺めながら寝たのである。しかし、残念なことにその時見た星についてはあまり覚えていない。覚えているのは翌日寒さで目が覚めたことと上高地までの行程で部員の列の後ろを遅れて歩く、気持ち悪そうな吉野先生と大島さんの姿である。

## ●1994.8.25～29 野口五郎岳・三俣蓮華岳

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生  
CL 生川友恒  
SL 五十嵐啓  
木村衛昭 助村準也 遠藤良太 荒川陽彦 野田

### ルート

8月25日 一高瀬ダムサイト泊  
8月26日 一烏帽子小屋泊  
8月27日 一烏帽子岳ピストン一野口五郎岳一水晶小屋一水晶岳ピストン一水晶小屋泊  
8月28日 一鷲羽岳一三俣山荘一三俣蓮華岳一双六小屋泊  
8月29日 一鏡平一秩父沢一ワサビ平一新穂高温泉一帰京

### 全日快晴・全員快調 2001年3月20日 生川友恒

私が現役時分に参加した山行の中でもこの裏銀座縦走合宿は完全試合に近いナイスな山であった。それは見渡す限り人工物の無い北アルプスのど真ん中の稜線を抜群の天気で縦走できたこと、そして優れたメンバーに恵まれたことである。山を登るといことは「個とヤマ」の相対関係が基本だと私は思う。しかし、もし「チームプレイ」というものもそこに加わるとすれば、まさにこの山行はベストメンバーで挑み完封試合を演じた一つの実践だったのではないだろうか。

一日目の夜、寝ている間に遠藤君がサルのような獣に噛まれるアクシデントがあった。かなりの傷だったが、病院で治療のあとすぐに我々を追いかけてテン場で追いついたときはおどろいたものであった。あの心臓破りのブナ立尾根を負傷をしながらも高スピードで登りきり、その後の縦走も何も違和感もないかのようにやり遂げてくれた。

西に薬師の雄大な山容、東に槍、穂高連峰、縦走中は常に我々を応援してくれた。



## ●1995.8.2～7 朝日連峰

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生

CL 生川友恒

SL 五十嵐啓

遠藤良太 常陸悠介 日野淳 井波喬之 山田創 池田 松尾

### ルート

8月3日 一泡滝ダム一大鳥小屋泊

8月4日 一以東小屋泊

8月5日 一狐穴小屋一寒江山一大朝日小屋泊

8月6日 一大朝日岳ピストン一小朝日岳一古寺鉱泉泊

8月7日 一帰京

### 感謝・感激・雨嵐 2001年3月20日 生川友恒

朝日連峰といえば雨が痛かった山、シュラフを濡らした山、参加者からそんな声が返ってくるだろう。たしかに東北まで行き毎日展望ゼロで縦走した山の印象はネガティブになるかもしれない。しかしこの合宿が教えてくれた経験は山岳部にとって大きなものだった。このような表現が部報にも書かれていたような気がする。

ヤマでは出来るだけ濡らさないことが前提である。しかしそれが守りきれないことも多々ある。理屈でなく一度体験すればそれがわかるだろう。

この縦走が悪天候にもかかわらず、続行できたのは体調を崩すメンバーが出なかったことであろう。当時の二年生がずぶ濡れのテントの中、風邪をひかなかったというのも立派な進歩であったと思う。大勢いたこの学年は入部以来、私にとっては大事な後輩であり指導にも熱が入った。今考えると、後輩を育てたということは同時に私も後輩から育てられたということであった。

朝日連峰は私にとってまた同期の五十嵐君にとっては現役最後の山行になった。「完全燃焼悔いは無し・永久に不滅」大朝日岳頂上では大粒の雨が手荒い引退セレモニーをしてくれた。その祝福と後輩諸氏、6年間お世話になった先生、そして良きバッテリーの相手五十嵐君、全ての思い出に感謝いっぱいのヤマであった。

## ●1996.8.26～30 白峰三山

LT 遠西敬二先生

CL 遠藤良太

SL 常陸悠介

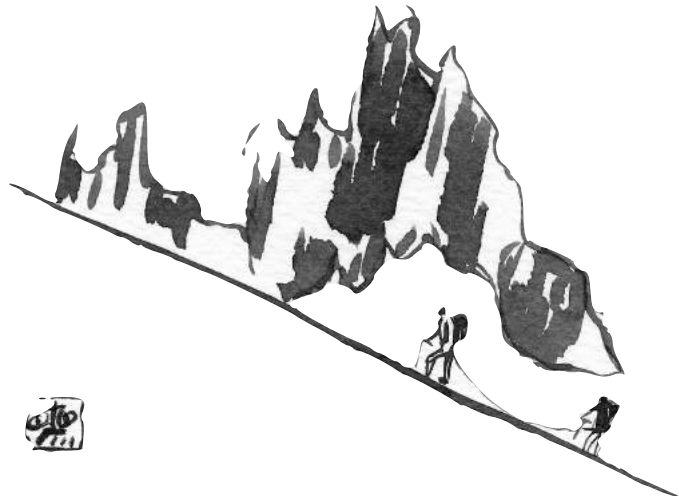
日野淳 井浪皓之 小野晃

OB 木村衛昭



●1997.8.24～29 野口五郎岳・三俣蓮華岳

LT 吉野興一先生  
遠西敬二先生  
CL 常陸悠介  
SL 小野晃  
荒川陽彦 和田哲史  
江本哲朗 前中貴斗  
峰岸涼太 石川知郷



●1998.7.30～8.2 八ヶ岳

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生  
CL 常陸悠介  
SL 日野淳  
荒川陽彦 小野晃 山田創 江本哲朗 前中貴斗 石川知郷 井浪皓之 森川誉久  
磯部紀之 坂口亮

ルート

7月30日 一高尾一茅野一竜源橋一双子池泊  
7月31日 一北横岳一麦草峠一高見石小屋一黒百合ヒュッテ泊  
8月1日 一天狗岳一オーレン小屋一赤岳鉱泉泊  
8月2日 一行者小屋一赤岳一行者小屋一赤岳鉱泉一美濃戸口一

2001年3月 井浪皓之

私にとっては二度目の八ヶ岳だった。一度目は96年、私は中学三年生で、夏合宿では初の快晴となり、美しい八ヶ岳の景観は私の心を完全に魅了したのだった。二年が経って、我々は下の学年を率いる立場となり、後輩たちにもあの美しい景色を見てもらい、山の魅力を感じ取ってもらいたいと思っていた。また自分も再びあの美しい景色と出会えることを期待していた。

しかし、八ヶ岳の空は白く覆われていた。竜源橋から入山し、双子池で幕営する。夕食を終えそろそろ消灯というころ、雨が降り始めた。やむことを期待しテントの中で眠りにつく。翌朝、雨はしとしとと降り続いていた。まず北横岳に登り、五辻を通り麦草ヒュッテへと行き、昼食を取り、黒百合ヒュッテまで向かう。三日目、視界は白くぼやけたままだ。天狗岳を越え、美しいコマクサの群生地を過ぎオーレン小屋へ下っていく。オーレン小屋では、豊富な水を利用して昼食に冷やし中華を食べる。ここならではの贅沢だ。オーレン小屋からの急坂を登りきると、左に硫黄岳、正面に横岳・赤岳と見えるはずだった。だが、目の前には白いガスが広がるばかりだった。翌日、天候の悪化から硫黄岳、横岳、赤岳と一周するコースをあきらめ、赤岳へピストンすることに。霧状の雨の中、赤岳に登頂。達成感があったが残念な気持ちのほうが強かった。そしてこのまま美しい景色に出会うことなく下山することとなった。



しかし、今までは分からなかった雨の山行の魅力に気づいた。晴れの山行の醍醐味である展望こそないが、森の中でのむせ返る木々やこけの匂いやしっとりとしたぬれたコマクサの花は、植物がより生き生きと活動していると感じられた。また岩場での白いガスの流れを見ると、不思議な気持ちになり、自然の神秘が感じられる。

我々の学年は雨が多く、晴れの山行は数少ない。だからこそ晴天の美しい展望はより美しく脳裏に焼きついているのである。

## ●1999.8.25～27 木曾駒ヶ岳 強化合宿

LT 吉野興一先生 遠西敬二先生 井上豊先生

CL 磯部紀之

SL 森川誉久

坂口亮 佐藤龍一 土屋主税 青木駿介

2001年3月 吉野興一

地下鉄サリン事件以来、オウム真理教の施設の立ち退きを求める住民の運動が激しかったが、この年の直前に木曾福島に置かれた教団道場もそういった施設のひとつで、駅から乗ったタクシーの運転手もさかんにグチをこぼしていたものである。一泊目は、こがらスキー場の上部にテントを張った。そもそも中央アルプスが暁星山岳部の合宿地になったのは、私の知る限りでは初めてのケースで、それも木曾側から入山するということになれば、歯ごたえのある合宿になることは間違いないかろうと思われた。たしかに二日目の登りはキツかった。そもそも強化合宿の主旨から言って、下級生がいない分だけ厳しい縦走の山が候補にあがるが、今回は中学3年生4名に中学2年の青木が参加。中学生だけで強化合宿を行うのは初めてだったかもしれない。テント出発が4時05分。8合目で昼食を取り、9合目が10時42分。山頂に着いたのは11時30分であった。昼食や小休止を入れるとはいえ、登りで7時間半の行程は、食料も燃料もたっぷり状態の合宿二日目にしてはきびしいものがあった。「木曾駒の山頂は俗化されてるぜ」と友人から聞かされていたものの、実際、山頂に着いたとたんにスニーカーで歩き回る大量の人々に出くわすと、いささか戸惑うものである。それでも私達は晴天の山頂を踏めて喜んでた。その晩、天気は激変した。おまけに中3の佐藤が発熱。翌朝3時起床。風はますます強まり、ガスで視界は5メートル。雨が断続的にやってくる。出発を見合わせて9時10分のラジオ気象通報から天気図をとる。やはり低気圧は前線をともなって押しあがってきている。結局、千畳敷からロープウェイで下山することに決定。10時すぎにテント撤収。雨が本格的になってきた。幸い佐藤は元気である。残念ながら縦走は中止となったが、部にとってはとてもいい経験になったと思っている。やはり3000メートル級に匹敵する稜線の自然環境は凄まじいのである。8月も下旬となれば、夏でも凍死しかねない寒さと言って差し支えなかった。わずかに二泊の合宿になってしまったものの、部員諸氏の記憶に深く残る印象的な合宿であった。



## ●2000 夏 吾妻連峰 本合宿

2001年3月 吉野興一

上野駅発車7時36分。途中4回の乗り換えで福島駅到着が12時20分。山岳部の顧問をはじめ20年になるが、質素儉約の精神で、特急、急行にはいっさい乗らず、ひたすら各駅停車の旅である。さいわい、夏休み中には青春18きっぷが発売されていて、これだと一人2300円でどこまでも行けるから、私達のようなグループにはもってこいである。福島駅から1時間10分で浄土平に到着。結局、この日は6時間以上も乗り物に乗っていた計算になる。翌朝3時半に起きると星がみえた。山深いところに来た。一切経山の山頂についてみて周囲を眺めると、どこもかしこも山、山、山。しかも東北独特のなだらかでスケールの大きい山容なのだ。ここでは時間がゆっくりと流れているように錯覚する。歩行行程8時間半で宿泊予定地の弥兵衛小屋に着く。中学1年生の二人は本当によく歩いた。小屋から10分の水場は、雪解けの水で凍るほど冷たくうまい。周囲には人工物がいっさいない。人もいない。最高の環境の水場で、おまけに展望がよい。別天地とっていい。西村がばてているので、翌日からは荷物を上級生に分配する。三日目は快晴のもとの快適な山旅であった。人形岩でフルーツ缶詰を食べてトカゲして、もうこの世の天国を味わいながら、最高峰の西吾妻山頂には8時半に到着。西大峰から一気に下って小野川湖のキャンプ場に着いたのは午後1時半を過ぎていた。夕食の準備開始の時間まで行動自由という喚声をあげながら湖に遊びに行く。なんといってもまだ中学生たちなのである。その晩の食事には、生徒の釣った3匹の小魚が添えられて、皆でひとはし交代で食べた。夏合宿には珍しくたき火をおこし、かつてひと時代昔にはやったコンパを彷彿とさせる雰囲気の中、消灯は結局夜の9時になってしまった。雄大な景色を堪能して、しかも予定のコースをほぼ完歩して、おまけに湖で水遊びやたき火までして、部員諸氏にとってはまったくタマラナイ楽しい合宿だったに違いない。これはこれでいいのだ、と私は思うのである。







1948 大菩薩峠



1967.6



1967 剣沢雪渓



草津 志賀高原



1997.8 槍をバックに



1969.10 瑞牆山



1968 飯豊山



1997.8 双六岳



1959 部室前にて



1955.7 酒沢岳 徳沢園



1957 テント設営練習



1957 教室にて



1971 プールサイドにて



1998.8 烏帽子岳



1956.9 曉星曉峯合同山行





1955 横尾合宿



1997.7 権現岳  
先生二人飲む



1954.3 蔵王



1955.7 青根村分岐



1967 川乗山



1997.8 黒部五郎岳



1970.5 三ツ峠



1967 剣・立山



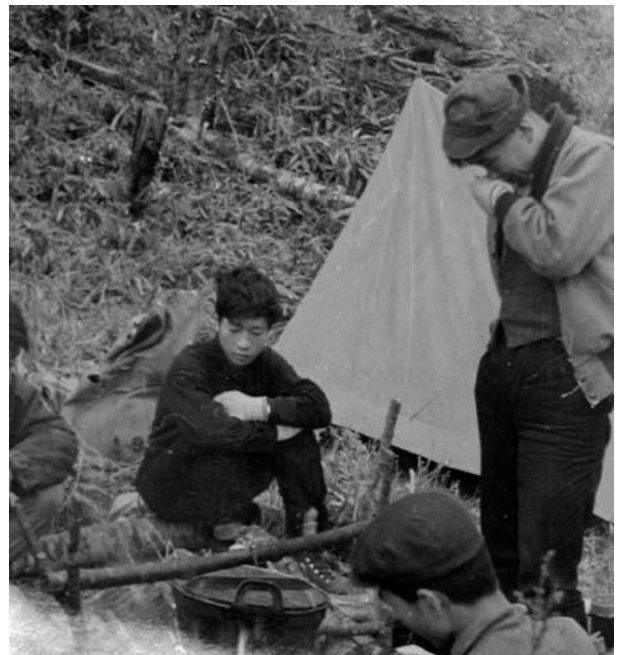
1957.5 谷川岳



1959.7 針ノ木～劔



1958 泣山ゲレンデ



1978.8 白峰三山縦走

1955.7 地藏岳



1998.7 尾瀬



1993.8 穂高岳



1968 飯豊山



1957 槍・立山縦走 雪渓



1953.5 塔ヶ岳山頂



1958.5 奥穂高山頂



1957.8 丹沢合宿



2000.3 八ヶ岳 雪合戦



1968 飯豊山



1954 横尾合宿



1952 徳沢合宿



1988.3 薪運び







庄司保氏



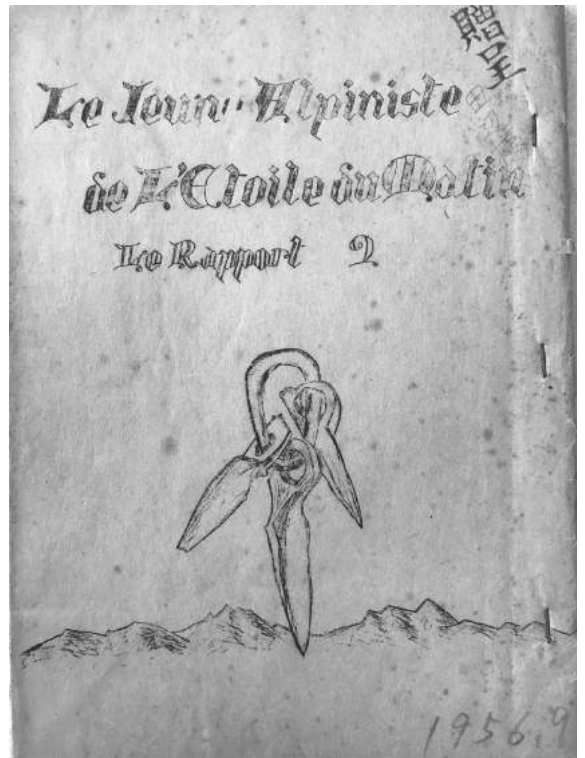
1955.4.29



1955.11 丹沢 庄司保氏一周忌



庄司保氏 奥秩父？



暁星山岳部部報 2号 1956年9月刊



1963 武甲山



1959 立山 夏合宿



1975.6 檜形山 オープン山行



1975.10  
大台ヶ原山 三重国体



1966 松本先生と



1965 武甲山



1959.4 大菩薩峠



1976 冬

## 暁星時代の山行 「岩と雪」第16号 1969年11月25日発行より 舟田三郎

私にとって山登りは宿命であった。私の父が明治38年中国の黄河を遡り蒙古から新疆省に入り、天山山脈、さらにヒマラヤ山脈を越えてインド・カシミールのスリナガルへの旅を計画準備し、いよいよその出発直前になって、同行予定者であった地質学専攻の学徒が、家事の都合で出発ができなくなってしまった。そんな事で父の数年に亘る準備や研究を整えてのヒマラヤ行が挫折し、鬱々とした胸中を他の心境に置き換えようとして、当時、東海道本線が酒匂川に沿うて足柄山脈を越える麓の山北駅から程遠くない北足柄村平山にある洒水滝の下に山荘を建て、暫らく隠籠生活に入った。私には小学校1年生の時であった。

(中略)

そんな所で明け暮れする私の日常生活は、いくつもの小さい滝が連続する谷川を飛び回り、深潭で泳ぎ、時には滝落口の上に登り滝を覗き込むこともあった。それには谷はどちらかの山を遠く高回りして行かねばならなかった。山路は山稜についているので、高く登るにつれ富士山の巨きな姿が立ち塞がり、北に丹沢山塊が蟠踞して先ず視界に飛び込んで来るのであった。子供心に私の憧れはその富士山に、また丹沢山へ登ることまで拡がって行った。

(中略)

私が小学校2年生の時、父の紹介で、私の母校暁星小、中学校のフランス人教師が山荘の近くに山の家を建て、30人位が交代で、夏の2カ月の休暇をそこで過ごしていた。

ほとんど毎日の午後私も連立って山歩きをするのを日課にしていた。その時は学校のフランス人教師たちと同じく靴穿きであったので、この習慣が後年の登山技術に、殊に雪山の時に大変役立つことになった。中学生の頃から山歩きにはサッカーに使う靴底に堅い疣のあるものに換え、大正8年頃からトリコニー鋏靴を穿くようになった。いずれにしても私の小中学生ごろの穿物が日本登山の穿物では先端を行ったことになった。登山綱を確保用に使って急坂を上下したのは、小学4、5年生の頃(明治44年)の記憶がある。これもフランス人教師と一緒に洒水滝口を覗きに行った時のことで、ギャバルダ先生が本国のモンブランのあるオート・サボア県出身でフランス山岳兵のときに習得した綱確保法を私に教えて下さった。登山綱は12.3耗の現行のものであった。当時の日本では、麻の細引を携行するのを常識としていたが、細引を用いての登山術についてはなんら具体的な説明は見当たらなかった。

(中略)

私は中学生になったばかりの時単独行か二人連れの登山を前提としたので、2メートル余の青竹の登山杖を支柱とした四角錐の軽いものを採用して注文した。天幕が出来上がった時は嬉しくて耐えられず、早速、同級生の内田魯庵さんの長男巖君を誘って足柄峠のはずれの矢倉岳に登り、山頂に張って一夜を天幕内で過し、至極く満悦したものであった。

(中略)

雪山登山の第一歩は明治45年12月末、中学生になったばかりの年の暮、同級生中川嘉一郎君が大磯の別荘から馳せ参じ私の山荘から西丹沢へ出発した。丹沢山の玄倉川上流に入るのには、前山の茅の茂る道は雪が来て歩きやすくなっているものと予想して、夏道とは違った、山北から皆瀬川を遡り、山神峠を越して玄倉谷上流へ下る近道を選んだ。防寒具等で重くなった荷物を背負って、既に雪の積もった峠を下りて諸士平にやっとの思いで着いた時は暮れ方であった。

丹沢山中は想像以上に寒かった。雪を踏み分け箒杉沢から丹沢山頂を往復し、翌日下山して正月の雑煮を家族一同で祝うことができた。二回目の雪山登山は中学校3年生で(大正3年11月末)甲

斐駒ガ岳を独りで登ったことであった。新宿駅から夜行列車で翌朝中央線日野春駅下車、釜無川を渡り宿場、台ガ原まで一気に走り続けた。この時の防寒具としては学生マントと厚い靴下だけであったので、リュックサックは軽かった。穿物はいつものとおりの編上靴で、まだ日本では靴穿の登山者はいなかった。駒ガ岳の前山、黒戸山にはもう雪が来ていて、長い長い黒戸山稜であったが、それ程遅くはならず3時頃には無人の七丈小屋に着いた。夕方は晴れた空に、日没に近い太陽の壮麗な光箭が氷雪の駒ガ岳の姿を恐ろしいほど冷厳に感じさせた。小屋では凍りつく寒さであったが、フランスパンとローストビーフで食事を済ました。私の山登りのパンを主体とした食事は、母校がフランス人の経営であり、学校給食は、主としてパン食であったので私は馴れていた。学校の遠足などの給食弁当もフランスパンとローストビーフやハム、ベーコンに果物であった。2、3日の山登りにはコンデンスミルクでも持っていけば、その都度、炊事をしなくても私には贅沢な食事であった。これは単独か、または地元人夫を連れず雪山登山には、担荷の軽い大変な利点になった。

その後、私の大学時代の山岳部連中に口の悪い仲間がいて、舟田と山へ行くのは良いが、三度々々パンを嚙って米粒が喉を通らないのでは殺されてしまうという者さえいた時代もあった。

(中略)

三度目の雪山登山はその翌年の4月末、雪の北岳を、これもまた独りで挑んだ。中央線龍王駅から御勅使川に沿って夜叉神峠を越え野呂川谷へ下り、鮎差小屋を根拠地として、対岸を少し上流に上った荒川から北岳往復を計画した。鮎差小屋に泊まった初夜は伐材人夫も登っておらず無人であった。翌朝早くからすぐ前の野呂川の雪融けの水を集めた冷たい急流を徒渉して対岸に渡り、すぐ近くの荒川合流点に出るツツガビンの氷結した岩壁を、河床から高回りして横切って行った。ふとしたはずみで氷壁に足を滑らし、手に掴むものもなく転落した。転落しながらも瞼のうちに両親の幻を瞬間反射的に見たのが最後で失神したのであった。どのくらいの時間が経過したか覚えていなかった。やがて気付いた時は、顔に雪が降り積もっていた。私は河岸の僅かばかりの砂地に倒れていた。起き上ろうとした時、ズボンの膝から血汐が流れ出していた。巻ゲートルを外して傷口を縛り、あとは無我夢中で、水勢強い野呂川をジャブジャブ徒渉しながら小屋まで辿りついた。

(中略)

大正7年7月、暁星を卒業後、中学の下級生4名を誘って、前年すでに長次郎雪溪から登ったことのある剣岳を早月川白萩谷から入り、赤兀山からの山稜を大窓の頭、小窓の頭、剣頂上、別山へと岩稜縦走したのも、小供心に味をしめた岸壁の魅惑の誘いと思っている。この時は小窓の頭の幕営から登って剣岳頂上で日が暮れ、頂上真下の巨岩の蔭に入って一夜を明かした。翌日、剣から別山山頂に下りて来た時、偶然にも同級生の麻生武治、中川嘉一郎両君がこれから剣へいくのだといって、天幕を張っていた。後日、夏休みが終わり、9月に登校した日、両君から聞いたことであるが、麻生、中川両君が別山に幕営していたところに、後から慶大山岳部の大先輩二名が案内者数名と剣岳背陵縦走の一番乗りを志してやって来た。私たちの中学生隊が、しかも案内者無しにお先に剣岳陵の完全縦走の話をしたところ、大先輩たちは私たちの初縦走を否定して信じなかったということであった。案内者も無しに、しかも中学3年生をも混えての連中に、剣の岩陵の完全縦走などできるはずがないと主張したそうである。

この岩陵は数年前に、別山から部分的な縦走を案内者を連れた木暮理太郎さんたちがした記録が残っていた。私はそんな人々の得意な記録などは知らなかった。ただ富山平野からそそり立つあの特異な剣岳の山稜と岩肌が、日本海への日没前の夕映えに輝く、力強い岩山の魅力に惹かれて登っただけである。

なお、上記の山行を裏付ける記載が山崎安治著 新稿日本登山史（1996年、白水社）に記載されているので紹介する。

「大正5年7月には劔岳に登る登山者も多く、若林祐次郎、中山益太郎らは、東京暁星中学の生徒4人と大沢で合流した。人夫をあわせて総勢20人の大部隊で針ノ木峠を越えて平から立山に登り、別山で野営、7月26日人夫を残し、一行14名が斂沢へ下り長治郎谷から劔岳に登って、中山は数年前までは登攀絶対不可能といわれた劔岳も容易に登れるようになり、「山の価値が下りたる心地致し候」と日本山岳会へ便りを寄せている。暁星中学生というのは舟田三郎らのことである。」

「南アルプスの積雪期登山は、大正6年4月、暁星中学在学中の舟田三郎が単独で夜叉神峠を越え葉川から北岳に向かったが、北岳につづく岩壁ですべり落ちて負傷し、不成功に終わったものや、同年11月、舟田がふたたび麻生武治と大武川谷に雪上露營し、鳳凰山を試みたが、これも吹雪のため退却している登山……」（註：この北岳行については、大正4年とする記述もある。）

## 暁星山岳会に望む 1952年9月7日 吉村惇

初の合宿が無事に終わり、秋風と共に夏山のシーズンは一段落という事になった。ここに於いて暁星山岳会の現状を省みるに、上級生の人達は受験を控えて活動不能であり、畢竟一年の人達を主体として事実上再発足を強いられている情勢にある。今後会員を増して発展していく為には随分苦勞されると思うが、これから会が良くなるも悪くなるもその責任はすべて現在の第一線会員である一年の諸君の双肩に懸かっているのである。会を強化するにはどのような方針で望むか。堅実な会にするにはどうしたらよいか。諸君と共に考え私の所信を明らかにしてご参考に供したいと思う。

暁星山岳会は暁星の山の好きな人のグループであることは云うまでもないが、人が集まって会ともなればそこには団体としての目的が生まれてくるはずである。しかしその前に皆は何のためにグループを作ったのだろうか？集まった目的は各個人によって様々かも知れぬが、その共通する処、即ち各人の目的の最大公約数は結局「より楽しく安全に山に登る為」に相違ない。この共通の目的を実行し達成させるために互いに協力し合うのが共同体としての会の根本目的なのである。会はその目的に対して最も賢明な手段を選び、会の発達過程に応じた方針を立てていかなければならない。

どんな険しい山でも自由に闊歩出来たらどんなに楽しいだろう…。誰でもそうなりたいのである。しかしながら、それが出来るには熟達が必要であり、また熟達の為の絶対条件は基礎の確立である。即ち暁星山岳会が現段階に於いて当面の目的或いは方針とする所はすべて基礎訓練、土台を築く事にあると思われる。

登山の基礎となるものは技術、知識、体力脚力等である事は既知の通りだが、初歩の段階に於いて最も基本となるのは体力と脚力である。これが無くては高等な技術は覚えられないし、また少し覚えたとしても直ぐに行き詰まってしまう。

それでは体力脚力を増進する為にはどうするか？何といたってもよく歩いてよく山を知ることだと思ふ。一にも二にも所構わず歩くのである。特に尾根縦走を提唱したい。何処の山はつまらない、何処は行く所ではない等の先入観念はすべて捨てるべきである。何処へ行っても皆異なった特徴があり、また季節によってそれぞれ千変万化の味がある。山の好き嫌いは各人の好みによるがそ

れはすべて味わった後で論ぜられるものであって、人から聞いた先入観念に捕らわれるのはよくない。万遍なく歩いて山のあらゆる面を知らなければならない。山は広い！方々歩いている内、思わぬ所によいヘルツハイマートを発見するだろう。荷の軽い時、特別な所でなければ1時間半で一里は歩けるようにする等の練習は有効だと思う。

山に登る場合、山を知る為、また危険を防止する為に必ず順を踏んで歩くべきである。即ち、ある目標の山を決めたら初めからバリエーションルートをねらうような事をせず、必ず一般登山道を歩いてから特殊ルートをとる。また、谷に登る前には必ず尾根を歩いてみるとか、冬登ろうと思う山は夏の間は何度か歩いておくというふうに、必ずその山の概念を掴んでから易より難へと進むべきである。こんな事は普通の常識であるが、この頃は一般に忘れられているような傾向があるらしいが、我々は是非守らなければならない。高い山を目指す場合は特にその必要がある。こうすると外面的には進歩が遅いように見えても遙かに確実性がある。

山の大小にかかわらず月に一回位は行きたいものだ。そして夏休みには合宿なり縦走なりを行って一年の総括をする。また併せて放課後日を決めてトレーニングをすることも是非実行したい。登山には相当な闘志が必要であることは勿論だが、計画は必ず安全を第一に考え、分相応の場所を選び、無理のないプランを立てるべきであって、絶対無謀な冒険をしてはならないのである。登山者にとって遭難は最大の不名誉であり、自ら自分の無力を暴露するものだ。

登山には一応の技術がいるが、それはある程度まで歩いているうち自然に修得出来ると思う。同時に本をよく読んで基本的な事を心得ていれば相当な応用は効くはずである。また、欠く可からざる山の生活技術（炊事、焚火、野営法等）は誰でも心得ていなければならない事だから、合宿の時等全員が練習しておくべきで決して軽視してはならない。

また時にはグレンデで岩登りの練習をする事も結構だが、その場合はあくまで正しい方法により正統なテクニックを覚えるよう心掛けなければならない。我流は排すべきである。我流で遮二無二岩に取り付くのは非常に危険であり、ある程度以上の進歩は望まれないからしっかりしたOBや実力のある堅実な人にコーチを頼むのがよい。また岩登りは登山の一部または一手段であることも深く心得ているべきであり、岩登りの為の岩登り練習はすべきでない。これを行うと次第にアクロバティックな方向へ進み、山全体を見ることを忘れ、単に岩場のスリルのみを追う先鋭化した偏狭な会に陥ってしまうだろう。大いに警戒を要する事である。山はそんなに小さなものではないのだ。

今までは行動面だけを論じてきたが、次に内面的な精神的な方向を考えてみよう。

先月の例会では会のカラーということが種々論議された。私にもカラーという厳密な意味はよく解らないが、そう単純な軽いものでないことは確かである。考えるに、団体の外面的内面的な洗練された伝統が、実際活動に結びついて現実に現れて来るものと会員間に交流する雰囲気とを総合してカラーと呼ぶのであると思う。それ故カラーというものは一朝一夕にして作り出されるものではない。また作ろうと思って作るものでもない。意識して作ったカラーと称するものは外面的な事にのみ捕らわれて、種々不合理が生じ上っ面だけで本当のカラーとは言い得ない。カラーは団体の伝統と経験と性格が結合して極めて自然に織り出されるものでなければならない。

しかし暁星山岳会には未だ伝統というようなものは存在していないし、性格も未だ明確な方向が示されていない。これから作られなければならない段階にある。然らばどのような伝統を打ち立てなければならないか、これは最も重要な問題だが、そもそも伝統というものは或思想に基づく経験が進化しつつ集積形成されるものであって、元々自然に出来てくるものである。立派な伝統を作るには各々の経験が健全な思想に立脚して行われて行かなければならない。然るに登山の思想等とは極めて広大複雑なものであり、個人個人によって千差万別であって、また根本的誤謬がない限り全く個人の自由に属するのである。

けれども団体に所属する限り、会の秩序の為にある程度統制されなければならない。しかし個人の思想を束縛することは正義に反するのである。然らばどうしたらよいだろうか。

これを解決する唯一の方法は、会員が団結して最も正しく最も適当と信ずるに足る秩序を守り、会の中に或雰囲気醸し出すことである。

正しい秩序と適当な雰囲気の中に行動していくうちに必ず個人の思想も影響されて自然に健全な方向に近づき合ってくると思うのである。

正しい秩序、それは元来登山界に存在する不変の秩序であると同時に会の性格に最も適したもので、また大多数の会員に受け容れられるものでなくてはならない。それならどんなものが最も受け容れられるか。しかし個人個人の考えを勘酌していくわけにはいかないから、会員はすべて暁星の生徒であるという事を前提として暁星の校風、暁星の性格にあてはめて考えるのが最も近道であろう。

幸いにして暁星には名誉ある伝統が存在する。そして一つの型の校風を持っている。これに基づいて秩序を確立していくのが誰が見ても最も正しい方法であり、最も多くの人に受け入れられるだろう。いや会員も暁星の生徒である限り、学校の伝統と校風は守らねばならないのである。

我が校の伝統には高い品位がある。故に、山岳会員も品位を保たなければならない。山行に際して駅や車中で騒いだり、ハツタリを飛ばしたり、他のパーティーを野次ったり、不必要に汚いだらしのない恰好をする等、山でよく見掛ける一部の下品な墮落登山者のような真似は絶対してはならない。山行に限らず如何なる場合でもそうである。これは特に強調しておきたい。またどんな小さな山行にも節度が必要である。リーダーの命令には必ず服従する。各担当係は完全に自己の責任をもつ等云うまでもないが、節度のないだらしないパーティーは他人が見ても見苦しく、結局は自分等の分の不名誉になるのである。また暁星山岳会は公衆道徳を守り何人が見ても恥をかしくないような会にしたい。下品に汚く罵りながら無統制な腕力で高い山に登る会より、たとえ登る山は低くとも、節度正しく着実に行動する会の方が遙かに立派で完成されているのである。

次に必要なのは勇気である。勇気は勿論登高に欠くべからざるものであることは云わずとも知れているが、それにも増して忘れられないのは引き揚げる時の勇気である。登山中天候の急変や突破出来ない障碍にぶつかった場合、的確な判断を下して登高を中止する事は実際に当たって生易しいものではない。非常な勇気を要する。天候をも見定めず自分等の実力以上のものを遮二無二突破してアクシデントを起こすのは単に血気に逸ったのみであって絶対に勇気ではない。困難を突破する勇気は賞賛されるがそれはすべて確実な判断の下に発揮される勇気でなくてはならない。

暁星の校風は非常によいものがある反面に、感心できないものも確かに存在するように思われる。その最たる顕著なものは団結力の欠如である。個人対個人の繋がりは非常に親密で円滑にいくが、団体行動となるとうまくいかない。勝手にしたがるという気風がある事は否めない。自由？である事は良いことだが我が儘は山岳会にとって甚だ面白くない気風である。一度山に入ったら自分勝手は許されない。山での勝手な行動には常に肉体的精神的な危険が伴う。山に入ってパーティーの精神的な一致が乱れればそれは次第にパーティーの分裂を来し非常に不愉快な思いをする。更に嵩じて行動に現れてくれば、それはもう全員の肉体的危険に移行したのである。それを防ぐのは洗練されたチームワーク、パーティーの団結あるのみである。

チームワークは各人の良識ある節度、団結は相互理解と友情によって守られる。山のチームワークは他のスポーツのそれより実際的に重要なものである。他のスポーツでチームワークが乱れれば勝負に負けることになるが、山では山に負けてしまうのである。山に負けるという事は結局詰らぬ退脚や遭難の憂き目に会うことに他ならない。



しかし団結は山に入って直ぐに作られる性質のものではなく、日常からの強い団結が必要なものである。我々は個人的にうまくいく繋がりをもっと広げていくべきだ。山仲間は一つの飯盒から飯を分け合い、苦楽を全く共にする兄弟以上のものでなくてはならないのだ。

しかし学校には学年という階級的観念を以て見られるものがあるが、その縦の繋がりは絶対に旧時代的封建的であってはならない。如何に上級生であろうとも不必要に高慢な態度をとってはならないのである。下級生が上級生をたてていくのは当然であるが、上級生が自ら特権を持って下級生を圧迫するような行為思想は排斥すべきである。会員間の繋がりは封建的でなく、我々は現代人としてもっと人間的な友情と良識によらなくてはならない。山岳会員はあらゆる権利に於いて根本的に平等である。現在は未だそんな因習が存在する余地もあるまいが将来会員が増えるに従って極めて起こりがちな悪弊であるから前もって心掛けておくべきだ。自由で明朗な気風を好む我が校の人々にとって封建的束縛は最も不適當とする所である。暁星山岳会の中には常に明朗な開放的な新鮮な雰囲気の流れが流れていなくてはならない。山でのザイルパーティーは全く上下の別なくリーダーの命令に従って平等に団結して行動するように、山仲間は日常平地に於いても血の通った友情というザイルで固く固く結ばれたザイルカメラートでなくてはならないのである。時には例会懇談会を開くとか、また軽い懇親ハイキングをする等も良いことと思う。

次に山の知識についてであるが山に於いて経験をより効果的に助けていくのは知識である。前にも云ったように山の本を読むことは大切である。技術的な本ばかりでなく山の先輩の著した数々の立派な著書に親しむことはあらゆる点で非常に教訓になり、また楽しいものだ。登山者にとって気象地学植物等一応の常識は是非必要だが、「山は楽しむもの」なのだから「登山した以上何々を学んで来なければならない」等、山の知識を過大に評価しそれを以て登山を価値づけるのはどうかと思う。が、しかし、高校時代は記憶力に富み学ぶには最も適した時代だから、科学に限らず社会学でも民族学でも大いに知識を吸収し研究するよう心掛けるのは有意義なことだと思う。将来その道の専門家になるのではない限り、今を除いてはそれを学ぶ機会はまだ与えられないだろうし、お互いの知的程度が高まればそれだけ山が広く楽しくなるのではないだろうか。暁星山岳会は暁星のよい伝統とよい校風に習い、より強く、高度の品格のある気風を育ててほしい。今まで暁星に育ってきた諸君にはそう難しい事ではないと思う。他人が何と言おうと、暁星山岳会員はどこまでも暁星らしく行動するのが一番良く、それを以て誇りとしたい。

次に如何なる場合も念頭に置くべき事は、暁星山岳会に限らず高校山岳部は、大学山岳部とは違うという事である。年齢的に、精神的、肉体的にあらゆる点が相異なるのである。

大学山岳部は肉体的に成熟し、殆ど基礎の完成された者を、更に高度に完成させ実地に行き楽しむものであるのに対し、高校の場合は白紙から基礎を作りつつ楽しむのである。

故にやたらに大学の真似をするのは無益である。高校生は高校生としての登山をすればよいのだ。

こうして基礎が出来れば更に高度の登山を望む人は大学で山岳部に入るもよし、またそうでない人も今後いつまでも山を楽しむことが出来るだろう。

最後に甚だ僭越であるが一言付け加えたい。暁星山岳会員はあくまでも暁星の学生なのだから山故に本分を疎かにするようなことがあってはならない。他の高校に於いてはよく面白くない例を見るようである。この会では絶対にそのような事がないようお願いする次第である。

今まで長々と述べてきたことは要するに、私は暁星山岳会に対して堅実で実力ある正統な登山を行い、暁星らしく、良識ある秩序と品位を保ち、知性に富み、更に円満な友愛溢れる楽しい会になって欲しいと望むのである。これらの事を理想として不撓不屈の精神を以て行動していくうちには、独特にして高級なカラーが生まれて立派な伝統を持つよい会になることは明らかである。

会員も次第に増えていくだろう。私達も出来る限りの助力は惜しまない。会の発展の為に会員は固く団結せよ！明朗であれ！活発であれ！

暁星山岳会の前途に幸あれかしと祈りつつペンを置く。

## 長谷川誠一先生回顧録抜粋 1978年 長谷川誠一（通称アンパン）

1937年3月の卒業生 伊達純は、東芸大の音楽科を出たピアニスト。東京芸術大学教授となった。穂本久は立大を出た。新宿の武蔵野映画劇場の支配人。ある日、訪ねて映画を観せてもらった事がある。もう久しく会ってない。

岩城謙太郎は、早大理工科を出た技術家。今は祖父の家業の「イワキ」の社長。岩城については忘れられない回想がある。暁星に山岳部が出来たのは、彼の発案によるものだ。

長江幹事の許可をいただいて「暁星山岳部」を組織し、わたしが山岳部長に選ばれた。

暁星山岳部としての第一回の登山は、日本北アルプスの白馬岳への登高で、1936年（昭和11年）7月17日～20日のこと。参加者は、五年生の岩城謙太郎、大倉雄二、鬼頭哲人、穂本繁久、四年生の中山利之、鈴木達夫、井上公資。それに長谷川部長。ほかにガイドとして山案内人浅川百合次の全員九名。新宿を発った第一日は麓の村の四ッ谷泊まり。ここで浅川さんと合流。二日目は大雪渓を登り、お花畑を見て、白馬頂上小屋泊まり。三日目に頂上を下って白馬温泉に泊まり。四日目は温泉から下山して四ッ谷、大町を経て松本経由、全員無事新宿着、解散。一人あての費用が十六円三十銭で済んだという時代。翌年には最高峰の槍ヶ岳へ登った。

その後、毎年、夏季休暇に、四、五年生は北アルプスへ。三年生以下は近県の山野へ、一、二泊で出かけた。なお、部員の希望で、毎月一回、日帰りのハイキングを楽しんだ。

それは、1942年3月に私が「暁星」を退職するまで続いた。いま、ひそかに誇りとしていることは、この六年間の山岳部の行事中、一度も事故が起こらなかったことだ。参加者が健康で、注意深い団体行動を取っていられたからでもある。

数江譲治は早大を優秀で出て、早稲田大学の教授になったが、その後会っていない。

百瀬溪渡（モモセワタル）とは親しかったが、卒業後の事は知らない。どうしているだろう。



長谷川誠一先生（右）

名簿にも何の記載もない。村上七郎は東大法科を出て、フジテレビに勤めている。

名越正八の名はよく覚えているが、会ったことがない。慶大を出て名越株式会社に勤めているという。野村芳太郎は、映画監督野村芳亭の息子。慶大文科出で、松竹に入って映画の方を担当。いつの間にか父のように、名監督と呼ばれるようになったが、会う機会がないのは残念。その名映画を見たいと思っている。

大倉雄二は、慶大文科を出て文芸春秋社に入り、編集・出版総務部にいたが、いまは文春を辞めて、大倉集古館に勤務中。昔は山友達でもあったし、いまも親しくしている。足の負傷で、長く療養生活にあったが、いまはもう自家用車を運転して、どこへでも出かけている。その車で去年（1979年）この大沢の家を訪ねてくれた。物故者三十三名のなかに、梅原成四と鬼頭哲人と三輪哲朗がいる。梅原は高名な洋画家梅原龍三郎の息子。東大を出て、その教養学部の教授をしていたの

に、惜しいことをした。

鬼頭は白馬岳へも一緒に行った人。慶大文科を出て、フランス文学者となり、母校の講師でもあった。フランス演劇の戯曲を翻訳して上演されたのもあった、というのに、一つも観ずにしまったのは惜しい。

## 藤本宰智男先生の思い出 2001年3月26日 中村泰徳

藤本先生のお通夜は八王子市元横町の斎場でした。1999年（平成11年）11月4日の肌寒い夜でした。ご一緒したのは、猪野一夫氏 1950年卒、田辺正夫氏 雨宮透氏 1951年卒、山には関係が無いが先輩の成田氏、それに私。たぶん合掌した時の思いは皆同じ「先生のお元気なうちに、一言お礼を言いたかった……」

暁星高校の数学の教諭として、何年間奉職されたかは定かではないが、たぶん1947年（昭和22年）頃から、15年間ほどだろうか。初めてお目に掛かったのは、1950年（昭和26年）の春、高校1年C組の担任の先生としてでした。担当は数学、色白で細身、優しく丁寧な言葉使い。ご一緒した山行は記憶では三回、良く記憶しているのが、1956年（昭和31年）9月 当時活動していた暁峯岳友会と暁星山岳部の合同懇親山行で、大菩薩峠に行った時。当時の先生は三十代、参加者の大半は高校生と中学生22名、半世紀前の事だった。

どうゆう経緯で当時のハイキングクラブ・山岳同好会・暁星山岳会の責任者を藤本先生が引き受けられたかは、今となっては分からない。学校としては、危険が伴う生徒達の山行、出来れば禁止をしたいが、それも出来ず、かといって放置も出来ず。そんな中で、藤本先生が学校と生徒とのパイプ役を引き受けてくださったのでしょ。見返りの無い、そして責任だけが重い、そんな役割を引き受けてくださったのです。ほとんど山には同行しなかった先生だったが、山行計画の報告だけは、必ず提出させ、一言「無理はせず、危険なことは決してしないよう」とおっしゃった。たぶん先生の思いは、駄目といっても、隠れても行く生徒たち、それならば少しでも危険の無いよう、自分が責任を取ってと、私達に対する、大きな愛情であったと確信するのです。

その後、学校から正式な運動部として認知され、森淳寿先生、松本光男先生をはじめとするたくさんの方の山好きの生徒たちを理解する先生方が、藤本先生同様の思いで、部長として重い責任を背負って下さいました。藤本先生を含め、こうした先生方の暖かい理解が、現在の暁星山岳部の存在につながっています。部歴編纂に当たり、あらためてお世話頂いた先生方の、厚い愛情を感じます。

藤本先生、どうも有り難う御座いました。



藤本宰智男先生

## あとがき

暁星山岳部の歴史がやっと一冊にまとまりました。前途多難な事業でしたが、ひとえに中村泰徳OB会会長の強い要望と情熱により実現にこぎつけることができました。その意志に支えられて、OBが一つに集まり各人が与えられた仕事を果たしたことが結果につながったと思います。

部歴の編纂は中村会長と小浦副会長の膨大な記録集めと、それをパソコンに打ち込んでの名簿と山行記録リスト作成からはじまりました。次に小浦副会長を委員長にした部歴編纂委員会がスタートし、委員諸氏によるさらなる記録や写真の収集が行われました。年代によっては連絡がとれずたった一行の記録を埋めるために多くの時間が費やされました。

その間にメンバーの変更もありました。小浦委員長が仕事の関係で鹿児島へ移られ、柴野が副委員長として仕事を引き継ぎました。平井君が資料の整理や打ち込み、頁のデザイン他全ての仕事の中心的役割を果たしてくれました。そしてもちろん編纂委員の諸氏がそれぞれの役割で仕事を進めました。OB会の全員がこの仕事に積極的に協力し、散逸した記録や写真を探し出してくれました。

それでもまだ全ての記録が明確となるには至りませんでした。部員数の少ない学年があり、しかもその人達に連絡を取れなかったりしたからです。それらは今後の課題として、新しい資料が見つければまたこの部歴に書き加えてゆくということになるでしょう。

この仕事を進めることによって、いろいろな喜びもありました。三十年も、それ以上も昔の部員が連絡をくれて会うことができたり、忘れていた山行の、忘れていた古い写真が当時の部報の間から出てきたりしました。

それらの古い写真を見る時、一気に何十年もの月日が逆もどりし、その写真を誰かが撮った時の部室のスエた匂い、あるいは冷たい雪渓の上を渡ってくる風や、毎日食べ飽きたカンパンの味までが鼻や、頬や、口の中に戻ってきました。

写真の中の人物達は少し色アせて、ほんの少しボヤけていますが、成長する肉体に寸法の合わないシャツを着て、微笑んだり、しかめ面をしたり、あるいは誇らしそうにはにかんだりしています。そしてその表情のうしろに一様に見られるものがあります。身体に合わないシャツと同じに、あり余るエネルギーと情熱が毎日の単調な日常の繰り返しの寸法に入り切れないいらだちと不安、そして山へ行くことでやっとその解決を見出したという満足など、つまり一言で言えばそこには「我々の青春」が見られるのです。このアルバムの中で、我々は未完成な、しかし、人生の中で最も色彩やかな時間を過していた我々自身に再会します。

最も多感な時期を山岳部で過ごしたということは、それぞれの部員にとって大きな、貴重な出来事であったことでしょう。そして考えてみると、その機会は多くの先輩達が山岳部を途絶えることなく引き継いでくれたからこそ我々に与えられたものだったのです。

実は今回このような大きな規模で部歴の編纂を行うまで、暁星学園山岳部の歴史がこんなに古く、またこんなに偉大なアルピニスト達を輩出していることに我々の多くが気づきませんでした。舟田大先輩の思い出にもあるように、暁星のガバルダ先生もフランスでは山岳兵でザイル・ワークを山岳部員が教わったそうです。

暁星の山岳部の歴史はおそらくたくさんある中学高校の中でも最も古いものの一つでしょう。こうした部の歴史は我々OBにとってはもちろん貴重なのですが、暁星の現役の人達にもぜひ知って

頂けたらと思います。それが部活動を行う上での励みや誇りになってくれたらと思うのです。山登りと同時に暁星の山岳部のOBの中には、山登りが一流であるのみならず、山登りで培った精神と肉体を生かして立派に仕事をし社会的に高い評価を受け、大きな貢献をしている先輩達が多いということも書き記しておく必要があるでしょう。

この部歴編纂の実現が、今後さらにOB間の結びつきを強くし、また現役の諸君への刺激ともなつて、OB会や山岳部の一層の発展に役立つことをねがって編纂委員を代表してのあとがきといたします。

2001年4月10日

部歴編纂副委員長  
柴野邦彦



部歴の編纂にご協力をいただきましたOBの皆様に心から感謝いたします

暁星山岳部OB会部歴編纂委員

小浦 雅敏 (委員長)  
柴野 邦彦 (副委員長)  
加藤 賢朗  
金川 英雄  
平井 宏  
吉野 興一  
市川 創作  
鷹野 孝治  
五十嵐 啓  
井浪 皓之

発行人：暁星山岳部OB会

**【初版】**

編集：部歴編纂委員会

発行日：2001年5月20日

印刷所：ツル印刷

**【2版】**

編集：部歴編集委員会

発行日：2018年12月25日

印刷所：プリントパック

**【非売品】**







